講座の紹介

中１ 国語（光村図書 教科書対応）を受講するみなさんへ

講座の特徴

- 〈要点がコンパクトにまとまった動画〉＋〈確認テスト〉なので、スキマ時間での学校の授業の復習や定期テスト対策をするのにオススメです。
- 教科書で学習する内容に対応しています。

講師からのメッセージ

- 国語が生活の基本で、「友達とのコミュニケーション」に大切な表現を学ぶための科目だと思ったら、身近でとても楽しいものになるのではないかと考えています。
解いたフリではなく、自分でしっかり理解するために問題を解く。飲み込んで自分のものにして、国語を伸ばしていきましょう。

今中陽子

それでは、一緒にスタディサプリで学習していきましょう！

テキストの使い方

はじめに

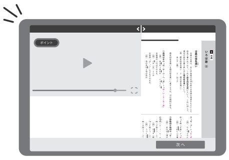
スタディサプリは、スマホやタブレット、PCを使って動画を見たり問題を解いたりすることができますが、テキストを使うと、より学びやすく、理解しやすくなります。テキストはさまざまな使い方ができるので、ぜひ自分に合った使い方をみつけて活用してください。

教科書との対応について

「光村図書　国語」の内容と対応しています。

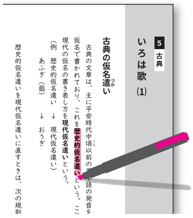
基本の使い方

ステップ1　動画をみる



※読解の講義は動画を見る前に教科書の本文を読んでおきましょう。

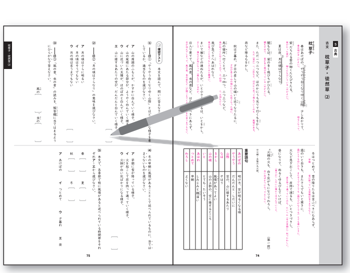
テキストはこう使う！



講師が話したことや大事だと思ったことをメモするとオリジナルのまとめノートになります。

ステップ2　確認テストを解く

テスト前のオススメの使い方



時間があればテスト範囲の講義を最初から復習しましょう。テキストはアプリやウェブで問題を解いた後の復習や、テストに近い問題形式に取り組みたい時に活用できます。

各パートの説明

6 いにしえの心にふれる

蓬萊の玉の枝――「竹取物語」から (2)

古文の読み方

古文では、主語や助詞などがなかったり省略されていたりする。古文を読むときは言葉を補いながら読むとよい。

（例）…竹取の翁といふ者〈が〉ありけり。〈竹取の翁は〉野山にまじりて…

重要語句

よろづ	いろいろ・全ての事
あやしがる	不思議に思う
いと	とても・たいそう
うつくし	かわいらしい
ゐる	座る・いる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い（づか）に直したものとなるように、解答欄（かいとうらん）に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

さぬきのみやつことなむいひける

さぬきのみやつこと［　　　　］

講義名

教科書の表題に対応しています。

関連する知識や、重要なポイントがまとまっています。

重要語句

教科書本文で出てくる重要語句の意味がまとまっています。現代文の重要語句一覧は巻末にあります。

確認テスト

動画で説明した内容について問題が出題されます。解答は別冊で確認できます。

※解説を確認したい場合はアプリでご確認ください。

目次

文法基礎 …… P006

言葉に出会うために
野原はうたう …… P014

1 学びをひらく
はじまりの風 …… P018
言葉1　音声の仕組みや働き …… P022
漢字1　漢字の組み立てと部首 …… P024

2 新しい視点で
ダイコンは大きな根？ …… P028
ちょっと立ち止まって …… P032
言葉2　指示する語句と接続する語句 …… P038

3 言葉に立ち止まる
空の詩　三編 …… P044
言葉3　さまざまな表現技法 …… P046
比喩で広がる言葉の世界 …… P050
文法への扉1　言葉のまとまりを考えよう（言葉の単位） …… P054

4 心の動き
大人になれなかった弟たちに…… …… P062
星の花が降るころに …… P070
言葉4　方言と共通語 …… P078
漢字2　漢字の音訓 …… P080

5 筋道を立てて

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ …… P082
文法への扉2　言葉の関係を考えよう（文の組み立て） …… P090
聴きひたる　大阿蘇 …… P098

6 いにしえの心にふれる

音読を楽しむ　いろは歌 …… P100
蓬萊の玉の枝――「竹取物語」から …… P104
今に生きる言葉 …… P114

7 価値を見いだす

「不便」の価値を見つめ直す …… P118

8 自分を見つめる

少年の日の思い出 …… P126
文法への扉3　単語の性質を見つけよう（単語の分類） …… P138
二十歳になった日 …… P144
漢字3　漢字の成り立ち …… P146
ぼくが　ここに …… P148

重要語句一覧 …… P150

文法基礎（1）

文節

文を自然な発音や意味となる範囲（はんい）でできるだけ短く区切ったまとまりを**文節**という。

〈文〉　鳥が空を飛ぶ。

〈文節〉　鳥が（文節）／空を（文節）／飛ぶ。（文節）

※文に「ネ」を入れて区切ってみるとよい。

文節は、文の中での働きによって、主語・述語・修飾（しゅうしょく）語・接続語・独立語などに分けられる。

①主語・述語

「何（だれ）が」を表す文節を主語、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある（いる）・ない」を表す文節を述語という。

（例）　鳥が（主語）　／　飛ぶ。（述語）

②修飾語

「何の」「どんな」「いつ」「どこで」「何を」「どのように」など、他の部分をくわしく説明する文節を修飾語という。

（例）　白い（修飾語）　／　鳥が　／　青い（修飾語）　／　空を（修飾語）　／　飛ぶ　。

③接続語

文や文節をつなぐ文節を接続語という。

（例）　晴れた。　／　だから、（接続語）　／　外で　／　遊んだ。

④独立語

他の文節と直接は結びつかない文節を独立語という。

（例）　ああ、（独立語）　／　すばらしい　／　景色だ。

確認テスト

(1) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

庭 で ス ズ メ が 鳴 く 。

(2) 次の①～⑤の各文の――線部の文節の種類を、それぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

① 空に美しい虹がかかる。 〔　　〕

② 街に強い風が吹いた。 〔　　〕

③ おや、あれは何だ。 〔　　〕

④ 急いだ。しかし、遅れた。 〔　　〕

⑤ この建物は図書館です。 〔　　〕

ア 主語　**イ** 述語　**ウ** 修飾語
エ 接続語　**オ** 独立語

(3) 例に従って、次の文に含まれる主語に＝＝線を、述語に――線を引きなさい。

（例）赤い 花が 咲く。

今日、私は 電車で 博物館に 行った。

(4) 次の～～線部の修飾語は、どの文節を修飾しているか。記号で答えなさい。

私は 昨日、公園で 友達に 会った。

ア 私は　**イ** 昨日　**ウ** 友達に　**エ** 会った

〔　　〕

単語

それだけで意味をもつ最も小さな言葉の単位を**単語**という。

〈文節〉 鳥が（文節）／青い（文節）／空を（文節）／飛ぶ（文節）。

〈単語〉 鳥（単語）／が（単語）／青い（単語）／空（単語）／を（単語）／飛ぶ（単語）。

●自立語・付属語

単語は、大きく、自立語と付属語に分けられる。

・**自立語**…単独で文節を作ることができる単語。その単語だけで言葉のイメージが浮かぶことが多い。

・**付属語**…単独では文節を作ることができず、自立語と共に使われる単語。その単語だけでは言葉のイメージが浮かばないことが多い。

（例） 鳥（自）が（付）／空（自）を（付）／飛ぶ（自）。　おにぎり（自）を（付）／食べ（自）た（付）。

●活用

文中で、言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化することを、**活用**という。

（例）
話す＋た → 話した
明るい＋た → 明るかった
静かだ＋た → 静かだった
走ります＋た → 走りました

●品詞

単語を分類したものを**品詞**という。単語は10種類の品詞に分けられる。

- 単語
  - **自立語**
    - 活用する — 述語になる（用言）
      - 動作・作用・存在を表す・終止形が「ウ段」で終わる — **動詞**
      - 状態・性質を表す
        - 終止形が「い」で終わる — **形容詞**
        - 終止形が「だ・です」で終わる — **形容動詞**
    - 活用しない
      - 主語になる（体言） — 物事の名前を表す・物事を指し示す — **名詞**
      - 修飾語になる
        - 主に用言を修飾する — **副詞**
        - 常に体言を修飾する — **連体詞**
      - 接続語になる — **接続詞**
      - 独立語になる — **感動詞**
  - **付属語**
    - 活用する — **助動詞**
    - 活用しない — **助詞**

確認テスト

(1) 次の文を単語に分け、斜線(しゃせん)（／）で区切りなさい。

庭 で ス ズ メ が 鳴 く 。

(2) 例に従って、次の文の自立語を□で囲み、付属語に——線を引きなさい。

（例）［鳥］が｜［空］を｜［飛ぶ］。

私 は 自 転 車 で 駅 に 行 く 。

(3) 次の①～④の品詞が、自立語なら**ア**、付属語なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① 名詞〔　　〕　② 動詞〔　　〕

③ 助詞〔　　〕　④ 助動詞〔　　〕

(4) 次の文の（　　）に当てはまるように、「歩く」という単語の形を変化させなさい。

私は毎朝、公園を（　　）ます。

〔　　〕

(5) 次の文の（　　）に当てはまるように、「白い」という単語の形を変化させなさい。

雪で外が（　　）なった。

〔　　〕

用言

自立語の中で、**活用があり**、**単独で述語になる**ことができるものを**用言**という。品詞では、**動詞・形容詞・形容動詞**が用言にあたる。

(例)花が咲(さ)く。　花が赤い。　花がきれいだ。

●**動詞**……動作・作用・存在を表す。言い切りが「**ウ段**」で終わる。

(例)話す・咲く・いる

●**形容詞**……状態・性質を表す。言い切りが「**い**」で終わる。

(例)明るい・楽しい・赤い

●**形容動詞**…状態・性質を表す。言い切りが「**だ・です**」で終わる。

(例)静かだ　・きれいだ　・立派だ
静かです・きれいです・立派です

体言

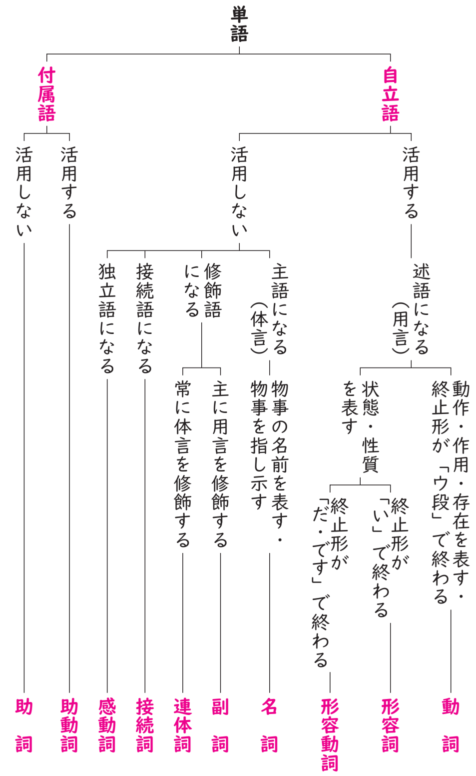
自立語の中で、活用がなく、**主語になる**ことができるものを**体言**という。品詞では、**名詞**が体言にあたる。

(例)空が青い。

●**名詞**……物事の名前を表す。物事を指し示す。活用しない。

(例)山・私・これ

・品詞分類表



確認テスト

(1) 次の各品詞が、用言なら**ア**、体言なら**イ**、それ以外であれば**ウ**で、それぞれ答えなさい。

① 形容詞〔　　〕　② 形容動詞〔　　〕
③ 助詞〔　　〕　④ 動詞〔　　〕
⑤ 副詞〔　　〕　⑥ 名詞〔　　〕

(2) 次の①～⑥の品詞を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

① 美しい〔　　〕　② 読む〔　　〕
③ 辞書〔　　〕　④ のどかだ〔　　〕
⑤ 見る〔　　〕　⑥ 海〔　　〕

ア 動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 名詞

(3) 例に従って、次の――線部の単語を言い切りの形に直しなさい。

（例）話した → 〔話す〕

動きます。〔　　〕

(4) 例に従って、次の――線部の単語を言い切りの形に直しなさい。

（例）明るかった → 〔明るい〕

うれしくなる。〔　　〕

その他の自立語

●**副詞**……状態や程度などを表す。主に用言を修飾（しゅうしょく）する。

(例) ゆっくり 歩く（用言）。　とても 多い（用言）。

●**連体詞**……常に体言を修飾する。

(例) この 花（体言）　大きな 木（体言）

●**接続詞**……前後の文や語をつなぐ。接続語になる。

(例) だから・しかし

●**感動詞**……感動・呼びかけ・挨拶（あいさつ）・応答を表す。独立語になる。

(例) ああ・ねえ・おはよう・はい

付属語

●**助詞**……自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。活用しない。

(例) 鳥が飛ぶ。　私も笑う。　強くて優しい。　何ですか。

●**助動詞**……用言・体言や他の助動詞などに付いて、意味を付け加えたり、話し手の判断を示したりする。活用する。

(例) 走らない。　走った。　中学生だ。

・品詞分類表

- **単語**
  - **自立語**
    - 活用する ― 述語になる（用言）
      - 動作・作用・存在を表す・終止形が「ウ段」で終わる ― **動詞**
      - 状態・性質を表す
        - 終止形が「い」で終わる ― **形容詞**
        - 終止形が「だ・です」で終わる ― **形容動詞**
    - 活用しない
      - 主語になる（体言） ― 物事の名前を表す・物事を指し示す ― **名詞**
      - 修飾語になる
        - 主に用言を修飾する ― **副詞**
        - 常に体言を修飾する ― **連体詞**
      - 接続語になる ― **接続詞**
      - 独立語になる ― **感動詞**
  - **付属語**
    - 活用する ― **助動詞**
    - 活用しない ― **助詞**

確認テスト

(1) 次の①〜④の――線部が、副詞なら**ア**、連体詞なら**イ**、それ以外なら**ウ**で、それぞれ答えなさい。

① あの山。 〔　　〕

② 高い山。 〔　　〕

③ 早く起きる。 〔　　〕

④ いきなり起きる。 〔　　〕

(2) 例に従って、次の〰〰線部の副詞が修飾している文節に――線を引きなさい。

(例) ゆっくり　話す。

私たちは　のんびり　公園を　歩いた。

(3) 例に従って、次の文に含（ふく）まれる連体詞に〰〰線を引きなさい。

(例) この　花。

私はそんな話は知りません。

(4) 次の各文の――線部が、接続詞なら**ア**、感動詞なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① もう出発の時間になった。さあ、そろそろ出かけようか。

② みんなで落とし物を探した。ところが、どこにも見つからない。

① 〔　　〕　② 〔　　〕

(5) 例に従って、次の文に含まれる助詞・助動詞に――線を引きなさい。

(例) 白い　鳥　が　飛ん　だ。

私　は　毎　朝、リ　ン　ゴ　を　食　べ　ま　す　。

野原はうたう（1）

工藤　直子

詩の種類

　詩は、作者の思いや感動などをリズムをもつ言葉で表現したもので、比較的短い言葉で表現されることが多い。詩にはさまざまな種類があるが、言葉・形式・内容に注目すると、次のように分けられる。

言葉	**文語詩**…昔の書き言葉（文語）を用いた詩。 **口語詩**…現代の話し言葉（口語）を用いた詩。
形式	**定型詩**…音数に一定のきまりがある詩。 **自由詩**…音数に定型などのきまりがない詩。 **散文詩**…普通の文章のように書かれた詩。
内容	**叙情詩**…作者の感情をうたった詩。 **叙景詩**…自然の風景をうたった詩。 **叙事詩**…神話や歴史的事件をうたった詩。

韻文と散文

　言葉や音数に一定の規則やリズムをもつ文を**韻文**といい、韻文ではない普通の文章を**散文**という。多くの詩は韻文に含まれる。

・韻文…（大部分の）詩、短歌、俳句など。
・散文…説明、論説、物語、小説、随筆など。

表現

　多くの詩は、一文を短く**行分け**し、リズムや感動を表現する。また、一つの詩を内容で分けたまとまりを**連**といい、一行空けて区切られていることが多い。

●主な表現技法

・**比喩**…ある物事を、似たところのある別の物事を使って表現する。
　直喩（明喩）…「まるで〜」「〜ようだ」などの言葉を使う。
　隠喩（暗喩）…「まるで〜」「〜ようだ」などの言葉を使わない。
　擬人法…人でないものを人に見立てる。
・**体言止め**…文末を体言（名詞）で止める。
・**倒置**…普通の言葉の並べ方から、語順を入れ替える。
・**対句**…言葉を、形や意味が対応するように並べる。
・**反復**…同じ言葉を繰り返す。
・**省略**…文章を途中で止め、後の言葉を省く。

(1) 次の詩の種類に当てはまるものを二つ選びなさい。

虫　　八木(やぎ)重吉(じゅうきち)

虫がないている
いま　ないておかなければ
もう駄目(だめ)だというふうにないている
しぜんと
涙(なみだ)をさそわれる

ア　文語詩　　イ　口語詩
ウ　定型詩　　エ　自由詩　　オ　散文詩

〔　　・　　〕

(2) 次の説明に当てはまるものをそれぞれア〜ウから選びなさい。

① 自然の風景をありのままにうたった詩。
② 神話や歴史的な事件などをうたった詩。
③ 作者の感動や心の動きをうたった詩。

ア　叙事詩　　イ　叙情詩　　ウ　叙景詩

①〔　　〕②〔　　〕③〔　　〕

(3) 次の各文で用いられている比喩の種類をそれぞれア〜ウから選びなさい。ただし同じ記号を二度使ってはならない。

① 言葉は人と人の間の橋だ。
② 言葉はまるで人と人の間の橋のようだ。
③ 太陽が笑っている。

ア　直喩　　イ　隠喩　　ウ　擬人法

①〔　　〕②〔　　〕③〔　　〕

(4) 次の各文で用いられている表現技法として適当なものを、それぞれア〜ウから選びなさい。

① 花が咲(さ)く。花が咲く。
② 花が咲いている。鳥が飛んでいる。
③ 咲いている、さくらの花が。

ア　倒置　　イ　対句　　ウ　反復

①〔　　〕②〔　　〕③〔　　〕

野原はうたう (2)

工藤　直子

あしたこそ　　たんぽぽ　はるか

ひかりを　おでこに
くっつけて
はなひらく　ひを
ゆめにみて
たんぽぽわたげが
まいあがります

①とんでいこう　どこまでも
あした
たくさんの「こんにちは」に
②であうために

おれはかまきり　　かまきり　りゅうじ

おう　なつだぜ
おれは　げんきだぜ
あまり　ちかよるな
おれの　こころも　かまも
③どきどきするほど
ひかってるぜ

おう　あついぜ
おれは　がんばるぜ
もえる　ひをあびて
かまを　ふりかざす　すがた
わくわくするほど
きまってるぜ

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) それぞれの詩の季節を漢字一字で答えなさい。

あしたこそ〔　　〕　おれはかまきり〔　　〕

(2) それぞれの詩は何連で構成されているか。漢数字で答えなさい。

あしたこそ〔　　〕　おれはかまきり〔　　〕

(3) 「あしたこそ」と「おれはかまきり」の詩の種類を選びなさい。

ア 文語定型詩　イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩　エ 口語自由詩

〔　　〕

(4) ――線①「とんでいこう　どこまでも」の行で用いられている表現の説明として適当なものを選びなさい。

ア 普通(ふつう)の言葉の並べ方から語順が入れ替(か)わっている。
イ 同じ言葉が繰(く)り返されている。
ウ 言葉が形や意味が対応するように対(つい)に並べられている。

〔　　〕

(5) ――線②「であうために」とあるが、であうためにどうするのか。適当なものを選びなさい。

ア くっつけて　イ はなひらく
ウ まいあがります　エ とんでいこう

〔　　〕

(6) ――線③「どきどきするほど」と形の上で対になっている行を第二連から探し、その最初の三字を書きぬきなさい。

□□□

(7) それぞれの詩にうたわれている内容を選びなさい。

ア 未来を夢見て遠くまで飛んでいこうとする気持ち。
イ 花開いたことを喜び、舞(ま)い上がる気持ち。
ウ 暑さで不機嫌(ふきげん)になり、周りに八つ当たりする様子。
エ 活力がみなぎり、誇(ほこ)らしげな様子。

あしたこそ〔　　〕　おれはかまきり〔　　〕

はじまりの風 (1)

蜂飼 耳

（中学生になったら新しいことを始めたいと思っていたレンは、何を始めたらよいかがわからず、周りの友達が小学生のうちからやっていた音楽やスポーツを続ける中、取り残されたような気がしていました。ある日レンは学校の廊下に掛けられていた絵に引きこまれ、次の日曜日にその絵に描かれていたいちょう並木のもとを訪れました。）

並木に沿って、しばらく歩くと、時計が見えてきた。①レンは、はっとした。ちょうど、ここから見た風景だ、②あの絵。そう気づいたのだ。絵の中では、並木のすぐそばに時計が描かれていたから、まさにこの位置からの眺めにちがいない。

絵の作者も、ある日、ここに立って辺りを見たのだろう。同じ場所に今、自分も立っている。作者が描いたのと同じ角度から、風景を見ている。この発見に、レンは、ちょっとうれしくなった。ふわりと、風が吹いてきた。やわらかな春の風は、レンの前髪をゆらして過ぎていった。

作者がここに立った季節は、いつだったのだろうか。レンにはわからない。なぜなら、絵の中のいちょう並木は、ピンクと青と緑と黄色で描かれていたからだ。かなり大胆な色使いだが、作者の心には、そのように映ったのだろう。

（中略　翌日の月曜日、レンはまた廊下のいちょう並木の絵を見ていました。）

この絵に、そんなにも引きつけられることが、自分でも不思議だった。

「絵が好きなんだね。」

後ろで声がした。レンは振り向いた。美術の先生だった。

「この前も、ここで見ていたでしょう。」

「はい。これ、あのいちょう並木ですよね。」

「ええ、きっと。これを描いた人、この学校の卒業生なんですよ。」

「そうなんですね。」

先生はレンの横に立った。だまって絵を眺める先生のとなりで、レンもその風景を見つめた。

「見えない風を描いているっていうところがいいよね。」

「風――。」

先生はにっこりした。それから、楽しそうな足取りで美術室へ向かうと、ドアを開け、中に入った。ドアが閉まると、辺りはまた静かになった。薄暗い廊下を、窓からの光が照らしている。

もう一度、レンは、ゆっくりと絵を眺めた。確かに、見えないはずの風が表現されている気がした。少し、どきどきした。自分も絵を描いてみたい、と思った。窓から差しこむ光が少し強くなり、廊下はさっきよりも明るくなった。

そうだ、絵を描いてみよう。新しいことをやってみよう。

ピンクと青と緑と黄色が、色とりどりのそよ風のように動きだす気がした。③レンの心にも、ざわざわと風が吹き始めた。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「レンは、はっとした」とあるが、このときレンは何に気づいたのか。適当なものを選びなさい。

ア　絵に描かれた風景は、いちょう並木とそのそばにある時計だったのだということ。

イ　絵に描かれた風景は、ちょうど今レンが立っている位置から見たものだということ。

ウ　絵に描かれた風景は、作者の心に映ったように描かれていたのだということ。

〔　　〕

(2)　――線②「あの絵」の説明として適当なものを選びなさい。

ア　春のいちょう並木が風に吹かれてゆれる様子を写実的に描いている。

イ　秋にいちょう並木が次第に色づいていく風景が緻密に描かれている。

ウ　作者が捉えた　いちょう並木の姿が、大胆な色づかいで描かれている。

〔　　〕

(3)　――線③「レンの心にも、ざわざわと風が吹き始めた」とあるが、この表現が表していることとして適当なものを選びなさい。

ア　絵を描いてみたいという気持ちが芽生え、レンの心に変化が生まれていること。

イ　絵に見えない風が描かれていると知り、レンが絵に引きつけられ始めたこと。

ウ　絵のことで美術の先生に突然話しかけられ、レンが動揺してしまっていること。

〔　　〕

はじまりの風 (2)

蜂飼 耳

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

場面1	場面2	場面3
中学生になったばかりのある日、学校の廊下 レンは美術室へと続く廊下に絵が掛けられていることに気づき立ち止まった。絵は町の一角にあるいちょう並木と時計を描いたもので、レンはその絵に引きこまれた。 レンは中学生になったら新しいことを始めたいと思っていたが、何を始めたらよいかがわからず、周りの友達が小学生のうちからやっていた音楽やスポーツを続ける中、取り残されたような気がしていた。	**次の日曜日の午後、図書館からの帰り道** 図書館からの帰り道、レンはいちょう並木を訪れた。並木に沿ってしばらく歩き、時計が見えてきたころ、レンは絵に描かれていたのが自分が今立っている場所からの風景だと気づいた。絵の作者と同じ場所に立って風景を見ていることに、レンは少しうれしくなった。	**月曜日、学校の廊下** また絵を見ていたレンは、美術の先生に声をかけられた。絵に見えない風が描かれているということを聞いたレンは、自分も絵を描いてみたいと思った。レンの心にざわざわと風が吹き始めた。

場面

物語や小説は、時や場所などによっていくつかの**場面**に分けることができる。登場人物の心情は場面ごとに変化することがある。次のような表現に注目して心情の変化を捉えるとよい。

・心情を直接表す表現
(例)取り残されたような気がした。
・心情がわかる発言、行動
(例)さっきよりもずっと軽い足取りで、……
・人物の心情を反映した風景や場面の描写(情景描写)
(例)窓から差しこむ光が少し強くなり、廊下はさっきよりも明るくなった。

確認テスト

(1) 次の各文の出来事を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 絵の作者が立っていた場所に、今自分も立っているのだと気づいたレンは、軽い足取りで家に帰った。

イ 学校の廊下に掛けられている絵に気づいたレンは、見覚えのある風景を描いたその絵に引きこまれ、絵を眺めた。

ウ 先生が美術室に入っていった後、もう一度絵を眺めたレンは、確かに見えない風が表現されていると感じた。

〔　　→　　→　　〕

(2) 本文の最後の場面では、廊下に窓から光が差しこむ様子が描かれている。この表現が表すこととして適当なものを選びなさい。

ア 絵の作者が立っていた場所に自分も立つことができたレンが、改めて絵に引きつけられていること。

イ 薄暗い廊下に一人残されたレンが、美術室の中にいる上級生たちに取り残されたような疎外感をもったこと。

ウ 何を始めたらよいかわからずにいたレンが、絵を描いてみようと思い、心に変化が生まれていること。

〔　　〕

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 中学生になったら絵を描いてみたいとずっと思っていたレンは、なかなか美術部に入る決心がつかず、取り残されたような気がしていた。

イ 学校の廊下に絵が掛けられていることに気づいたレンは、その絵の風景がこれまで見たこともないようなものだったので思わず引きこまれた。

ウ 絵に見えない風が描かれているということを聞いたレンは、自分も絵を描いてみたいと思い、中学校で新しくやってみたいことが見つかった。

〔　　〕

音声の仕組みや働き

母音（ぼいん）・子音（しいん）

日本語の音は、母音と子音の組み合わせでできている。

・**母音**…a・i・u・e・o

・**子音**…k・g・s・z・t・dなど

日本語は子音が連続することは少ないが、英語では子音が連続することがよくある。また、日本語の言葉は母音で終わることが多いが、英語の言葉は子音で終わることも多い。

音の高さ・強さ

発音するときに音の高さや強さが変わると、言葉の意味が変わったり、言葉が強調されたりする。

・**アクセント**…一つの言葉の中での音の高低。
同じ音の言葉でも、アクセントが違う（ちが）と意味が異なることがある。
また、同じ言葉でも方言によってアクセントが異なることもある。
（例・東京でのアクセント）

・**イントネーション**…文などの言葉のまとまり全体での音の上がり下がりの調子（抑揚（よくよう））。
文末を上げて発音することで問いかけを表すことができる。
（文末を下げて）「今、忙（いそが）しい。」
（文末を上げて）「今、忙しい？」

・**強調**…文中の特に伝えたい部分を強調して発音する。
（「九時」を強調するとき）「ここに**九時に**来てください。」
（「ここ」を強調するとき）「**ここに**九時に来てください。」

確認テスト

(1) 次の音が、母音であれば**ア**、子音であれば**イ**で、それぞれ答えなさい。

① a　② d

③ i　④ k

(2) 次の言葉に含(ふく)まれる子音の数を算用数字で答えなさい。

あさがお

(3) 次の音は**ア**と**イ**のどちらか。それぞれ選びなさい。

① い　② ろ

③ ぱ　④ ど

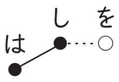
ア　母音のみの音

イ　子音と母音からなる音

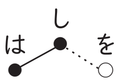
(4) 次の――線部について、共通語でのアクセントは**ア**と**イ**のどちらか。それぞれ選びなさい。

① 橋を渡(わた)る。　② 端(はし)を通る。

ア



イ

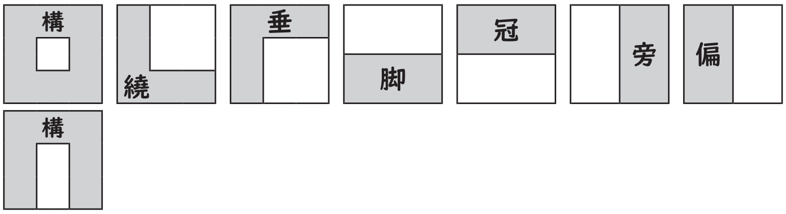


①　②

漢字1 漢字の組み立てと部首(1)

漢字の組み立て

漢字はいくつかの部分を組み立てたものが多く、それぞれの部分は位置によって次のように分類される。



- **へん** （例）にんべん
- **つくり** （例）りっとう
- **かんむり** （例）うかんむり
- **あし** （例）れんが
- **たれ** （例）まだれ
- **にょう** （例）しんにょう
- **かまえ** （例）くにがまえ・もんがまえ

部首

漢字を字形で分類するときに、その基準となる共通の部分を**部首**という。部首は、位置によって形や呼び名が変わることがある。

（例）心部…思（こころ）・情（りっしんべん）・恭（したごころ）

部首はその漢字の中心的な意味を表す部分になっていることが多い。

（例）「持」（て・てへん）「聞」（みみ）

〈動植物に関係する部首〉

木	**き・きへん**	（例）木・材・橋
禾	**のぎ・のぎへん**	（例）秋・税・稲
艹	**くさ・くさかんむり**	（例）花・草・菜
竹	**たけ・たけかんむり**	（例）竹・筆・節
鳥	**とり**	（例）鳥・鳴・鶏
隹	**ふるとり**	（例）雄・雌・難

※部首の扱い（あつか）は、漢和辞典によって異なる場合がある。

確認テスト

(1) 次の①〜④の――線部を漢字に直したとき、その漢字の「へん」の呼び名は何か。適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①試験をサイ点する。〔　〕
②直センを引く。〔　〕
③木陰（こかげ）でキュウ息する。〔　〕
④会ギに出席する。〔　〕

ア にんべん　イ てへん
ウ いとへん　エ ごんべん

(2) 次の①〜③の――線部を漢字に直したとき、その漢字の「つくり」の呼び名は何か。適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①定期ヨ金。〔　〕
②失敗は成コウのもと。〔　〕
③新聞の休カン日。〔　〕

ア りっとう　イ ちから　ウ おおがい

(3) 次の①・②の――線部を漢字に直したとき、その漢字の「かまえ」の呼び名は何か。それぞれ答えなさい。

①物事がカン連している。〔　〕
②学校の周イを歩く。〔　〕

(4) 次の①〜④の――線部を漢字に直したとき、その漢字の部首が「き・きへん」ならア、「のぎ・のぎへん」ならイで、それぞれ答えなさい。

①学コウに通う。〔　〕
②コク物の収穫（しゅうかく）。〔　〕
③植物のシュ子。〔　〕
④道路のヒョウ識。〔　〕

(5) 次の――線部をそれぞれ漢字に直しなさい。

①建築物のコウ造。〔　〕
②大学のコウ義を受ける。〔　〕
③すばらしい業セキ。〔　〕
④円の面セキを求める。〔　〕

(6) 次の――線部をそれぞれ漢字に直しなさい。

①チョ作物。〔　〕
②カン楽器。〔　〕

漢字の組み立てと部首(2)

主な部首

部首の中には、位置によって形や呼び名が変わるものがある。

水	みず・したみず	(例) 水・氷・泉・泰
(氵)	さんずい	(例) 河・海・洋・港
火	ひ・ひへん	(例) 火・灰・灯・焼
(灬)	れんが(れっか)	(例) 照・熟・熱
心	こころ・したごころ	(例) 心・意・想・慕
(忄)	りっしんべん	(例) 快・性・情・慣
刀	かたな	(例) 刀・分・切・初
(刂)	りっとう	(例) 判・利・刻・剣

※辞典によっては形が異なるものは部首を分けていることもある。

呼び名から部首の表す意味がわかりづらいものもある。

宀	うかんむり	(例) 宅・客・室・家
广	まだれ	(例) 庁・店・府・庫
彳	ぎょうにんべん	(例) 往・径・徐・復
辶	しんにょう(しんにゅう)	(例) 通・進・運・遠
廴	えんにょう(えんにゅう)	(例) 延・建

部首の中には形がよく似たものもあるので注意する。

示	しめす	(例) 示・祭・禁
(礻)	しめすへん	(例) 社・祝・神
衣	ころも	(例) 衣・装・裁
(衤)	ころもへん	(例) 被・補・複

阝	おおざと	(例) 郊・郡・都
阝	こざとへん	(例) 陸・階・陽

また、形がほとんど同じでも、元となった漢字が異なるものもある。

月	つき	(例) 朗・期
月	にくづき	(例) 胸・腹

※にくづきは肉がへんになるときの形。辞典によっては同じ部首にまとめていることもある。このほか、舟の形が省略されたもの(ふなづき)も月部に含まれることが多い。

確認テスト

(1) 次の中から、——線部の漢字の部首が①「さんずい」であるものと、②「れんが（れっか）」であるものをそれぞれ選びなさい。

ア レイ蔵庫。　**イ** 水エイ教室。
ウ 地ネツ発電。　**エ** 熱帯ギョ。

①〔　　〕　②〔　　〕

(2) 次の——線部の漢字の部首をそれぞれ選びなさい。

①航クウ機。〔　　〕　②積乱ウン。〔　　〕
③温シツ栽培(さいばい)。〔　　〕

ア うかんむり　**イ** あなかんむり　**ウ** あめかんむり

(3) 次の——線部の漢字の部首をそれぞれ選びなさい。

①草ゲンの風景。〔　　〕　②気象チョウ。〔　　〕
③市立ビョウ院。〔　　〕

ア まだれ　**イ** がんだれ　**ウ** やまいだれ

(4) 次の——線部の漢字の部首をそれぞれ選びなさい。

①開催(かいさい)をエン期する。〔　　〕　②荷物を配タツする。〔　　〕
③みんなでキ立する。〔　　〕

ア しんにょう　**イ** えんにょう　**ウ** そうにょう

(5) 次の——線部が、「しめす・しめすへん」なら**ア**、「ころも・ころもへん」なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

①人類のソ先。〔　　〕　②水分をホ給する。〔　　〕
③幸フクを願う。〔　　〕　④脳リに浮(う)かぶ。〔　　〕

(6) 次の——線部が、「おおざと」なら**ア**、「こざとへん」なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

①国サイ連合。〔　　〕　②ユウ便局。〔　　〕

(7) 次の——線部をそれぞれ漢字に直しなさい。

①漢字のフク習。〔　　〕　②空フクを満たす。〔　　〕
③フク雑な問題。〔　　〕

ダイコンは大きな根？(1)

稲垣 栄洋

2 それでは、①私たちが普段食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょうか。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のように思うかもしれませんが、そんなに単純ではありません。

3 その疑問に答えるために、ダイコンの芽であるカイワレダイコンを見ながら考えてみます。カイワレダイコンは、双葉と根、その間に伸びた胚軸とよばれる茎から成り立っています。根の部分には、種から長く伸びた主根と、主根から生えている細いひげのような側根があります。

4 ②これに対して、私たちが食べるダイコンをよく見てみると、下のほうに細かい側根が付いていたり、側根の付いていた跡に穴が空いていたりするのがわかります。ダイコンの下のほうは主根が太ってできているのです。③いっぽう、ダイコンの上のほうを見ると、側根がなく、すべすべしています。この上の部分は、根ではなく胚軸が太ったものです。つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

（中略）

7 ……ダイコンは下にいくほど辛みが増していきます。ダイコンのいちばん上の部分と、いちばん下の部分を比較すると、下のほうが十倍も辛み成分が多いのです。ここには、④植物の知恵ともいえる理由がかくされています。

8 根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてきます。これは、いずれ花を咲かせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から身を守るため、辛み成分を蓄えているのです。

（2～8は教科書本文における形式段落番号を表します）

「問い」と「答え」に着目する

説明的な文章では、読者に「問い」を投げかけて、これから説明したい内容を示すことがある。「問い」とそれに対する「答え」に注目すると、文章の内容がとらえやすくなる。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①の問いに対する答えを表す一文を探し、その最初の三字を書きぬきなさい。

(2) ——線②「これに対して」とあるが、この部分では何と何が比較されているか。二つ選びなさい。

ア ダイコン　イ カイワレダイコン
ウ 双葉　エ 胚軸　オ 主根　カ 側根

［　・　］

(3) ——線③「いっぽう」とあるが、この部分では何と何が比較されているか。二つ選びなさい。

ア カイワレダイコンの双葉　イ カイワレダイコンの根
ウ ダイコンの上のほう　エ ダイコンの下のほう

［　・　］

(4) カイワレダイコンの説明として適当なものを選びなさい。

ア カイワレダイコンはダイコンの芽である。
イ カイワレダイコンの双葉と茎の間には胚軸がある。
ウ カイワレダイコンの主根は、側根から生えている。

［　］

(5) ダイコンの説明として適当なものを選びなさい。

ア ダイコンに穴が空いている部分は主根が付いていた跡である。
イ ダイコンの下のほうは側根が太ってできている。
ウ ダイコンの上のほうは側根がなく、すべすべしている。

［　］

(6) ——線④「植物の知恵」についてまとめた次の文の（　）に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ三字で書きぬきなさい。

根には、花を咲かせるための（A）が運ばれてくるので、（B）から守るために辛み成分を蓄えている。

A

B

ダイコンは大きな根？(2)

稲垣 栄洋

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

区分	段落	内容
導入	1	野菜は植物なので、根・葉・茎・花・実などの器官からできている。 ・例 キャベツ、レタス…葉　トマト、ナス…実
ダイコンの白い部分はどの器官か	2	**問い** ダイコンの白い部分はどの器官か。
	3	・カイワレダイコン（ダイコンの芽） 双葉・胚軸（茎）・根（主根＋側根）から成る。
	4	比較 ・ダイコン 上のほう…胚軸が太ったもの。 下のほう…主根が太ったもの。 比較 **答え** ダイコンの白い部分は、胚軸と根の二つの器官。
二つの器官はなぜ味が違うか	5	**問い** 二つの器官（胚軸と根）はなぜ味が違うか。
	6	**答え（胚軸）** 胚軸は、根で吸収した水分を葉に送り、葉で作られた糖分などの栄養分を根に送る。 → 胚軸は水分が多く、あまみがある。
	7	根は、下にいくほど辛みが増す。ここには植物の知恵がかくされている。
	8	**答え（根）** 根には葉で作られた栄養分が運ばれる。栄養分は花を咲かせる時期に使う大切なものなので、虫の害から守るために辛み成分を蓄えている。 → 根は下にいくほど辛い。
	9	ダイコンの味の違いを活用した調理
まとめ	10	**まとめ** ダイコンの白い部分は異なる器官から成り、器官の働きによって味が違う。 野菜を植物として観察すると、興味深い発見があり、野菜の新しい魅力が見えてくる。

（1～10は教科書本文における形式段落番号を表します）

段落

文章を内容で区切ったまとまりを**段落**という。段落の役割に注目すると、文章の内容がとらえやすくなる。

・段落の役割の例
　導入、話題提示、具体例、理由、まとめ、主張

一字下げて区切られたまとまりを**形式段落**といい、形式段落をさらに内容ごとにまとめたものを**意味段落**ということもある。

確認テスト　教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の説明に合う形式段落を、それぞれ段落番号で答えなさい。

① 毎日食べる野菜の器官に注目させ、これから説明する内容の導入となっている。
② ダイコンの白い部分はどの器官なのかという問いを投げかけている。
③ なぜダイコンの胚軸と根の部分は味が違うのかという問いを投げかけている。
④ これまでの説明をまとめ、野菜に対する新たな見方を呼びかけている。

①〔　　〕　②〔　　〕　③〔　　〕　④〔　　〕

(2) 「ダイコンの白い部分はどの器官か」という問いに対する答えとなるように、（　　）に入る言葉をそれぞれ選びなさい。

ダイコンの白い部分は、上は（①）が、下は（②）が太ったもので、二つの器官から成っている。

ア 芽　**イ** 双葉　**ウ** 胚軸　**エ** 主根　**オ** 側根

①〔　　〕　②〔　　〕

(3) 「ダイコンの二つの器官はなぜ味が違うか」という問いに対する答えとなるように、（　　）に入る言葉をそれぞれ選びなさい。

ダイコンの胚軸の部分は、根で吸収した水分を葉に送り、葉で作られた糖分などの（①）を根に送る役割があるため、水分が多く、（②）がある。いっぽう、根の部分は、花を咲かせるための（①）を虫の害から守るために（③）成分を蓄えており、下にいくほど（③）が増す。

ア あまみ　**イ** 辛み　**ウ** 栄養分　**エ** 細胞（さいぼう）

①〔　　〕　②〔　　〕　③〔　　〕

(4) 辛みの少ない大根下ろしを作るときにはどうすればよいか。適当なものを二つ選びなさい。

ア ダイコンの上のほうを使う。
イ ダイコンの下のほうを使う。
ウ ダイコンを直線的に力強く下ろす。
エ ダイコンを円を描くようにやさしく下ろす。

〔　　・　　〕

ちょっと立ち止まって (1)

桑原 茂夫

1 自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘（してき）され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

2 左の図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見て取ることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつぼがくっきりと浮（う）かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、向き合っている二人の顔の影絵（かげえ）が見えてきて、白い部分はバックになってしまう。

（1・2は教科書本文における形式段落番号を表します）

説明的な文章の構成

説明的な文章の多くは、序論・本論・結論の三つのまとまりに分けられる。

序論	導入・話題の提示・問題提起
本論	具体的な説明
結論	まとめ・主張

結論は文章の最初か最後で示されることが多い。

（例）序論 → 本論 → **結論**

結論 → 本論 → **結論**

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線部「なるほどそうもいえる」とあるが、この内容を言いかえたものとして適当なものを選びなさい。

ア 自分の意見の方が正しいといえる。
イ 自分が思っていたことと、別の捉(とら)え方もできるといえる。
ウ 自分とは違(ちが)う捉え方を指摘されることもあるといえる。
エ 人に教えられる経験は多いといえる。

〔　　〕

(2) 1段落の役割として、適当なものを選びなさい。

ア これから説明する内容に関する導入となっている。
イ これから説明する内容に対する結論を示している。
ウ AとBを比較(ひかく)して、それぞれの特徴(とくちょう)を述べている。
エ 文章の結論に対する理由や根拠(こんきょ)を説明している。

〔　　〕

(3) 2段落の内容に合うように、次の文の（　　）に入る言葉を選びなさい。

「ルビンのつぼ」を、（　　）を中心に見ると、優勝カップのような形のつぼが見える。

ア 二人の顔の影絵　　**イ** 二種類の絵
ウ 白い部分　　**エ** 黒い部分

〔　　〕

(4) 「ルビンのつぼ」は、何を述べるための事例か。適当なものを選びなさい。

ア 白と黒が対照的な色であること。
イ 何を中心に見るかによって、別の捉え方ができること。
ウ ものを見るときは、よく注目してみることが必要であること。
エ つぼの形は、人の顔の横顔に見えることがあること。

〔　　〕

ちょっと立ち止まって (2)

桑原 茂夫

8 左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。ところがこの図も、もう一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図は①どくろを描いた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見るか遠くから見るかによって、全く違う絵として受け取られるのである。

（中略）

10 私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちょっと立ち止まって、②他の見方を試してみてはどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見のおどろきや喜びを味わうことができるだろう。

（8・10は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「どくろを描いた絵に変わってしまう」とあるが、どのようにするとどくろを描いた絵に変わるのか。適当なものを選びなさい。

ア 化粧台の前に座っている女性の絵が見えるようにする。
イ 一つの絵が別の絵をかくしもつようにする。
ウ 化粧台の前に座っている女性の絵を、目を遠ざけて見る。
エ 同じ図を、近くから見るように見方を変えてみる。

〔　　〕

(2) 「化粧台の前に座っている女性の絵」は、何を述べるための事例か。適当なものを選びなさい。

ア 同じ図でも、見るときの距離によって、違うものとして受け取られることがあること。
イ 絵を鑑賞(かんしょう)するときは、近くから見るのではなく、目を遠ざけて見るべきだということ。
ウ 一見、化粧台の前に座っている女性の絵に見えるが、それは誤った見方だということ。
エ 絵画は常にもう一つの絵をかくしもっているので、注意して鑑賞すべきだということ。

〔　　〕

(3) ——線②「他の見方」とあるが、他の見方の例として10段落で挙げられているものを二つ選びなさい。

ア 一面のみを捉(とら)えてみる。
イ 中心に見るものを変えてみる。
ウ 見るときの距離を変えてみる。
エ 見るものを他のものに変えてみる。

〔　　・　　〕

(4) 10段落の内容に合うものを、二つ選びなさい。

ア 人は、ひと目見たときの印象に縛られる傾向(けいこう)がある。
イ 見方を変えると、新しい発見の驚(おどろ)きや喜びを味わえる。
ウ 他の見方を試すと、その物の全てを知ることができる。
エ 物を見るときは、立ち止まり距離を変えずに見るべきである。

〔　　・　　〕

ちょっと立ち止まって (3)

桑原 茂夫

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

序論	本論			結論
1	2～5	6・7	8・9	10
ものの見方についての話題の提示 **事例** ・ルビンのつぼ ・公園の風景	見るという働きには、中心に見るものを一瞬で決めたり、変えたりすることができる一面がある。 **事例** ・若い女性とおばあさんの絵	あるものを別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去らなければならない。 **事例** ・化粧台の前に座っている女性とどくろの絵	近くから見るか遠くから見るかによって違うものとして受け取られる。 **事例** ・富士山、ビル	**まとめ** 一つの物でも、見方によって見えてくるものが違う。 **主張** 物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試すと、その物の他の面に気づき、新しい発見のおどろきや喜びを味わうことができる。

（1～10は教科書本文における形式段落番号を表します）

要旨

文章や筆者の考えの中心となる内容を要旨という。要旨は結論に表れることが多い。要旨を捉えるためには、文章の構成に注目し、結論を見つけるようにするとよい。

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 4段落の公園の風景の事例は、何を述べるためのものか。適当なものを選びなさい。

ア あるものを、別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去る必要があること。
イ あるものが、見るときの距離によって、別のものとして受け取られることがあること。
ウ 見るという働きには、中心に見るものを、一瞬のうちに決めたり変えたりする一面があること。

〔　　〕

(2) 本文中で、「若い女性に見えたりおばあさんに見えたりする絵」は、何を述べるための事例か。最も適当なものを選びなさい。

ア あるものを別のものと見るためには、今見えているものを意識して捨て去る必要があること。
イ あるものが、見るときの距離によって、別のものとして受け取られることがあること。
ウ 見るという働きには、中心に見るものを、一瞬のうちに決めたり変えたりする一面があること。
エ コートに顎をうずめたおばあさんは、奥の方を向いた若い女性に見間違われることもあるということ。

〔　　〕

(3) 本文中で示されている図や事例をまとめると、どのようなことが導かれるか。適当なものを選びなさい。

ア 見えるものが変わってしまうこともあるので注意が必要だ。
イ 人は、ひと目見たときの印象を変えることができない。
ウ 一つのものでも、見方によって見えてくるものが違う。
エ 別の見方を指摘された経験は、誰にでもあるものである。

〔　　〕

言葉2 指示する語句と接続する語句（1）

指示する語句

「これ・それ・あれ・どれ」などのように、物事を指し示す言葉を、**指示する語句（こそあど言葉）**という。

	近称（しょう）	中称	遠称	不定称
事物	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
状態	こんな こう	そんな そう	あんな ああ	どんな どう
指定	この	その	あの	どの

このほか、「前者・後者、以上・以下、上記・下記」なども、指示する語句の働きをすることがある。

（例）今日は生徒会と文化祭の準備があります。
前者は十二時から、後者は十五時からです。

・**現場指示**…現実にあるものを指し示す。
「これ」は話し手の側に近いもの、「それ」は聞き手の側に近いもの、「あれ」は話し手と聞き手の双方（そうほう）から遠いものを指す。
（例）机の上に本があるよね。それ取ってくれないかな。

・**文脈指示**…文章や会話の、ある内容を指し示す。
指し示す内容は、文の一部であったり、文全体であったりする。
（例）日本の米の生産量は多いが、中国のそれには及（およ）ばない。
→ それ＝米の生産量
夏季大会で優勝する。それが私の目標です。
→ それ＝夏季大会で優勝すること

指示する語句は、前にある内容を指し示すことが多いが、後に続く内容を指し示すこともある。指し示す内容を確かめるには、指示している箇所（かしょ）を当てはめてみるとよい。

（例）日本の米の生産量は多いが、中国のそれ（＝米の生産量）には及ばない。

確認テスト

(1) 次の文の（　）に当てはまる語句として適当なものを選びなさい。

（　）は先生からいただいた本です。

ア これ　**イ** ここ　**ウ** こんな　**エ** この

〔　　〕

(2) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

三時に公園に行くと、そこでは祭りの準備が行われていた。

ア 三時　**イ** 公園　**ウ** 行く　**エ** 祭り

〔　　〕

(3) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

彼（かれ）は国語と英語が得意で、特に後者の成績は群を抜（ぬ）いている。

ア 彼　**イ** 国語　**ウ** 英語　**エ** 成績

〔　　〕

(4) 次の文の――線部が指す内容を選びなさい。

日本は森林の面積の割合が高く、これは日本に山地が多いことと関連している。

ア 日本

イ 森林の面積

ウ 日本は森林の面積の割合が高いこと

エ 日本に山地が多いこと

〔　　〕

(5) 次の文の――線部の働きを選びなさい。

フランスの哲学者（てつがくしゃ）であるパスカルはこう言った。

「人間は考える葦（あし）である。」

ア パスカルという前の語句を指している。

イ パスカルが哲学者であるという前の内容を指している。

ウ 葦という後の語句を指している。

エ 「人間は考える葦である。」という後の内容を指している。

〔　　〕

言葉2 指示する語句と接続する語句 (2)

接続する語句

「だから・しかし」などのように、前後の語句や文などがどのような関係でつながっているかを表す言葉を、**接続する語句**という。

●**順接**…前に述べた内容が、後に述べる内容の原因や理由になる。

（例）だから　すると　そのため　したがって

昨日、雨が降った。だから、地面がぬれている。

●**逆接**…前に述べた内容から予想されることとは違う内容が後にくる。

（例）しかし　だが　ところが　けれども

昨日、雨が降った。しかし、地面は乾いている。

説明的な文章では、逆接の語句をきっかけに論が展開していくことが多い。

●**並列・累加**…前に述べた内容に、後に述べる内容を並べたり（並列）、内容を付け加えたり（累加）する。

（例）そして　また　および　それから　しかも　そのうえ

この町は、畑作、そして、果樹栽培が盛んだ。

この果物は、値段が安く、しかも、おいしい。

●**対比・選択**…前後の内容を比べたり（対比）、前後の内容のどちらかを選んだり（選択）する。

（例）一方　……に対して

または　それとも　あるいは　もしくは

北海道は寒い。一方、沖縄は暑い。

電話、または、メールでご連絡ください。

確認テスト

(1) 次の各文の――線部の接続する語句の種類を、それぞれア～エから選びなさい。

① 学生証、または、保険証を持参してください。　［　］

② 雨が降っている。だが、それほど寒くはない。　［　］

③ この製品は品質が良く、しかも、値段が安い。　［　］

④ 今日はお祭りの日で、だから、道が混んでいる。　［　］

ア 順接　**イ** 逆接
ウ 並列・累加　**エ** 対比・選択

(2) 次の各文の（　）に当てはまる言葉として適当なものを、それぞれア～エから選びなさい。

① 窓を開けた。（　）、涼しい風が入ってきた。　［　］

② 犬が好きですか。（　）、ネコが好きですか。　［　］

③ 彼はやさしくて、（　）、とても礼儀正しい。　［　］

④ 暦の上では秋だ。（　）、まだまだ暑さは厳しい。　［　］

ア すると　**イ** けれども
ウ そのうえ　**エ** それとも

(3) 次の各文は**ア**と**イ**のどちらか。それぞれ選びなさい。

① 今は五月だ。だから、まだ寒い。　［　］

② 今は五月だ。しかし、まだ寒い。　［　］

ア 話し手（書き手）は、五月は寒い時期だと思っている。
イ 話し手（書き手）は、五月は寒い時期ではないと思っている。

(4) 次の文の内容に合うものを選びなさい。

言葉は、その言葉が用いられる地域の文化に影響を受ける。したがって、同じ語句でも、その語句の表す意味は、地域によって微妙に異なる。

ア 同じ語句の意味が地域によって異なるのは、言葉が文化の影響を受けるからである。

イ 言葉が文化に影響を受けるのは、同じ語句でも意味が地域によって異なるからである。

ウ 言葉は文化の影響を受けるが、しかし、言葉の意味が地域によって変わることはない。

［　］

言葉2 指示する語句と接続する語句⑶

接続する語句

●**説明・補足**…前に述べた内容をまとめたり、言い換えたり（説明）、内容を補ったり（補足）する。

（例）つまり　すなわち　要するに　なぜなら　例えば
ただし　ちなみに　もっとも

彼は父の弟の息子、つまり、私のいとこだ。

●**転換**…前に述べた内容から話題を変える。

（例）さて　ところで　では

以上、天気予報でした。では、次のニュースです。

特に説明的な文章では、前後の内容の関係をはっきりと表すために、接続する語句が多く用いられる。それぞれの語句がどのような関係を表すのかに注意すると、文章の内容が捉えやすくなる。

・だから　したがって
前に、原因や理由が示されている。

・しかし　ところが
前に述べた内容から予想されることとは違う内容が後にくる。
後ろで、論が展開していくことが多い。

・つまり
後ろに、まとめの内容や結論が示されることが多い。

・なぜなら
後ろに、前の内容の原因や理由が示される。

・例えば
後ろに、前の内容の具体例が示される。

・では
後ろに、話題が示されることが多い。

確認テスト

(1) 次の文章の要点を示すものを――線部**ア**～**ウ**から選びなさい。

古くから、ア日本の家屋は、夏の蒸し暑さを避けるために風通しのよい作りになっている。一方で、イ寒さの厳しい国の家屋には、熱を逃がさないような工夫がみられる。つまり、ウその地域の気候の特徴が、家屋の作り方に影響するのである。

〔　　〕

(2) 次の――線部の内容に対する理由を表すものを選びなさい。

たしかに文字をたくさん読むことは、現代の忙しい学生にとっては難しいことでしょう。しかし、私は、学生のみなさんにこそ本を読んでほしいと思っています。なぜなら、若い頃に出会う文章は、いずれその人にとって貴重な財産になるからです。

ア 本を読むことは、忙しい学生には難しいから。
イ 「私」は学生にこそ本を読んでほしいと思っているから。
ウ 若い頃に出会う文章は、その人にとって貴重なものになるから。

〔　　〕

(3) 次の――線部は、何に対する具体例か。適当なものを選びなさい。

日本の生活は、貿易に支えられている。例えば、スーパーで売られている食品には、外国産のものが多くみられる。また、身の回りの日用品にも、外国で作られたものがたくさんある。

ア 日本の生活は貿易に支えられていること。
イ スーパーで売られている食品は外国産が多いこと。
ウ 身の回りの日用品に、外国の製品が多いこと。

〔　　〕

(4) 次の文章の（　）に当てはまる言葉として、適当なものを選びなさい。

大気中の二酸化炭素濃度の増加に対して、国際社会では二酸化炭素の排出を抑える取り組みが進められています。また、企業でも、環境にやさしい製品づくりが行われるようになってきました。（　）、私たち一人一人にできることは何でしょうか。

ア すなわち　**イ** ただし
ウ では　**エ** なぜなら

〔　　〕

空の詩　三編

魚(うお)と空

木坂(きさか)　涼(りょう)

急降下。
鳥が
翼(つばさ)で
海を打つ。

①鳥は
もう摑(つか)んでいる。
②波は
海のやぶれ目を
ごまかしている。

魚は
海を脱(ぬ)けでる。
初めて　そして
③たった一度だけ。

空の高みで
もうひとつの空へ
のまれる。

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 「魚と空」の詩の種類として適当なものを二つ選びなさい。

ア 文語詩　イ 口語詩
ウ 定型詩　エ 自由詩　オ 散文詩

［　・　］

(2) ――線①「鳥は／もう摑んでいる」とあるが、何をつかんでいるのか。詩から漢字一字で書きぬきなさい。

［　］

(3) ――線②「波は／海のやぶれ目を／ごまかしている」に用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 直喩(ちょくゆ)　イ 擬人法(ぎじんほう)
ウ 体言止め　エ 倒置(とうち)

［　］

(4) ――線③「たった一度だけ」とあるが、たった一度だけどうするのか。解答欄(かいとうらん)に入る言葉を詩から書きぬきなさい。

たった一度だけ［　　　　　　］。

(5) 「魚と空」について正しく述べたものを二つ選びなさい。

ア 第一連では、鳥が海辺から飛び立とうとする様子を、「翼で／海を打つ」と表現している。
イ 第二連では、鳥と海が触(ふ)れた部分を、「海のやぶれ目」と表現している。
ウ 第三連では、魚が海へと逃(に)げてゆく様子を、「海を脱けでる」と表現している。
エ 第四連では、魚が鳥にのまれたことを、「もうひとつの空へ／のまれる」と表現している。

［　・　］

言葉3 さまざまな表現技法(1)

表現技法

言葉の使い方、並べ方を工夫することで、印象的な表現にしたり、言葉にリズムをもたせたりすることができる。このような表現技法には、比喩・体言止め・倒置・対句などがある。

比喩

ある物事を、似たところのある別の物事を使って表現することを、**比喩（たとえ）**という。比喩は二つのものの間の類似点に着目した表現である。

①**直喩（明喩）**…「まるで～」「～ようだ」「～みたいだ」などの言葉を使ってたとえる。

・山のような宿題。　・滝みたいな雨。

②**隠喩（暗喩）**…「まるで～」「～ようだ」「～みたいだ」などの言葉を使わずにたとえる。

・人生は旅だ。

③**擬人法**…人でないものを人に見立てて表す。

・看板が右に行けと言っている。
・なんだか車の機嫌が悪い。

類似点

比喩は、あるものを、類似点のある別の事柄で表現する技法である。比喩を読み取るときは、何が何にたとえられていて、どのように似ているのかを考えるとよい。

（例）リンゴのようなほっぺた
→ほっぺたが赤いことを、リンゴを用いて表現している。（類似点は「赤い」）

確認テスト

(1) 次の文の（　）に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

「まるで……」「……ようだ」「……みたいだ」といった、比喩であることを表す言葉を使ってたとえる表現技法を（①）、使わずにたとえる表現技法を（②）という。

ア 直喩　**イ** 隠喩　**ウ** 擬人法

①〔　　〕　②〔　　〕

(2) 次の文のように、人でないものを人に見立てて表現する技法を何というか。後から選びなさい。

風がささやいている。

ア 直喩　**イ** 隠喩　**ウ** 擬人法

〔　　〕

(3) 次の文で用いられている表現技法を選びなさい。

まるで雪のように白いうさぎ。

ア 直喩　**イ** 隠喩　**ウ** 擬人法

〔　　〕

(4) 次の文で用いられている表現技法を選びなさい。

笑顔（えがお）は人と人との間の橋だ。

ア 直喩　**イ** 隠喩　**ウ** 擬人法

〔　　〕

言葉3 さまざまな表現技法(2)

さまざまな表現

●**体言止め**…文末や句末を体言（名詞）で止める。
（効果）引き締まった印象を与えたり、余韻を残したりする。
・なんと美しい景色。
・柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺（正岡子規）

●**倒置**…普通の言葉の並べ方から、語順を入れ替える。
（効果）主に後に置かれた言葉が強調される。
・どこまでも行こう。　（普通の語順）
・行こう、どこまでも。　（倒置）

●**対句**…言葉を、形や意味が対応するように並べる。
（効果）言葉にリズムが生まれる。
・兎追いし　かの山　小鮒釣りし　かの川（高野辰之「故郷」）

●**反復**…同じ言葉を繰り返す。
（効果）言葉にリズムが生まれ、内容が強調される。
・桜が散る。どんどん散る。吹雪のように散る。

●**省略**…文章を途中で止め、後の言葉を省く。
（効果）読み手に省略した部分を自由に想像させる余地を残す。
・「またいつか。」彼女はそう言い残し去っていった。

確認テスト

(1) 次の①～③の各文で使われている表現技法として適当なものを、それぞれ選びなさい。

① 青い空が広がり、白い雲が流れる。
② 鳥の声が聞こえる、どこか遠くで。
③ 庭に美しく咲いた一輪の花。

ア 体言止め　**イ** 倒置　**ウ** 対句

①〔　　〕　②〔　　〕　③〔　　〕

(2) 次の①～⑥の各文で使われている表現技法として適当なものを、それぞれ選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

① かすかに聞こえる波の音。
② 川が流れる、ゆっくりと。
③ 風に舞っているよ、桜の花びらが。
④ どこまでも続くまっすぐな道。
⑤ 歩いても、歩いても、たどり着かない。
⑥ 雨は地面をたたき、風は木々をゆらす。

ア 体言止め　**イ** 倒置　**ウ** 対句　**エ** 反復

①〔　　〕　②〔　　〕　③〔　　〕
④〔　　〕　⑤〔　　〕　⑥〔　　〕

(3) 次の各文の表現技法として最も適当なものを、それぞれ選びなさい。

① 同じ言葉を繰り返して、内容を強調し、リズムを生む。
② 言葉を途中で止めて後を省き、読み手に想像させる。
③ 普通の言葉の並べ方から、語順を入れ替える。
④ 言葉を形や意味が対応するように対に並べる。

ア 倒置　**イ** 対句　**ウ** 反復　**エ** 省略

①〔　　〕　②〔　　〕　③〔　　〕　④〔　　〕

比喩で広がる言葉の世界 (1)

森山 卓郎

1 次の詩の情景を思い浮かべてみよう。

土　　三好 達治

蟻が
蝶の羽をひいて行く
ああ
ヨットのようだ

2 この詩では、蟻にひかれていく蝶の羽が、ヨットにたとえられている。この表現によって、ゆらゆらと運ばれていく蝶の羽が、波に揺られながら進んでいくヨットの帆のイメージに重なる。題名の「土」も、広い海のように思えてくる。

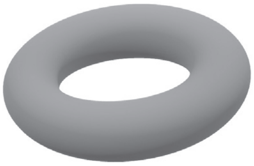
3 このように、ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すことを、比喩という。「ヨットのようだ」のように、「まるで」「ようだ」「みたいだ」などを使って表すこともあるが、「あの人は歩く辞書だ」のように、それらの言葉を使わずに表現することもある。大切なことは、たとえるものと、たとえられるものとの間に共通点があり、それが広く共有されていることだ。蝶の羽は、ヨットの帆に形が似ている。だから、読者は瞬時に情景を思い描く。

（中略）

4……図のような形の部品をあなたならどのように説明するだろうか。真ん中に穴の空いた丸いドーナツを相手が知っているならば、一言で「ドーナツのような形」ということができる。しかし、もし比喩を使わないとしたら、言葉を尽くしても、伝えることは難しいのではないだろうか。このように、比喩には、形状をわかりやすく伝える効果がある。

5 また、比喩には、物事の特性をより生き生きと印象づける効果もある。例えば、「雷のような大声」という場合、声の大きさを響きわたる雷鳴にたとえているだけでなく、雷のもつ激烈さや迫力、おそろしさなどのイメージも重ねている。

（1～5は教科書本文における形式段落番号を表します）



図

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 筆者は比喩をどのように定義しているか。解答欄に合うように、本文中から二十字以上、二十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、句読点も字数に含む。

[　　　]〜[　　　]こと。

(2) 比喩の表現についての説明となるように、次の文の（　　）に入る言葉を本文中からそれぞれ三字以内で書きぬきなさい。

比喩を使うときには、たとえるものと、たとえられるものとの間に（①）があり、それが広く（②）されていることが大切である。

① [　　　]
② [　　　]

(3) 比喩にはどんな効果があるか。解答欄に合うように、①は十二字で、②は十八字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

① [　　　]〜[　　　]効果。
② [　　　]〜[　　　]効果。

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 比喩を生かすためには、「まるで」「ような」「みたいだ」などの言葉を使わなければならない。
イ 比喩を使うときには、たとえるものと、たとえられるものとの間に似たところがなければならない。
ウ 比喩で効果的な表現をするためには、比喩で表現されるものどうしの形が同一でなければならない。

〔　　〕

比喩で広がる言葉の世界 (2)

森山 卓郎

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

段落	内容
1・2	**導入** 「土」の詩
3	**比喩(ひゆ)の定義** ある事柄(ことがら)を、似たところのある別の事柄で表すこと。 ・比喩を使う上で大切なこと たとえるものと、たとえられるものとの間に共通点があり、それが広く共有されていること。
4・5	**比喩の効果** ①形状をわかりやすく伝える効果。 ・具体例 「ドーナツのような形」 ②物事の特性をより生き生きと印象づける効果。 ・具体例 「雷(かみなり)のような大声」
6・7	**比喩の発想が生きている表現** 「頭の中に入れておく」「深く感謝する」 など
8	**まとめと主張** 比喩は言葉の世界を豊かに広げる。私たちは、比喩を使い、表現を創造していく力をもっている。

（1～8は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト　教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の文が比喩の定義となるように、解答欄に当てはまる言葉を教科書本文中から答えなさい。

比喩とは、ある事柄を、[　　　　　]のある別の事柄で表すことである。

(2) 形状をわかりやすく伝えるという比喩の効果を説明するために挙げられている具体的な表現を選びなさい。

ア「頭の中に入れておく」　イ「雷のような大声」
ウ「ドーナツのような形」　エ「深く感謝する」　〔　　〕

(3) 物事の特性をより生き生きと印象づけるという比喩の効果を説明するために挙げられている具体的な表現を選びなさい。

ア「頭の中に入れておく」　イ「雷のような大声」
ウ「ドーナツのような形」　エ「深く感謝する」　〔　　〕

(4) 次の文が本文のまとめとなるように、(　　) に入る言葉をそれぞれ選びなさい。

比喩は（①）の世界を広げるものであり、伝えたいことをよりわかりやすく、より印象的に表現することができる。私たちは、比喩を使って表現を（②）していく力をもっている。

ア 形状　イ 言葉　ウ 創造　エ 特性

①〔　　〕　②〔　　〕

文法への扉1　言葉のまとまりを考えよう（言葉の単位）(1)

言葉の単位

言葉は、いくつかのまとまりに区切ることができる。言葉の単位は、言葉をどこまでまとめるかによって次のようなものがある。

文章・談話 ― 段落 ― 文 ― 文節 ― 単語

①**文章・談話**…あるひとまとまりの内容を文字や音声で表したもの。
文字で表されたものは文章、音声で表されたものは談話という。

②**段落**…文章を内容ごとのまとまりで区切ったもの。
段落の始まりは、書き出しを一字下げて表すことが多い。

③**文**……ある内容を表すひと続きの言葉。
文の終わりには句点（。）を付けることが多い。

文章
段落　**段落**
文

　二人は一度にはねあがってドアを飛び出して改札口へかけて行きました。ところが改札口には、明るい紫がかった電燈が、一つ点いているばかり、誰も居ませんでした。そこら中を見ても、駅長や赤帽らしい人の、影もなかったのです。
　二人は、停車場の前の、水晶細工のように見える銀杏の木に囲まれた、小さな広場に出ました。そこから幅の広いみちが、まっすぐに銀河の青光の中へ通っていました。

（宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より）

④**文節**…文を、自然な発音や意味となる範囲でできるだけ短く区切ったまとまり。

（例）鳥が（文節）ネ／青い（文節）ネ／空を（文節）ネ／飛ぶ。（文節）

※文に「ネ」を入れて区切ってみるとよい。

⑤**単語**…それだけで意味をもつ最も小さい言葉の単位。

（例）鳥（単語）／が（単語）／青い（単語）／空（単語）／を（単語）／飛ぶ。（単語）

※単語にはいろいろな種類がある。

鳥・空　→　ものの名前を表す。
青い・飛ぶ　→　動作や様子を表す。
が・を　→　他の単語に付いて使われる。

確認テスト

(1) 次の言葉のまとまりを、大きなまとまりから順に並べかえなさい。

ア 単語　**イ** 段落　**ウ** 文
エ 文章・談話　**オ** 文節

〔　　→　　→　　→　　→　　〕

(2) 次の文の（　　）に当てはまるものを選びなさい。

（　　）は、文章を内容ごとのまとまりで区切ったもので、始めを改行し、一字下げることで表す。

ア 文　**イ** 文節　**ウ** 単語　**エ** 段落　〔　　〕

(3) 次の文章には文が3つ含まれる。適切な位置に句点を打ちなさい。

日本語の文は、主に漢字と仮名を組み合わせた　漢字仮名交じり文で表される　漢字は中国で生まれた　文字で、一字が意味と音を表す　一方、仮名は漢字をもとに生まれた　文字で、意味は表さない

(4) 次の文を、①は文節に、②は単語に分け、それぞれ斜線（／）で区切りなさい。

① 私 は 国 語 の 問 題 を 解 く 。

② 私 は 国 語 の 問 題 を 解 く 。

(5) 次の文を、①は文節に、②は単語に分け、それぞれ斜線（／）で区切りなさい。

① ネ コ が 校 庭 を 走 っ た 。

② ネ コ が 校 庭 を 走 っ た 。

文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう（言葉の単位）(2)

自立語と付属語

単語は、大きく、自立語と付属語に分けられる。

●**自立語**…単独で文節を作ることができる単語。
その単語だけで言葉のイメージが浮(う)かぶことが多い。

●**付属語**…単独では文節を作ることができず、自立語と共に使われる単語。
その単語だけでは言葉のイメージが浮かばないことが多い。

(例) 鳥(自)が(付)空(自)を(付)飛ぶ(自)。　おにぎり(自)を(付)食べ(自)た(付)。

単語を分類したものを品詞といい、自立語は8つ、付属語は2つの品詞に分けられる。

- 単語
  - **自立語**
    - 活用する ― 述語になる（用言）
      - 動作・作用・存在を表す・終止形が「ウ段」で終わる ― **動詞**
      - 状態・性質を表す
        - 終止形が「い」で終わる ― **形容詞**
        - 終止形が「だ・です」で終わる ― **形容動詞**
    - 活用しない
      - 主語になる（体言） ― 物事の名前を表す・物事を指し示す ― **名詞**
      - 修飾語になる
        - 主に用言を修飾する ― **副詞**
        - 常に体言を修飾する ― **連体詞**
      - 接続語になる ― **接続詞**
      - 独立語になる ― **感動詞**
  - **付属語**
    - 活用する ― **助動詞**
    - 活用しない ― **助詞**

主な品詞

自立語

・**動詞**…動作・作用・存在を表す。言い切りが「ウ段」で終わる。
(例) 話す・咲(さ)く・いる

・**形容詞**…状態・性質を表す。言い切りが「い」で終わる。
(例) 明るい・楽しい・赤い

・**形容動詞**…状態・性質を表す。言い切りが「だ・です」で終わる。
(例) 静かだ　・きれいだ　・立派だ
　　静かです・きれいです・立派です

・**名詞**…物事の名前を表す。物事を指し示す。活用しない。
(例) 山・学校・私

付属語

・**助詞**…自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。活用しない。
(例) 鳥が飛ぶ。　私も笑う。　強くて優(やさ)しい。　何ですか。

・**助動詞**…用言・体言や他の助動詞などの後に付いて、意味を付け加えたり、話し手の判断を示したりする。活用する。
(例) 走らない。　走った。　中学生だ。

活用

動詞・形容詞・形容動詞・助動詞は、文中で言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化する。これを**活用**という。
(例) 話す＋た → 話した　　話さない＋た → 話さなかった

確認テスト

(1) 次の品詞が、自立語なら**ア**、付属語なら**イ**で答えなさい。

① 動詞〔　　〕　② 助動詞〔　　〕
③ 形容詞〔　　〕　④ 形容動詞〔　　〕
⑤ 助詞〔　　〕　⑥ 名詞〔　　〕

(2) 次の単語の品詞の種類をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 高い〔　　〕　② 歩く〔　　〕
③ 変だ〔　　〕　④ りんご〔　　〕

ア 動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 名詞

(3) 次の単語の品詞の種類をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 富士山〔　　〕　② 見る〔　　〕
③ 簡単だ〔　　〕　④ 難しい〔　　〕

ア 動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 名詞

(4) 次の――線部の単語を言い切りの形に直しなさい。

遊んだ（「遊ん」に傍線）

〔　　　　〕

(5) 次の文に含（ふく）まれる自立語と付属語の数を、それぞれ算用数字で答えなさい。

私は友達と公園を歩いた。

自立語〔　　〕　付属語〔　　〕

(6) 次の文に含まれる自立語と付属語の数を、それぞれ算用数字で答えなさい。

今日、校庭に黒いネコがいた。

自立語〔　　〕　付属語〔　　〕

文法への扉1　言葉のまとまりを考えよう（言葉の単位）(3)

文節と単語

・**文節**…文を、自然な発音や意味となる範囲(はんい)でできるだけ短く区切ったまとまり。

(例) 鳥が(文節)／青い(文節)／空を(文節)／飛ぶ。(文節)

・**単語**…それだけで意味をもつ最も小さい言葉の単位。

(例) 鳥(単語)／が(単語)／青い(単語)／空(単語)／を(単語)／飛ぶ。(単語)

文節はいくつかの単語からできており、文節の初めの単語は必ず**自立語**である。文節には必ず**一つだけ**自立語が含(ふく)まれる。

→つまり、文を文節に区切るときは、自立語の前で区切るとよい。

(例) [鳥](自)が／[青い](自)／[空](自)を／[飛ぶ](自)。

文節には、次の場合がある。

・「自立語」単独の場合
・「自立語」に付属語が付く場合

一つの文節に二つ以上の自立語が含まれることはないが、付属語は二つ以上含まれることもある。

(例) 走らなかった…自立語「走る」＋付属語「ない」＋付属語「た」

間違(まちが)えやすい文節の区切り

〜て（で）…

「〜ている」「〜てくる」のように、「助詞て（で）＋自立語」の形は、文節の切れ目を間違えやすいので注意する。

(例) [彼]は／[本]を／[読ん]で／[いる]。

※「読んでいる」は「読んで」(自立語＋で) と「いる」(自立語) の二文節

犬が／走って(動詞＋て)／くる(動詞)。

吾輩は／猫で(名詞＋で)／ある(動詞)。

これを／見て(動詞＋て)／ほしい(形容詞)。

確認テスト

(1) 次の文の内容が正しければ○で、誤っていれば×で、それぞれ答えなさい。

① 一つの文節には、必ず自立語が一つ含まれる。
② 一つの文節に、自立語が二つ以上含まれることもある。
③ 一つの文節には、必ず付属語が一つ含まれる。
④ 一つの文節に、付属語が二つ以上含まれることもある。

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕 ④〔　　〕

(2) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線(しゃせん)（／）で区切りなさい。

（例） [鳥]が／[青い]／[空]を／[飛ぶ]。

庭に美しい花が咲いた。

(3) 例に従って、次の文に含まれる自立語を□で囲み、文節を斜線（／）で区切りなさい。

（例） [鳥]が／[青い]／[空]を／[飛ぶ]。

課題が残っている。

(4) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

明日の準備をしておく。

(5) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

新しいスポーツをやってみる。

(6) 次の文を文節に分け、斜線（／）で区切りなさい。

もっと文法を学んでほしい。

文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう（言葉の単位）(4)

間違え（まちが）やすい単語の区切り

いくつかの単語が結びついて新たな意味をもつ一つの単語となったものを**複合語**という。複合語はあくまで一つの単語なので注意する。

・複合語の名詞…買い物・国語辞典・山登り・苦笑い
・複合語の動詞…歩き始める・飛び立つ・降り出す・舞（ま）い落ちる

「〇〇する」という複合語と、「〇〇をする」では、含（ふく）まれる単語や文節の数が異なる。

・勉強する　→　一つの単語（動詞「勉強する」）
・勉強をする　→　三つの単語
（名詞「勉強」＋助詞「を」＋動詞「する」）

文節の分け方

一つの文節には、自立語は**一つだけ**含まれる。
「勉強する」は一つの自立語（動詞）なので、それだけで一つの文節だが、「勉強をする」には二つの自立語（名詞と動詞）が含まれるので二つの文節に区切れる。

・私は／英語を／勉強する。
・私は／英語の／勉強を／する。

自立語に助動詞が付いた文節は、単語の区切りを間違えやすい。特に文末には、「自立語＋助動詞」の形が多いので注意する。

・おもな助動詞
れる（られる）・せる（させる）・ない・ぬ・う（よう）・まい・たい・たがる・ます・た（だ）・らしい・そうだ・ようだ・だ・です

（例）
怒られる　→　動詞「怒る」＋「れる」
走らせる　→　動詞「走る」＋「せる」
話さない　→　動詞「話す」＋「ない」
食べた　→　動詞「食べる」＋「た」
中学生だ　→　名詞「中学生」＋「だ」

自立語の後に助動詞が複数付いた形も、単語の区切りを間違えやすいので注意する。

・読みました　→　動詞「読む」＋助動詞「ます」＋助動詞「た」

確認テスト

(1) 次の文を単語に分け、斜線（しゃせん）（／）で区切りなさい。

今日、色鉛筆（えんぴつ）を買う。

(2) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

クラスの全員で話し合う。

(3) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

郵便物を受け取った。

(4) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

船がゆっくり前進する。

(5) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

私は毎朝、部屋の掃除（そうじ）をする。

(6) 例に従って、——線部に含まれる単語をそれぞれ言い切りの形で答えなさい。

（例）本を読みます。 → 動詞〔読む〕＋助動詞〔ます〕

① 道を聞かれる。　② 机を運ばせる。

③ 誰（だれ）もいない。　④ 外で遊ぼう。

① 動詞〔　　〕＋助動詞〔　　〕

② 動詞〔　　〕＋助動詞〔　　〕

③ 動詞〔　　〕＋助動詞〔　　〕

④ 動詞〔　　〕＋助動詞〔　　〕

(7) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

その宿題はもう提出した。

(8) 次の文を単語に分け、斜線（／）で区切りなさい。

メールを送信しました。

大人になれなかった弟たちに……(1)

米倉 斉加年

(「僕」の弟はヒロユキといい、「僕」が小学校(国民学校)四年生のときに生まれた。「僕」の父は戦争に行っていたため、「僕」は母、祖母、妹、弟とともに五人で暮らしていた。)

そのころは食べ物が十分になかったので、母は僕たちに食べさせて、自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳が出なくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆのもっと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行って飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な大切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子はなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

(中略)

僕は隠れて、ヒロユキの大切なミルクをぬすみ飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたがなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

戦争中の状況

ヒロユキが生まれた頃は、アメリカのB29による空襲が毎日のようにあり、毎晩、「僕」の家族は、ゆかの下に掘った防空壕で寝ていた。

戦争中は食料が十分になく、その他の物資も不足していた。米などの生活必需品の販売は政府に統制されており、生活必需品は消費者ごとに量を割り当てて配給された。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うように、次の文の（　　）に入る言葉を本文中から二字で書きぬきなさい。

戦争中は食料が不足しており、ヒロユキにはおもゆを食べさせたり、遠くまでやぎのミルクを買いに行って飲ませたりしていた。また、ときどき、ミルク一缶の（　　）があり、これがヒロユキの大切な食べ物だった。

□□

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　母は子供たちに少しでも多く食べさせようと、自分はあまり食べなかった。

イ　あめやチョコレートといった甘いものは、ときどきしか手に入らない貴重品だった。

ウ　一缶のミルクは大切な食べ物で、母は「僕」と弟にミルクを優先的に割り当てていた。

〔　〕

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　そのころの「僕」は、おいしそうなミルクを飲む弟をにくらしく感じていた。

イ　甘いものが欲（ほ）しい「僕」は、弟の大切なミルクを何度もぬすみ飲みしてしまった。

ウ　まだ小さかった「僕」は、ミルクを飲むことが悪いことだとは当時はわからなかった。

〔　〕

大人になれなかった弟たちに……(2)

米倉 斉加年

（父が戦争に行っていたため、「僕」は、母、祖母、妹、弟とともに五人で暮らしていた。そのころはアメリカのB29による空襲が毎日のようにあり、毎晩、「僕」の家族は、ゆかの下に掘った防空壕でねていた。）

あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番をたのんで、母が弟をおんぶして僕と三人で、①親戚のいる田舎へ出かけました。ところが、親戚の人は、はるばる出かけてきた母と弟と②僕を見るなり、うちに食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。引っ③越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くるりと後ろを向いて帰りました。

④そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのときのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

疎開

戦争中には、空襲などを避けるために、都市から地方への移住が行われていた。これを疎開という。なお、「僕」が暮らしていたのは福岡で、このの ち「僕」の家族は福岡から南に二十キロほどのところにある石釜という山あいの村に疎開することとなる。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「親戚のいる田舎へ出かけました」とあるが、なぜ親戚のもとに出かけたのか。適当なものを選びなさい。

ア 三人で先に疎開するため。
イ 弟を親戚に預けるため。
ウ 引っ越しの相談をするため。
エ 食べ物を分けてもらうため。

〔　　〕

(2) ——線②「見るなり」の意味を選びなさい。

ア 見た通りに　イ 見るとすぐに
ウ 見たのに　エ 見ることなく

〔　　〕

(3) ——線③「くるりと後ろを向いて帰りました」とあるが、このときの母の気持ちとして適当なものを選びなさい。

ア 食べ物をもらいに来たと誤解され、やるせない気持ち。
イ 食べ物がもらえないことに、がっかりする気持ち。
ウ 親戚の人に相談ができず、途方(とほう)にくれる気持ち。
エ 親戚の人の冷たい態度に、あきれはてる気持ち。

〔　　〕

(4) ——線④「そのときの顔」を、「僕」はどのような顔だと思っているか。解答欄(かいとうらん)に当てはまるように、本文中から十五字で書きぬきなさい。

□□□□□□□□□□□□□□□ 母の顔。

大人になれなかった弟たちに……(3)

米倉 斉加年

（「僕」の家族は石釜という山あいの村に疎開することとなった。疎開先では配給がなく、食料不足が続いていた。）

ヒロユキは病気になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物を祖母に用意してもらい、母と弟のいる病院に、バスに乗って出かけました。

十日間くらい入院したでしょうか。

ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿に含ませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

（中略「僕」は、死んだヒロユキをおんぶした母と、病院から家まで歩いて帰った。次はその道中の場面である。）

空は高く高く澄んでいました。ブウーンブウーンというB29の独特のエンジンの音がして、青空にきらっきらっと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母がときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もっとかわいそうだった。」

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださっていた農家のおじいさんが、杉板を削って小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手でねかされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていたんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。そのとき、母は初めて泣きました。

人物の心情と描写

登場人物の心情は、直接的に表現されるだけでなく、人物の行動や、風景の描写を通して表現されることがある。特に人物の心情を反映した風景や場面の描写を情景描写という。本文中では「暗い電気の下で」などといった描写を通して登場人物の心情が表現されている。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 病院での情景描写を通して「僕」の心情が表現されている一文を探し、その最初の三字を答えなさい。

(2) ――線部「母は初めて泣きました」とあるが、このときの母の心情を説明した次の文の（　　　）に入る言葉を、本文中から十字以内で書きぬきなさい。

食べ物が十分にない中でも、ヒロユキが（　　　）ことを知り、改めてヒロユキを亡くしたことへの深い悲しみを感じている。

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 十日間ほどの入院後、ヒロユキは栄養失調で亡くなった。
イ 「僕」は母とともに、暗い空の下、バスで家まで帰った。
ウ 家で待っていた妹は、弟を棺に入れるまで涙を見せなかった。

［　　］

大人になれなかった弟たちに……(4)

米倉 斉加年

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

戦争中の状況と「僕」の家族	疎開
「僕」の家族 父が戦争に行っていたため、「僕」は母、祖母、妹、弟とともに五人で暮らしていた。「僕」は小学校（国民学校）の四年生で、弟のヒロユキは生まれて間もなかった。 **戦争中の状況** 空襲が毎日のようにあり、毎晩、「僕」の家族は、ゆかの下に掘った防空壕でねていた。 戦争中は食料が十分になく、母は自分はあまり食べず、子供たちに食べさせていた。ヒロユキは配給のミルクが大切な食べ物だったが、「僕」は隠れてそのミルクを何度もぬすみ飲みしてしまった。	**親戚のいる田舎での出来事** 引っ越しの相談に行ったのに、うちに食べ物はないと言われた。母はそれを聞くなりくるりと後ろを向いて帰った。 ・そのときの母の顔…強い顔、悲しい悲しい顔、美しい顔 子供を必死で守ってくれる母の顔 **石釜への疎開** 疎開者には配給もなく、やはり食べ物が不足していた。

ヒロユキの死	「僕」の思い
ヒロユキの死 十日間ほどの入院ののち、弟は栄養失調で亡くなった。 （描写）暗い電気の下で 死んだ弟を母がおんぶし、「僕」たちは歩いて家に帰った。 （描写）白い乾いた一本道 空は高く高く青く澄んでいました。 **家に帰って** ヒロユキを棺に入れた。母は、大きくなっていたんだね、と言い、初めて泣いた。	**弟の死後** ヒロユキの死の九日後（八月六日）ヒロシマに、その三日後（八月九日）ナガサキに原子爆弾が落とされた。 一九四五年八月十五日に戦争は終わった。 **現在の「僕」の思い** ひもじかったことと、弟の死は一生忘れない。

題名のもつ意味

この作品の題名の「弟たち」という言葉には、「僕」の弟である「ヒロユキ」以外にも、大勢の子供たちが戦争で亡くなり、「大人になれなかった」ことへの思いが込められている。

確認テスト　教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 戦争中は食べ物が不足していたので、母は自分ではあまり食べずに、「僕」たちに食べさせていた。
イ そのころは甘いものが全くなく、「僕」はヒロユキのミルクを一度だけぬすみ飲みしてしまった。
ウ 疎開先の石釜では疎開者にも十分な配給があり、以前よりも食べ物が手に入るようになった。

〔　　〕

(2) 次の各文の出来事を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 一九四五年八月十五日に戦争が終わった。
イ 田舎の親戚に引っ越しの相談に行った。
ウ 「僕」は弟のミルクをぬすみ飲みしてしまった。
エ 「僕」の家族は石釜に疎開することになった。

〔　↓　↓　↓　〕

(3) この作品の題名は「弟たち」と複数形になっている。この複数形の表記に込められた思いとして最も適当なものを選びなさい。

ア 「ヒロユキ」が亡くなったことに対する「僕」の深い悲しみが込められている。
イ 「ヒロユキ」と「僕」を必死で守ろうとしてくれた母への思いが込められている。
ウ 「ヒロユキ」の他にも、戦争によって亡くなった子供が大勢いたことを暗示している。

〔　　〕

星の花が降るころに (1)

安東 みきえ

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくと、地面が白い星形でいっぱいになっていた。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

――ガタン！

びっくりした。①去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなった。

「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかったみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。

私は戸部君をにらんだ。

「なんか用？」

「宿題をきこうと思って来たんだよ。そしたらあいつらがいきなり押してきて。」

（中略）

「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」

隣の教室の授業も終わったらしく、椅子を引く音がガタガタと聞こえてきた。私は戸部君を押しのけるようにして立ち上がると廊下に向かった。

②戸部君に関わり合っている暇はない。今日こそは仲直りをすると決めてきたのだ。はられたポスターや掲示を眺めるふりをしながら、廊下で夏実が出てくるのを待った。

人物同士の関係の変化

文学的文章では、場面ごとに登場人物同士の関係が変化する。本文では、回想（過去を思い返すこと）の場面と現在で、「私」と夏実の関係が変化している。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文は回想の場面から始まり、途中で現在の場面になっている。回想の場面の最後の五字を書きぬきなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□□□

(2) ――線①「去年のことをぼんやり思い出していた」とあるが、この場面で、「私」がいる場所を本文中から二字で書きぬきなさい。

□□

(3) ――線②「戸部君に関わり合っている暇はない」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 夏実と一緒に昼休みを過ごす約束をしているから。
イ これから自分も宿題をしようと思っているから。
ウ 今日は夏実と仲直りをしようと思っているから。

〔　〕

(4) 本文から読み取れる登場人物同士の関係として適当なものを選びなさい。

ア 去年の秋まで「私」と戸部君は同じクラスで、親友といえる関係だった。
イ 現在では「私」と戸部君は同じクラスだが、あまり顔なじみといえる関係ではない。
ウ 去年の秋には、「私」と夏実は仲が良かったが、現在では互いに不信感を持っている。
エ 去年の秋には、「私」と夏実は親密な関係だったが、現在では擦れ違いが生じている。

〔　〕

星の花が降るころに (2)

安東 みきえ

(ある日の昼休み、「私」は夏実と仲直りをしようと、廊下で待っていました。)

夏実とは中学に上がってもずっと親友でいようと約束をしていた。だから春の間はクラスが違っても必ずいっしょに帰っていた。それなのに、何度か小さな擦れ違いや誤解が重なるうち、別々に帰るようになってしまった。おたがいに意地を張っていたのかもしれない。

①お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそっとなでた。中には銀木犀の花が入っている。もう香りはなくなっているけれどかまわない。(中略)

夏実の姿が目に入った。教室を出てこちらに向かってくる。

そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。②どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸ってはくと、ぎこちなく足をふみ出した。

「あの、夏実――」

私が声をかけたのと、隣のクラスの子が夏実に話しかけたのが同時だった。夏実は一瞬とまどったような顔でこちらを見た後、隣の子に何か答えながら私からすっと顔を背けた。そして目の前を通り過ぎて行ってしまった。③音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

比喩を用いた描写

本文では、さまざまな比喩表現が用いられている。

(例) 音のないこま送りの映像を見ているように

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「お守りみたいな……そっとなでた」とあるが、ここから読み取れる「私」の心情として適当なものを選びなさい。

ア 夏実との仲直りが成功することを確信する気持ち。
イ 夏実と昔のような関係に戻れるように祈る気持ち。
ウ 夏実と仲直りできるか不安で、なげやりになる気持ち。
エ 夏実が自分を無視したことで、落ち込み嘆く気持ち。

〔　　〕

(2) ——線②「どきどき鳴る……息を吸ってはくと」とあるが、このときの「私」の様子として適当なものを選びなさい。

ア 思い通りにことが進み、興奮する様子。
イ 夏実に会うことができ、喜ぶ様子。
ウ 思いがけない出来事にあわてる様子。
エ 夏実に声をかけることに緊張する様子。

〔　　〕

(3) ——線③「音のない……感じられた」とあるが、この表現が意味することを選びなさい。

ア 夏実が「私」の前を通り過ぎて行くまでにいつもより長い時間がかかったこと。
イ 自分を無視するような夏実の態度に、「私」の怒りがこみあげていること。
ウ とまどったような夏実の顔が意味することに、「私」が思いをはせていること。
エ 思いもよらず夏実が自分から顔を背けたことに、「私」がぼう然としていること。

〔　　〕

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 「私」と夏実は中学に上がって同じクラスになった。
イ 「私」と夏実は次第に別々に帰るようになった。
ウ 夏実は「私」が声をかけたのに気がつかなかった。
エ 結局「私」は夏実に声をかけられなかった。

〔　　〕

星の花が降るころに (3)

安東 みきえ

(夏実との仲直りに失敗した「私」は、戸部君との会話を通じて少し気持ちが楽になりました。)

学校からの帰り、少し回り道をして銀木犀のある公園に立ち寄った。銀木犀は常緑樹だから一年中葉っぱがしげっている。それをきれいに丸く刈り込むので、木の下に入れば丸屋根の部屋のようだ。夏実と私はここが大好きで、二人だけの秘密基地と決めていた。ここにいれば大丈夫、どんなことからも木が守ってくれる。そう信じていられた。

夕方に近くなっても日差しはまだ強い。木の下は陰になってすずしかった。

掃除をしているおばさんが、草むしりの手を休めて話しかけてきた。

「いい木だよねえ、こんな時期は木陰になってくれて。けど春先は、葉っぱが落ちて案外厄介なんだよ、掃除がさ。」

私は首をかしげた。常緑樹は一年中葉っぱがしげっているはずなのに。

「え、葉っぱはずっと落ちないんじゃないんですか。」

「まさか。どんどん古い葉っぱを落っことして、その代わりに新しい葉っぱを生やすんだよ。そりゃそうさ。でなきゃ　あんた、いくら木だって生きていけないよ。」

帽子の中の顔は暗くてよくわからなかったけれど、笑った歯だけは白く見えた。おばさんは、よいしょと言って掃除道具を抱えると公園の反対側に歩いていった。

私は真下に立って銀木犀の木を見上げた。

かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半円球の宙にまたたく星みたいに光っていた。

ポケットからビニール袋を取り出した。花びらは小さく縮んで、もう色がすっかりあせている。

袋の口を開けて、星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。

ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。それとも違う誰かと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもしれない。

どちらだっていい。大丈夫、きっとなんとかやっていける。

私は銀木犀の木の下をくぐって出た。

情景描写

人物の心情を反映した風景や場面の描写を**情景描写**という。本文中では銀木犀の花や木を通して「私」の変化が表現されている。

(例)　星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。
私は銀木犀の木の下をくぐって出た。

※お守りのように持っていた銀木犀の花びらを捨て、銀木犀の木の下から出ていく姿から、過去にとらわれずに進もうとするようになった、「私」の変化がわかる。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中には、「私」と夏実の思い出や二人の関係が現在どうなっているかを銀木犀の花の様子を通して表現している一文がある。その一文の最初の五字を答えなさい。

(2) 銀木犀の木の下が「私」と夏実にとってどのような場所であったかを表す言葉を、本文中から九字で探し、書きぬきなさい。

(3) ――線部「私は首をかしげた」とあるが、なぜ「私」は首をかしげたのか。適当なものを選びなさい。

ア 夏実との思い出の木である銀木犀を厄介と言うおばさんに、不満を感じたから。

イ 夏実との思い出の木である銀木犀を見ていたときに話しかけられ、とまどったから。

ウ 銀木犀は常緑樹で葉が落ちないと思っていたのに、銀木犀の葉っぱが落ちると言われたから。

エ 銀木犀は常緑樹で一年中葉がしげっているはずなのに、この木は常緑樹ではないと指摘されたから。

［　　］

(4) おばさんとの対話を通じて、「私」はどのように変化したか。適当なものを選びなさい。

ア どんなものからも守ってくれると思っていた銀木犀も古い葉を落とすのだと知り、頼りなく感じるようになった。

イ 常緑樹の銀木犀も新しい葉を生やし続けているのだと知り、過去にとらわれず未来に向かって進んでいこうと決意した。

ウ 古い葉の代わりに新しい葉を生やす銀木犀のあり方を知り、夏実と決別し、新たな人間関係を築こうと考えるようになった。

エ 大切に思っていた銀木犀の木も掃除をする人からは厄介な存在なのだと知り、人によって視点が異なることを学んだ。

［　　］

星の花が降るころに (4)

安東 みきえ

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

去年の秋	昼休み（九月）	放課後
回想 「私」と夏実は銀木犀の木の下で花が散るのを見上げていた。**二人で木に閉じ込められた。** ・銀木犀の花…甘い香り、白く小さな星の形。	**教室の場面** 去年のことをぼんやり思い出していたら、戸部君がぶつかってきた。 ・「私」から見た戸部君…わけがわからない。 **廊下の場面** 仲直りをしようと廊下で夏実を待った。 ・銀木犀の花…お守りのように持っている。 もう香りはなくなっている。 夏実に声をかけたが、夏実は目の前を通り過ぎて行ってしまった。 （私）夏実の他には友達とよびたい人なんていない。	**校庭の場面** 夏実とのことを見られたのが気がかりで、戸部君を探した。戸部君は一人ボールを磨いていた。自分の考えていたことがくだらないことに思えた。 ・「私」から見た戸部君…やっぱりわけがわからない。 戸部君の背はいつのまにか「私」より高くなっていた。

学校からの帰り道
公園の場面 銀木犀は一年中葉っぱがしげっている。二人だけの秘密基地で、ここにいれば大丈夫と思っていた。 おばさんとの会話で、銀木犀は古い葉を落とし、新しい葉を生やすのだと知った。 ・銀木犀の花…縮んで色あせている。 土の上に落とした。 **私は銀木犀の木の下をくぐって出た。**

場面ごとの描写の変化

本文では、銀木犀の情景描写など、ある表現が異なる場面でも登場している。それぞれの場面で対応する表現に注目すると、「私」の変化を捉えることができる。

確認テスト

教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 銀木犀に関する次の各文の出来事を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 「私」は、小さく縮んで色あせた銀木犀の花を、土の上にぱらぱらと落とした。

イ 「私」は、香りがなくなった銀木犀の花が入っているビニール袋を、そっとなでた。

ウ 「私」は、甘い香りの銀木犀の花が落ちてくるのを、夏実と二人で見上げていた。

〔　　→　　→　　〕

(2) 「私」についての次の各文の出来事を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 夏実との秘密基地だった銀木犀の木の下を、くぐって出た。

イ 夏実と一緒（いっしょ）に、二人で木に閉じ込められた、と言って笑った。

ウ 去年のことをぼんやり思い出していたら戸部君にぶつかられた。

エ 戸部君の背が自分よりずっと高くなっていることに気づいた。

〔　　→　　→　　→　　〕

(3) 本文中の銀木犀の描写からわかることを選びなさい。

ア 甘い香りの銀木犀の花が最後の場面で色あせていることから、「私」が銀木犀に興味を失っていることがわかる。

イ 銀木犀の花を「私」がお守りのようにもっていることから、銀木犀は幸せを呼ぶという言い伝えがあることがわかる。

ウ 銀木犀の花を土の上に落とす「私」の様子から、「私」が過去にとらわれず、前向きに生きるようになったことがわかる。

〔　　〕

方言と共通語

表現や発音などに、地域ごとの特色が表れた言葉を**方言**という。これに対して、全国どこでも通用するような言葉を**共通語**という。

言葉は、地域だけではなく、所属する集団や世代などによっても違（ちが）いがみられることがあり、これを社会方言という。

表現の違い

方言は、共通語にはない語句がみられたり、同じ語句でも共通語と意味が異なったりする。

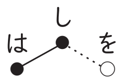
（例）自分が出したものはなおしてよ。（西日本の方言）
　　　自分が出したものは片づけてよ。（共通語）

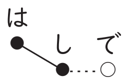
方言	共通語
かたす・なおす・のける	片づける
ほかす・ほうる・うっちゃる	捨てる
……や・……じゃ	……だ

発音の違い

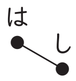
方言と共通語では、同じ語句でもアクセントなどの発音の仕方が異なることがある。

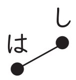
・共通語　橋を渡（わた）る。　箸（はし）で食べる。





・近畿（きんき）地方の方言　橋　箸





確認テスト

(1) 次の中から共通語を選びなさい。

ア 今日は休みだ。　**イ** 今日は休みや。

ウ 今日は休みじゃ。

〔　　〕

(2) 次の方言を共通語で言うとどうなるか答えなさい。

かたす（東日本の方言）・なおす（西日本の方言）

〔　　〕

(3) 次の方言を共通語で言うとどうなるか答えなさい。

なげる（北海道・東北地方など）・ぶちゃる（北陸地方など）

うっちゃる（関東地方・東海地方など）・ほかす（近畿地方など）

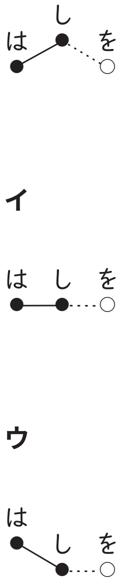
うしつる（九州地方など）・してぃゆん（奄美群島・沖縄県など）

〔　　〕

(4) 次の――線部を共通語で言うときの発音を選びなさい。

<u>橋</u>を渡る。

ア　**イ**　**ウ**

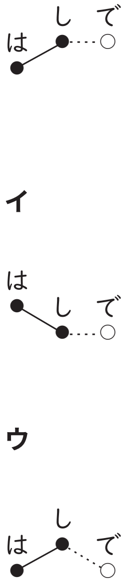


〔　　〕

(5) 次の――線部を共通語で言うときの発音を選びなさい。

<u>箸</u>で食べる。

ア　**イ**　**ウ**



〔　　〕

(6) 次の各文は共通語、方言のどちらの説明か。共通語は**ア**、方言は**イ**で、それぞれ答えなさい。

① その地方の生活や文化を反映した言葉である。

② 不特定多数の人々を対象とした文章や、日常生活を離(はな)れた抽象(ちゅうしょう)的な内容を表す文章で用いられる。

①〔　　〕　②〔　　〕

漢字の音訓

音読み・訓読み

漢字の読み方には、漢字の中国語での発音を元にしたもの（音）と、日本語にあった同じ意味の言葉を当てはめたもの（訓）がある。

●**音読み**…漢字の中国語での発音を元にした読み方。
（例）花（カ）
音読みは単独では意味がわかりにくいものも多い。
次の場合は音読みであることが多い。（例外もある）
・「ン」（撥音（はつおん））が入る。　（例）本（ホン）　※例外・何（なん）など
・小さい「ャ・ュ・ョ」が入る（拗音（ようおん））。　（例）朝（チョウ）
・ラ行で始まる。　（例）楽（ラク）

●**訓読み**…漢字にもともと日本語にあった言葉を当てはめた読み方。
（例）花（はな）
訓読みは単独でも意味がわかりやすいものが多い。
また、訓読みは送り仮名が付くものも多い。

漢字の中には、音読み・訓読みのどちらか一方でしか使われないものや、複数の音読み・訓読みがあるものもある。

（例）行　音　ギョウ・コウ・アン
　　　　訓　い－く・ゆ－く・おこな－う

複数の読み方をする熟語

熟語の中には、読み方の違い（ちが）によって異なる意味を表すものがある。

（例）・大事　大事（ダイジ）な約束。　大事（おおごと）になる。
　　　・市場　株式市場（シジョウ）。　市場（いちば）に行く。

確認テスト

(1) 次の漢字の読み方について、①～④が、音読みなら**ア**、訓読みなら**イ**で、それぞれ答えなさい。

外

① がい〔　　〕　② そと〔　　〕

③ はずーす〔　　〕　④ ほか〔　　〕

(2) 次の中から、――線部の漢字の読み方が音読みであるものを選びなさい。

ア 技巧をこらす。　**イ** 月見だんご。

ウ 坂道を下る。　**エ** 真夏の暑さ。

〔　　〕

(3) 次の中から、――線部の漢字の読み方が訓読みであるものを選びなさい。

ア 交通を遮断する。　**イ** 直線を引く。

ウ 問題に解答する。　**エ** 背丈がのびる。

〔　　〕

(4) 次の――線部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

① 期間〔　　〕　② 世間〔　　〕

(5) 次の――線部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

① 希望〔　　〕　② 所望〔　　〕

(6) 次の――線部の熟語の読みを、それぞれ答えなさい。

① 休みの間は分別のある行動を心がけよう。

② ゴミはきちんと分別するよう心がけよう。

①〔　　〕

②〔　　〕

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(1)

鈴木 俊貴

4 私は二〇〇五年から毎年、長野県軽井沢町のとある森に巣箱を掛けて、繁殖したシジュウカラの様子を観察してきました。二〇〇八年六月のある日、<u>研究の転機</u>がおとずれました。いつものように観察に向かうと、シジュウカラの巣箱にアオダイショウが迫り、ひなを食べようとしているところに出くわしたのです。そのとき、親鳥はヘビに接近し、翼を広げて威嚇しながら、けたたましく「ジャージャー」と鳴いていました。それまで、朝から夕方までシジュウカラを観察してきましたが、こんな鳴き声を聞いたのは初めてでした。シジュウカラの卵やひなを襲う天敵には、ヘビの他にカラスやネコ、イタチ類が挙げられます。親鳥は、これらの天敵には「ピーツピ」と鳴くのに対し、ヘビにだけは「ジャージャー」と鳴いていたのです。鳴き声を録音し、コンピュータで分析してみても、その違いは明らかでした。

5 私は、これらの観察から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声が、警戒すべき対象としての「ヘビ」を意味する「単語」になっているのではないかという仮説を立てました。ここでの「単語」とは、「ヘビ」や「タカ」といった異なる意味を伝える一つ一つの鳴き声だと定義することにします。

（4・5は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線部「研究の転機」とは何か。適当なものを選びなさい。

ア　シジュウカラのひなが、天敵に対して「ピーツピ」と鳴くのを聞いたこと。

イ　シジュウカラの親鳥が、天敵に対して「ピーツピ」と鳴くのを聞いたこと。

ウ　シジュウカラの親鳥が、ヘビに対して「ピーツピ」と鳴くのを聞いたこと。

エ　シジュウカラの親鳥が、ヘビに対して「ジャージャー」と鳴くのを聞いたこと。

〔　　〕

(2) 次の天敵に対して、シジュウカラは何と鳴くか。「ピーツピ」は**ア**、「ジャージャー」は**イ**で、それぞれ答えなさい。

①カラス〔　　〕　②ヘビ〔　　〕

③ネコ〔　　〕　④イタチ類〔　　〕

(3) 筆者が立てた仮説となるように、次の文の解答欄（かいとうらん）に入る言葉を、本文中からそれぞれ書きぬきなさい。

シジュウカラの「□□□□□□」という鳴き声は、「□□」を意味する「□□」である。

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ ⑵

鈴木 俊貴

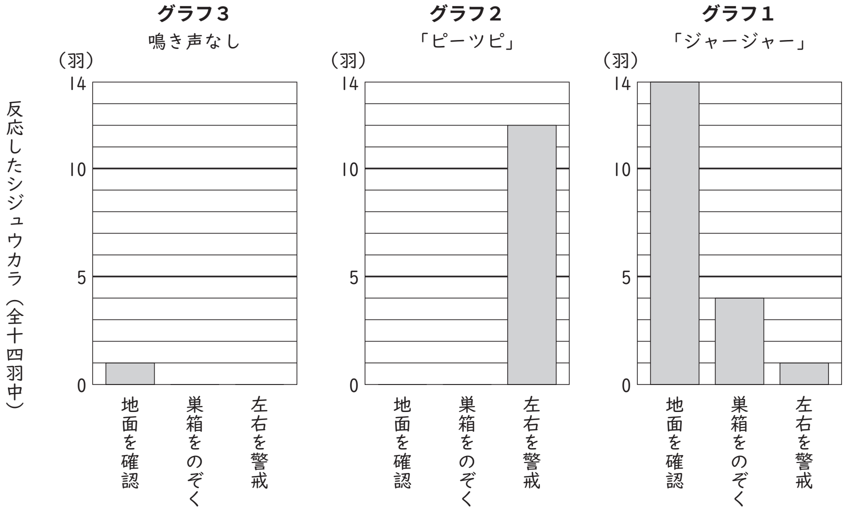
（筆者は、「ジャージャー」という鳴き声が「ヘビ」を意味する「単語」であるなら、それを聞いたシジュウカラはヘビを警戒するようなしぐさを示すかもしれないと考え、検証を行った。次の文章は、スピーカーから音声を流して聞かせたときのシジュウカラの行動の変化を観察したものである。）

8 シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、巣箱が掛かった木の周辺で地面をじっと見下ろしたり、時には巣箱の穴をのぞいたり、普段とは明らかに異なるしぐさを示しました（**グラフ1**）。いっぽう、カラスやネコなどを警戒するときの「ピーツピ」という鳴き声を聞かせても、これらの行動は見られず、首を左右に振り、周囲を警戒するだけでした（**グラフ2**）。また、鳴き声を流さない場合には、どのような種類の警戒行動もほとんど示しませんでした（**グラフ3**）。

9 ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入して卵やひなを襲います。親鳥が卵やひなを守るためには、ヘビをいち早く見つけ出し、追い払わなければなりません。「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くことは、親鳥がヘビの居場所をつき止めるうえで大いに役立つと考えられます。

10 しかし、この実験結果から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であると、十分に主張できるでしょうか。もしかしたら、「ジャージャー」という鳴き声は、「地面や巣箱を確認しろ。」といった命令であり、それを聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージすることなく、それらの行動を取ったのかもしれません。

（8〜10は教科書本文における形式段落番号を表します）



確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 8段落で述べられていることとして適当なものを選びなさい。

ア 検証の目的　**イ** 検証の問題点

ウ 実験・観察の結果　**エ** 結果に対する解釈・考察

〔　　〕

(2) 次の①〜③の場合に、地面を確認したシジュウカラは全十四羽中何羽か。**グラフ1〜3**を参考に、それぞれ算用数字で答えなさい。

① 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合

② 「ピーツピ」という鳴き声を聞かせた場合

③ 鳴き声を流さなかった場合

①〔　　羽〕②〔　　羽〕③〔　　羽〕

(3) 検証の結果、シジュウカラが左右を警戒するという反応を最も示したものを選びなさい。

ア 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合

イ 「ピーツピ」という鳴き声を聞かせた場合

ウ 鳴き声を流さなかった場合

〔　　〕

(4) 検証の結果に対する筆者の考察となるように、解答欄に入る言葉を本文中からそれぞれ書きぬきなさい。

ヘビは［　　］から木をはい上り、［　　］に侵入して卵やひなを襲うので、「ジャージャー」という鳴き声を聞いた場合のシジュウカラの行動は、親鳥がヘビの［　　　］をつき止めるのに役立つと考えられる。

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ（3）

鈴木 俊貴

（一つ目の実験の結果からは、「ジャージャー」という鳴き声がヘビを表す「単語」であるとは十分に主張できないと考えた筆者は、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、ヘビの姿をイメージしているかどうかを検証することにした。）

12 実験の手順は、以下のとおりです。まず、二十センチメートルほどの長さの小枝にひもを付け、木の幹に沿うようにぶら下げます。そして、スピーカーから「ジャージャー」という鳴き声を流します。そのうえで、遠くからひもをゆっくりと引き、まるで幹をはい上るヘビのように小枝を動かしました。

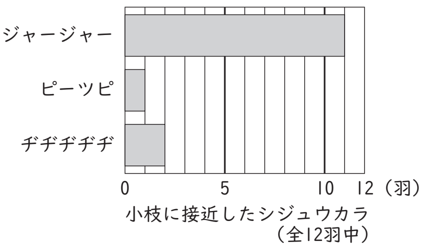
13 すると、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせたシジュウカラは、ヘビのように動く小枝に近づき、確認することがわかりました。いっぽう、「ジャージャー」以外の鳴き声を聞かせた場合、小枝に接近するシジュウカラはほとんどいませんでした（**グラフ4**）。また、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら、小枝を大きく左右に揺らし、ヘビに似ていない動きとして見せた場合も、同様の結果となりました（**グラフ5**）。

14 つまり、シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声から幹をはうヘビの姿をイメージし、それに似た動きをする小枝をヘビと見間違えたのだと解釈できます。

15 二つの実験の結果から、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージし、そのうえで、ヘビを探す際に役立つ特別な行動を取ることがわかりました。ここから、「ジャージャー」という鳴き声は「ヘビ」を意味する「単語」であると結論づけられます。

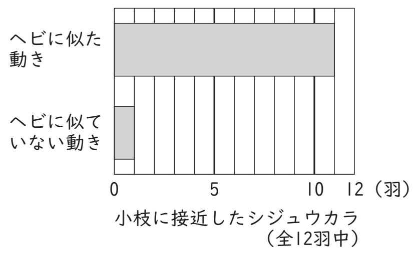
（12～15は教科書本文における形式段落番号を表します）

グラフ4 鳴き声による反応の違い



ヘビに似た動きをする小枝を見せながら、3種類の鳴き声を聞かせた。

グラフ5 小枝の動きによる反応の違い



「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら、小枝の動かし方を変えて見せた。

事実と意見

本文では、実験や観察の結果といった事実をもとに、筆者の意見が述べられている。事実と意見を分け、どの事実をもとにどの意見を述べているか読み取るようにするとよい。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 12～14段落で述べられていることとして適当なものを、それぞれ選びなさい。

ア 検証の目的　**イ** 検証の問題点　**ウ** 実験・観察の手順
エ 実験・観察の結果　**オ** 結果に対する解釈・考察

12［　］　13［　］　14［　］

(2) ヘビに似た動きをする小枝を見せながら次の鳴き声を聞かせた場合、小枝に近づく反応を示したシジュウカラが最も多かったものはどれか。記号で答えなさい。

ア 「ジャージャー」
イ 「ピーツピ」
ウ 「ヂヂヂヂ」

［　］

(3) 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら、ヘビに似ていない動きの小枝を見せた場合、小枝に近づいたシジュウカラは全十二羽中何羽いたか。**グラフ**を参考に算用数字で答えなさい。

［　羽］

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 実験の手順として、まるで幹をはい上がるヘビに見えるように、筆者はシジュウカラに小枝を大きく左右に揺らして見せた。
イ 「ジャージャー」以外の鳴き声を聞かせた場合は、ヘビに似ている動きでもシジュウカラは小枝にあまり近づかなかった。
ウ 「ジャージャー」という鳴き声を聞かせた場合は、動きがヘビに似ていない小枝にもほとんどのシジュウカラは接近した。
エ 実験の結果からは、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラがヘビをイメージしているとは解釈できない。

［　］

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ (4)

鈴木 俊貴

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

1~5	**前提となる知識**　シジュウカラはどんな鳥か。 **研究のきっかけ**　ある日、シジュウカラの親鳥が、ヘビに「ジャージャー」と鳴いていた。 **筆者が立てた仮説**　シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声は、「ヘビ」を意味する「単語」ではないか。
6~10	**仮説の検証1** **検証の目的**　シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であるかどうかを調べる。 **検証の方法**　「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、ヘビを警戒するようなしぐさを示すかどうかを調べる。 **実験・観察の手順**　ヘビがいない状況でスピーカーから音声を流して聞かせ、シジュウカラの行動変化を観察する。「ジャージャー」という鳴き声、「ピーツピ」という鳴き声、鳴き声なし、の場合を比べる。 **結果**　「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、シジュウカラは地面や巣箱を確認する行動を示した。 **結果に対する解釈・考察**　ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入するので、「ジャージャー」という鳴き声に対する行動はヘビの居場所をつき止めるのに役立つ。 **問題点**　「ジャージャー」という鳴き声は「地面や巣箱を確認しろ」という命令かもしれず、ヘビを示す「単語」だとは十分に主張できない。
11~14	**仮説の検証2** **検証の目的**　「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、ヘビの姿をイメージしているのか検証する。 **検証の方法**　「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、木の枝をヘビと見間違えるかどうか観察する。 **実験・観察の手順**　「ジャージャー」という鳴き声を聞かせたうえで、小枝をヘビのように動かし、シジュウカラの行動変化を観察する。鳴き声や小枝の動きを変えた場合の反応の違いを観察する。 **結果**　「ジャージャー」という鳴き声を聞かせて、小枝をヘビのように動かすと、シジュウカラは小枝に近づき、確認した。 **結果に対する解釈・考察**　シジュウカラは「ジャージャー」という鳴き声からヘビをイメージし、似た動きをする小枝を、ヘビと見間違えた。
15~17	**結論**　シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声は、「ヘビ」を意味する「単語」である。 これまで動物の鳴き声は感情の表れであり「単語」ではないと考えられてきたが、今回の研究でシジュウカラに「単語」があることがわかった。今後シジュウカラ以外にも「言葉」をもつ動物の存在が明らかになるかもしれない。

（1~17は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 仮説の検証1について、正しく述べたものを選びなさい。

ア 仮説を検証するため、筆者はヘビを見たシジュウカラが「ジャージャー」という鳴き声を発するかどうかを調べた。

イ 検証の結果、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、左右を警戒する行動を示す場合が最も多かった。

ウ 「ジャージャー」という鳴き声を聞いた後のシジュウカラの行動は、ヘビの居場所をつき止めるのに役立つと考えられる。

エ 検証1のみでも仮説を十分に証明することができたが、結論に説得力をもたせるために筆者は検証2も行った。

〔　　〕

(2) 仮説の検証2について、正しく述べたものを選びなさい。

ア 検証の目的は「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、ヘビの姿をイメージしているか調べることである。

イ 検証では、ヘビを見せながら三種類の鳴き声を聞かせ、それぞれの場合のシジュウカラの反応の違いを観察した。

ウ 「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、シジュウカラはどのような動きの小枝にも近づくことがわかった。

エ 検証の結果、シジュウカラの親鳥は動く小枝をヘビとよく見間違えるということが確かめられた。

〔　　〕

(3) 検証1と検証2のそれぞれからわかったこととして適当なものを選びなさい。

ア 「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、ヘビの姿をイメージしている。

イ 「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、ヘビを探す際に役立つ特別な行動を取る。

ウ 「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、ヘビをイメージすることなく警戒行動をとっている。

検証1〔　　〕　検証2〔　　〕

文法への扉2 言葉の関係を考えよう（文の組み立て）(1)

文節の関係

文節は、文の中での働きによって、主語・述語・修飾(しゅうしょく)語・接続語・独立語に分けることができる。

①主語・述語

「何（だれ）が」を表す文節を主語、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある（いる）・ない」を表す文節を述語という。主語と述語の関係を、**主・述の関係**という。

・庭に／きれいな／花が(主語)／咲く(述語)。

「……が」の他、「……は」「……も」「……だけ」なども主語を表すことがある。主語が省略された文もある。

・花も(主語)／咲いた(述語)。　・きれいに／咲いたね(述語)。

※まず述語を見つけてから、「何が（だれが）」に当たる文節（主語）を探すとよい。

②修飾語

「何の」「どんな」「いつ」「どこで」「何を」「どのように」など、他の部分をくわしく説明する文節を修飾語という。修飾語と修飾語を受ける文節（被(ひ)修飾語）の関係を、**修飾・被修飾の関係**という。

・庭に(修飾語)／きれいな(修飾語)／花が／咲く。

③接続語

文や文節をつなぐ文節を接続語という。接続語がつなぐ文同士の関係や、接続語と後に続く部分の関係を**接続の関係**という。

・晴れた。／だから、(接続語)／外出した。

・晴れたので、(接続語)／外出した。

④独立語

他の文節と直接は結びつかない文節を独立語という。独立語とそれ以外の文節の関係を**独立の関係**という。

・ああ、(独立語)／すばらしい／景色だ。　（感動）

・こんにちは、(独立語)／いい／天気ですね。　（挨拶(あいさつ)）

・先生、(独立語)／宿題です。　（呼びかけ）

・はい、(独立語)／わかりました。　（応答）

・早寝早起き、(独立語)／これが／大切です。　（提示）

確認テスト

(1) 例に従って、次の各文に含（ふく）まれる主語に══線を、述語に──線を引きなさい。ただし、主語が省略されている文は述語のみに線を引きなさい。

（例）庭に　きれいな　花が　咲く。

① ネコは　とても　身近な　動物です。

② 昨日、私も　その　駅に　いました。

③ 友達と　図書室で　資料を　探した。

④ 難しいよ、この　問題は。

(2) 次の文について、①～④の修飾語が修飾している文節をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

明るい　星が、南の　空に　美しく　輝（かがや）いた。

① 明るい［　　］　② 南の［　　］

③ 空に［　　］　④ 美しく［　　］

ア　星が　**イ**　空に　**ウ**　美しく　**エ**　輝いた

(3) 次の中から、──線部が接続語では**ない**ものを選びなさい。

ア　雨なので、今日は休みです。

イ　暑ければ、窓を開けてね。

ウ　博士、これを見てください。

エ　一時間たった。だが、まだ着かない。

［　　］

(4) 次の中から、──線部が独立語では**ない**ものを選びなさい。

ア　一日一善、これをいつも心がけています。

イ　突然、激しい雨が降り出した。

ウ　おや、お久しぶりですね。

エ　いいえ、それは間違（まちが）いです。

［　　］

係(かか)り受け

二つの文節が互(たが)いに意味の上で結びついているとき、「前の文節は後の文節に係る」、「後の文節は前の文節を受ける」、という。

（例）白い(修飾)→鳥が(主)　空を(修飾)→飛ぶ。(述)

主・述の関係や、修飾(しゅうしょく)・被(ひ)修飾の関係などの係り受けが対応していないと、不自然な文になる。また、係り受けの仕方が複数考えられる場合は、意味が複数に解釈(かいしゃく)できることがある。

（例）大きな→ネコの 絵（大きいのはネコ）
大きな ネコの→絵（大きいのは絵）

体言・用言

●**体言**…主語の中心となる単語（名詞）。活用しない。

（例）鳥（体言（名詞））が／鳴く。

●**用言**…活用があり、単独で述語になることができる単語（動詞・形容詞・形容動詞）。

（例）花が／咲く（用言（動詞））。　花が／赤い（用言（形容詞））。　花が／きれいだ（用言（形容動詞））。

※名詞も述語になることがあるので注意。

連体修飾語・連用修飾語

修飾語は、何を修飾するかによって2種類に分けられる。

・**連体修飾語**…体言（名詞）を含(ふく)む部分を修飾するもの。「何の」「どんな」などを表す。

（例）私は　赤い(修飾)→花を　買った。

・**連用修飾語**…用言（動詞・形容詞・形容動詞）を含む部分を修飾するもの。「何（だれ）に」「何（だれ）を」「いつ」「どこで」「どのように」などを表す。

（例）私は　赤い　花を(修飾)→買った。

確認テスト

(1) 次の文について、――線部を修飾している文節を全て選び、記号で答えなさい。

私は　先月、　友達と　京都に　行きました。

ア 私は　**イ** 先月　**ウ** 友達と　**エ** 京都に　〔　　〕

(2) 次の文について、①～④の二つの文節がどのような関係になっているかをそれぞれ**ア**～**ウ**から選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

私の　兄は、　毎朝　新聞を　読む。

①「私の」と「兄は」〔　　〕　②「兄は」と「読む」〔　　〕

③「毎朝」と「新聞を」〔　　〕　④「新聞を」と「読む」〔　　〕

ア 主・述の関係

イ 修飾・被修飾の関係

ウ 直接の係り受けの関係はない

(3) 次の各文の――線部が、体言なら**ア**、用言なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① あれは私たちの学校だ。〔　　〕

② 公園のツツジが美しい。〔　　〕

③ 彼(かれ)はこの店で紅茶を飲む。〔　　〕

④ 強い雨も降りだした。〔　　〕

(4) 例に従って、次の各文の～～線部が修飾している文節に――線を引きなさい。

(例) 庭に　きれいな　花が　咲(さ)く。

① この　大きな　木は、　町の　シンボルです。

② しばらく　道を　歩くと、　駅に　着いた。

(5) 次の各文について、～～線部が連体修飾語なら**ア**、連用修飾語なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① 黒い犬がほえた。〔　　〕　② 外で犬がほえた。〔　　〕

③ とても楽しい話だ。〔　　〕　④ とても楽しい話だ。〔　　〕

連文節

二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語などと同じ働きをするものを**連文節**という。

連文節で主語・述語・修飾語・接続語・独立語と同じ働きをするものをそれぞれ、**主部**・**述部**・**修飾部**・**接続部**・**独立部**とよぶ。

・白い（修飾語） 鳥が（主語） 飛ぶ。（述語） → 白い 鳥が（主部） 飛ぶ。

・彼は（主語） 兄の（修飾語） 友達だ。（述語） → 彼は 兄の 友達だ。（述部）

連文節では、並立や補助といった関係がみられることがある。

●並立の関係

二つ以上の文節が対等な関係で並び、ひとまとまりになっているものを、並立の関係という。

（例）雨と 風が（並立の関係（主部）） 強い。　その 山は 高く けわしい。（並立の関係（述部））

並立の関係の見分け方

並立の関係になっている文節同士は、文節の内容を入れ替えても意味が変わらない。

（例）雨と風が ＝ 風と雨が

●補助の関係

下の文節が上の文節の意味を補って、ひとまとまりになっているものを、補助の関係という。

（例）犬が 走って いる。（補助の関係）　本が 置いて ある。（補助の関係）

これを 見て ほしい。（補助の関係）　今日は 暑く ない。（補助の関係）

補助の関係では、下の文節（補助の文節）はもとの意味が薄れ、上の文節の意味を補っている。このような補助の文節に含まれる動詞や形容詞を、補助動詞・補助形容詞という。

（例）今 走って いる。（補助動詞）

（補助動詞「いる」は、もとの意味が薄れ、今動作が継続しているという意味を補う働きをしている。）

補助の関係の見分け方

補助の関係は、次のような形になっている。

・……て（で）＋補助動詞（補助形容詞）

（例）……て いる　……て ある　……て みる

……て くる　……て いく　……て おく

……て あげる　……て もらう　……て ほしい

・形容詞（形容動詞）＋補助形容詞「ない」

（例）暑く（形容詞） ない（補助形容詞）

確認テスト

(1) 次の各文の——線部の連文節の働きを、それぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

① 彼女(かのじょ)は　難しい　本を　読む。 [　　]
② 彼の　弟は　元気な　小学生だ。 [　　]
③ とても　寒いので、　コートを　着た。 [　　]
④ おだやかな　波が　水面に　広がる。 [　　]
⑤ 今年の　目標、　それは　優勝だ。 [　　]

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部
エ 接続部　**オ** 独立部

(2) 次の中から、——線部の二つの文節が、並立の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 梅と　桜が　咲(さ)いた。
イ 母と　山に　行った。
ウ 彼は　歩いて　きた。
エ 海は　広くて　大きい。

[　・　]

(3) 次の中から、——線部の二つの文節が、補助の関係になっているものを二つ選びなさい。

ア 先生は　本を　読んで　いる。
イ 先生は　今　図書室に　いる。
ウ 赤い　リンゴが　ない。
エ リンゴが　赤く　ない。

[　・　]

(4) 次の中から、——線部の二つの文節が、並立の関係になっているものと補助の関係になっているものを、それぞれ二つ選びなさい。

ア おいしい　お菓子(かし)を　もらった。
イ 鉛筆(えんぴつ)か　ペンを　借りたいです。
ウ 新しく　ない　備品を　整理しよう。
エ 自分の　知識を　試(ため)して　みた。
オ 遊園地まで　車で　出かけた。
カ 得意な　教科は　国語や　英語だ。

並立の関係 [　・　]
補助の関係 [　・　]

言葉の関係を考えよう（文の組み立て）(4)

文の成分

日本語の文は、**主・述・修飾**（しゅうしょく）**・接続・独立**の５種類の文の成分が組み合わさって成り立っている。

①**主**（語・部）…「何（だれ）が」を表すまとまり。

（例）青い 海が（主） 広がる。

②**述**（語・部）…「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある（いる）・ない」を表すまとまり。

（例）バラは とても 美しい 花だ。（述）

③**修飾**（語・部）…「いつ」「どこで」「何を」「どのように」などを表すまとまり。

（例）彼（かれ）は 何かが 光るのを（修飾） 見た。

④**接続**（語・部）…前後の内容の関係や、後の内容に対する理由・条件などを表すまとまり。

（例）強い 風が 吹いたので、（接続） 窓を 閉めた。

⑤**独立**（語・部）…文の他の部分と直接は結びつかないまとまり。

（例）私の 目標、（独立） それは 毎日 運動する ことです。

文の組み立て

「何（だれ）が」「何を」「どうする」など、文の成分がどのように組み立てられているかを考えることで、文の意味を正確に理解することができる。

・私と 姉は、 日曜日に ピアノを 練習して いる。

（組み立て）私と姉は（だれが） → 練習している。（どうする）
日曜日に（いつ） → 練習している。
ピアノを（何を） → 練習している。

・私は 昨日、 彼が 駅に いるのを 見た。

（組み立て）私は（だれが） → 見た。（どうした）
昨日（いつ） → 見た。
彼が駅にいるのを（何を） → 見た。

・怖（こわ）い 話を 聞いたので、 全然 眠（ねむ）れなかった。

（組み立て）怖い話を聞いたので（なぜ） → 全然眠れなかった。

確認テスト

(1) 次の文の——線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

①昨日、 ②彼は ③図書館で ④本を ⑤読んだ。

ア 主語　**イ** 述語　**ウ** 修飾語　**エ** 接続語　**オ** 独立語

①〔　〕 ②〔　〕 ③〔　〕 ④〔　〕 ⑤〔　〕

(2) 次の文の——線部の働きを選びなさい。

昨日、私は 彼が 図書館で 本を 読むのを 見た。

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

〔　〕

(3) 次の文の——線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

①カラスと 雁(がん)が ②秋の 空を ③飛んで いた。

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

①〔　〕 ②〔　〕 ③〔　〕

(4) 次の文の——線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

①今日は 休みなので、 ②妹と 弟は ③近くの 公園で ④遊んで いる。

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

①〔　〕 ②〔　〕 ③〔　〕 ④〔　〕

(5) 次の文の——線部の働きをそれぞれ**ア**～**オ**から選びなさい。

①一年生の みなさん、 ②今日の 宿題は ③テストの 解き直しです。

ア 主部　**イ** 述部　**ウ** 修飾部　**エ** 接続部　**オ** 独立部

①〔　〕 ②〔　〕 ③〔　〕

聴きひたる　大阿蘇

三好　達治

大阿蘇

三好　達治

雨の中に馬がたっている
一頭二頭子馬をまじえた馬の群れが　雨の中にたっている
雨は蕭々と降っている
馬は草をたべている
尻尾も背中も鬣も　ぐっしょりと濡れそぼって
彼らは草をたべている
草をたべている
あるものはまた草もたべずに　きょとんとしてうなじを垂れてたっている
雨は降っている　蕭々と降っている
山は煙をあげている
中岳の頂から　うすら黄いろい　重っ苦しい噴煙が濛々とあがっている
空いちめんの雨雲と
やがてそれはけじめもなしにつづいている
馬は草をたべている
草千里浜のとある丘の
雨に洗われた青草を　彼らはいっしんにたべている
たべている
彼らはそこにみんな静かにたっている
ぐっしょりと雨に濡れて　いつまでもひとつところに　彼らは静かに集まっている
もしも百年が　この一瞬の間にたったとしても　何の不思議もないだろう
雨が降っている　雨が降っている
雨は蕭々と降っている

阿蘇山

阿蘇山は熊本県北東部に位置する火山で、高岳・中岳などの山々から構成される。草千里ヶ浜（草千里浜）は阿蘇山中の草原で、東に噴煙をあげる中岳を見ることができる。

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 詩を、使われている言葉や形式から分類したときに、「大阿蘇」に当てはまるものを次から二つ選びなさい。

ア 文語詩　**イ** 口語詩
ウ 定型詩　**エ** 自由詩　**オ** 散文詩

［　　・　　］

(2) 「蕭々」の意味を選びなさい。

ア とらえどころがない様子。　**イ** ものさびしい様子。
ウ 光が明るい様子。　**エ** 荒れ狂う様子。

［　　］

(3) 「濛々」の意味を選びなさい。

ア 温度が高い様子。　**イ** 静かな様子。
ウ あらあらしい様子。　**エ** 一面に立ちこめる様子。

［　　］

(4) 「大阿蘇」で用いられている表現技法として、適当なものを選びなさい。

ア 直喩　**イ** 体言止め　**ウ** 反復

［　　］

(5) 「大阿蘇」では、阿蘇の風景を描いた箇所で行末に同じ言葉が繰り返されている。その行末の三字を書きぬきなさい。

□□□

(6) 「大阿蘇」で、阿蘇の風景の中で感じた作者の思いが描かれている行を探し、最初の三字を答えなさい。

□□□

古典の仮名遣い

古典の文章は、主に平安時代中頃以前の日本語の発音をもとにした仮名で書かれており、これを**歴史的仮名遣い**という。これに対して、現代の仮名の書き表し方を**現代仮名遣い**という。

（例　歴史的仮名遣い　→　現代仮名遣い）
　あふぎ（扇）　→　おうぎ

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときは、次の規則がある。

①語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」
（例）あはれ→あわれ　いふ→いう
※語頭のハ行はそのまま。
（例）ふみ（文）→ふみ
※助詞「は」「へ」などもそのまま。
（例）花の色は→花の色は

②「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」
（例）ゐる→いる　こゑ→こえ　をとこ→おとこ
※助詞「を」などはそのまま。
（例）それを見れば→それを見れば

③「ぢ・づ」→「じ・ず」
（例）なんぢ→なんじ　いづれ→いずれ

④「くわ・ぐわ」→「か・が」
（例）くわじ（火事）→かじ　きぐわん（祈願）→きがん

⑤助動詞や助詞の「む・なむ」→「ん・なん」
（例）あはむ（逢はむ）→あわん　竹なむ→竹なん

⑥母音（a・i・u・e・o）が連続するとき
・**au**（ア段＋う・ふ）→ **ô**
（例）やうす（様子）→ようす
・**iu**（イ段＋う・ふ）→ **yû**
（例）うつくしう（美しう）→うつくしゅう
・**eu**（エ段＋う・ふ）→ **yô**
（例）けふ（今日）→きょう

確認テスト

(1) 次の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

にほへど

〔　　　　〕

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

ゑひ

〔　　　　〕

(3) 次の中から、――線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したものとして、適当なものを選びなさい。

ア　ほのかに　→　おのかに
イ　秋は夕暮れ　→　秋わ夕暮れ
ウ　泣きゐたる　→　泣きいたる
エ　竹を取り　→　竹お取り

〔　　　　〕

(4) 次の中から、――線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したものとして、適当でないものを選びなさい。

ア　うるはし　→　うるあし
イ　をかし　→　おかし
ウ　よろづ　→　よろず
エ　にんぐわつ　→　にんがつ

〔　　　　〕

(5) 次の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

やうやう

〔　　　　〕

音読を楽しむ　いろは歌 (2)

いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うゐのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

①色はにほへ(オ)ど(エ)
散りぬるを
②我(わ)が世たれぞ
常ならむ(ン)
※有為(うゐ)(イ)の奥山(おくやま)
今日(けふ)(キョウ)越(こ)えて
浅き夢見じ
酔(ゑ)(エ)ひ(イ)もせず

※有為…因縁によって生じるすべての現象・存在で、絶えず生じては滅しており、無常なもの。

いろは歌

いろは歌は、四十七の仮名文字を一回ずつ使って作られた七五調の歌。平安時代に成立したとされており、作者は不明。平安時代中期から流行した、七音・五音を四回繰(く)り返す、**今様(いまよう)**とよばれる形式になっている。古くから仮名を学ぶ手本として、また、物の順序を示すためのものとして用いられてきた。

確認テスト　「いろは歌」を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の**ア**～**エ**を、いろは歌の順になるように並べかえなさい。

ア　いろはにほへと　　**イ**　ちりぬるを
ウ　つねならむ　　**エ**　わかよたれそ

〔　→　→　→　〕

(2) 次の**ア**～**エ**を、いろは歌の順になるように並べかえなさい。

ア　あさきゆめみし　　**イ**　うゐのおくやま
ウ　けふこえて　　**エ**　ゑひもせす

〔　→　→　→　〕

(3) ――線①「色はにほへど」の意味を選びなさい。

ア　花の色は強い香りがしても
イ　花の色は美しく照り映(は)えていても
ウ　花はさまざまな香りがあるけれど
エ　花はさまざまな色があるけれど

〔　　〕

(4) ――線②「我が世たれぞ／常ならむ」の意味を選びなさい。

ア　私たちの世の中は、すべてが日常である。
イ　私たちの世の中は、変わることがないのである。
ウ　私たち、この世の誰(だれ)もが永久に変わらないのである。
エ　私たち、この世の誰が永久に変わらないことがあろうか。

〔　　〕

蓬萊の玉の枝――「竹取物語」から(1)

『竹取物語』の基礎知識

『竹取物語』は**平安時代**の初め頃に成立した物語。作者はわかっていないが、当時知られていた伝承をもとにつくられたと考えられている。
現存する日本最古の物語といわれ、『源氏物語』の中では、**「物語の出で来はじめの祖」**と述べられている。

『竹取物語』は、竹取の翁（さぬきの造）とかぐや姫（なよ竹のかぐや姫）を中心に、次の流れで話が展開する。

・かぐや姫の生い立ち
竹取の翁が竹の中からかぐや姫を見つけ、翁と嫗は姫を育てる。

・五人の貴公子の求婚
石作の皇子、くらもちの皇子、右大臣・阿倍御主人、大納言・大伴御行、中納言・石上麿足の五人の貴公子がかぐや姫に求婚するが、姫は五人に難題を出す。

・帝からの求婚
帝はかぐや姫を宮中に召そうとされるが、かぐや姫は応じない。かぐや姫と帝は歌や手紙を交わす。

・かぐや姫の昇天
かぐや姫は自身が月の都の者であることを明かし、翁や帝が引き止めようとする中、天人とともに月へと昇っていく。

古文の特色

●歴史的仮名遣い

①語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「**わ・い・う・え・お**」
※語頭のハ行や、助詞「は」「へ」などはそのまま。
②「ゐ・ゑ・を」→「**い・え・お**」 ※助詞「を」などはそのまま。
③「ぢ・づ」→「**じ・ず**」
④「くわ・ぐわ」→「**か・が**」
⑤助動詞や助詞の「む・なむ」→「**ん・なん**」
⑥母音（a・i・u・e・o）が連続するとき
・au（ア段＋う・ふ）→ **ô**
・iu（イ段＋う・ふ）→ **yû**
・eu（エ段＋う・ふ）→ **yô**

●古文の文末表現

古文には、現代では見られない文末の表現がある。
「〜けり（〜た、〜たそうだ）」・「〜たり（〜た、〜ている）」
「〜なり（〜だ、〜である）」・「〜ぬ（〜た、〜てしまった）」

●古文の語句

古文には、「いと（とても）」のように、現代では使われなくなった語句や、「うつくし（かわいらしい）」のように、現代と意味が異なる語句が見られる。

確認テスト

(1) 『竹取物語』が成立した時代を選びなさい。

ア 平安時代　イ 鎌倉(かまくら)時代　ウ 室町(むろまち)時代

〔　　〕

(2) 『竹取物語』の展開に沿って、次の**ア**～**エ**を並べかえなさい。

ア かぐや姫と帝は、歌や手紙を交わした。
イ かぐや姫は天人とともに月へと昇っていった。
ウ 求婚する五人の貴公子に、かぐや姫は難題を出した。
エ 竹取の翁は竹の中からかぐや姫を見つけた。

〔　　→　　→　　→　　〕

(3) 次の文の（　　）に当てはまる仮名を答えなさい。

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すとき、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「(①)・い・(②)・え・お」になる。

①〔　　〕 ②〔　　〕

(4) 次の古文の表現の意味として最も適当なものを選びなさい。

使ひけり。

ア 使われる。（お使いになる。）
イ 使った。（使ったそうだ。）
ウ 使うだろう。（使うつもりだ。）
エ 使うのだ。（使うのである。）

〔　　〕

蓬莱の玉の枝――「竹取物語」から (2)

『竹取(たけとり)物語』冒頭(ぼうとう)

今は昔、竹取の翁(おきな)といふ者(ウ)ありけり。
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづ(エ)のことに使ひ(イ)けり。
分け入って　取っては、　いろいろなことに

名をば、さぬきのみやつことなむいひける。
名を、「さぬきのみやつこ」といった。

その竹の中に、もと光る竹なむ(ン)一筋ありける。
(ある日) その竹の中に、根元の光る竹が　一本あった。

①あやしがりて、寄りて見るに、筒(つつ)の中光りたり。
近寄って見ると、　光っている。

それを見れば、※三寸(さんずん)ばかりなる人、②いとうつくしうてゐたり。
三寸ほどである人が、　座っている。

翁はその子を手の中に入れて家へ帰り、嫗(おうな)とともに育てました。その後、翁はたびたび黄金(こがね)の入った竹を見つけるようになり、次第(しだい)に裕福(ゆうふく)になっていきました。翁と嫗に育てられた子は三か月ほどで美しい娘(むすめ)に成長し、やがて「※なよ竹のかぐや姫(ひめ)」と名づけられました。

※三寸…一寸は約三センチメートル。三寸はここではきわめて小さいという意味で用いられている。
なよ竹…細くてしなやかな若い竹。

古文の読み方

古文では、主語や助詞などがなかったり省略されていたりする。古文を読むときは言葉を補いながら読むとよい。

(例)…竹取の翁といふ者〈が〉ありけり。〈竹取の翁は〉野山にまじりて…

重要語句

よろづ	いろいろ・全ての事
あやしがる	不思議に思う
いと	とても・たいそう
うつくし	かわいらしい
ゐる	座る・いる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い(づかい)に直したものとなるように、解答欄(かいとうらん)に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

さぬきのみやつことなむいひける

さぬきのみやつこと［　　　　］

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

いとうつくしうてゐたり

いと［　　　　］

(3) ——線①「あやしがりて」の意味を選びなさい。

ア 美しく思って　**イ** 恐(おそ)ろしく思って

ウ 不気味に思って　**エ** 不思議に思って

［　　］

(4) ——線②「いとうつくしうて」の意味を選びなさい。

ア ちょっときれいな様子で

イ とてもかわいらしい様子で

ウ わずらわしく思っている様子で

［　　］

蓬莱の玉の枝 ——「竹取物語」から (3)

蓬莱(ほうらい)の玉の枝

かぐや姫(ひめ)の美しさは評判となり、多くの人がかぐや姫のもとを訪(おとず)れるようになりました。このなかで、いつまでも求婚(きゅうこん)をつづける五人の貴公子に対し、かぐや姫は難題を出します。貴公子の一人で、※蓬莱の玉の枝を持ってくるように言われたくらもちの皇子(みこ)は、ひそかににせの玉の枝を作らせ、翁(おきな)の家を訪れました。次の文章は、くらもちの皇子が語った架空(かくう)の冒険談(ぼうけんだん)です。

これや我(わ)が求むる山ならむ(ン)と思ひ(イ)て、
（これこそ私が求めている山であろうと　思って、）

さすがに恐(おそ)ろしくおぼえて、①山のめぐりをさしめぐらして、
（そうはいってもやはり恐ろしく思われて、山の周囲を　こぎ回らせて、）

二、三日ばかり、見歩(あり)くに、天人のよそほひしたる女、
（見て回っていると、天人の服装をしている女が、）

山の中よりいで来て、銀(しろかね)の金鋺(かなまる)を持ちて、水をくみ歩く。
（出て来て、　銀のおわんを）

これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ(ウ)。
（何と申しますか。）

女、答へ(エ)ていはく(ワ)、「これは、蓬莱の山なり。」と答ふ(ウ)。
（答えて言うことには、）

これを聞くに、②うれしきこと限りなし。
（うれしいことこの上ない。）

※蓬莱…蓬莱山。古代中国の伝説で、東海の中にあり仙人が住むという。かぐや姫は、この山に立っているという玉（宝玉）の実がなる木の枝を持ってくるよう求めた。

重要語句

さすがに	そうはいってもやはり
おぼゆ	思われる・感じる
いはく	言うことには

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い（づか）に直し、ひらがなで答えなさい。

よそほひ　［　　　］

(2) ——線①「山のめぐりを……見歩く」とあるが、なぜ山の周囲を見て回っていたのか。適当なものを選びなさい。

ア 山がたいへん高く、美しかったから。

イ 山が恐ろしく思われたから。

ウ 山が蓬莱の山ではないと思ったから。

エ 山にいる天人の姿が見えなかったから。

［　　　］

(3) ——線②「うれしきこと限りなし」とあるが、なぜうれしかったのか。適当なものを選びなさい。

ア 天人に会うことができたから。

イ 着いた山が探し求めていた山だったから。

ウ ようやく船から下りることができたから。

［　　　］

(4) 次の本文中の言葉の中から、「天人のよそほひしたる女」の行動ではないものを選びなさい。

ア 山の中よりいで来て

イ 銀の金鋺を持ちて

ウ 船より下りて

［　　　］

蓬莱の玉の枝――「竹取物語」から(4)

蓬莱(ほうらい)の玉の枝

かぐや姫(ひめ)から蓬莱の玉の枝を持ってくるように言われたくらもちの皇子(みこ)は、にせの玉の枝を作らせ、翁(おきな)の家で架空(かくう)の冒険談(ぼうけんだん)を語っています。

その山、見るに、①さらに登るべきやうなし。
その（蓬莱の）山は、

その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。
斜面の裾をめぐっていくと、　この世にはない花の木々が立っている。

金(こがね)、銀(しろかね)、瑠璃(るり)色の水、山より流れいでたり。
流れ出ている。

それには、色々の玉の橋渡(わた)せり。
それ（その水の流れ）には、さまざまな色の玉でできた橋が渡してある。

そのあたりに、照り輝(かかや)く木ども立てり。
その近くに、

その中に、この取りてまうで来たりしは、
その中で、　ここに取ってまいりましたのは、

いとわろかりしかども、②のたまひしに違(たが)はましかばと、
たいへん見劣りするものでしたが、

この花を折りてまうで来たるなり。
この花を折ってまいったのです。

このように蓬莱の玉の枝について語っていたくらもちの皇子でしたが、そこへ玉の枝を作った職人たちが褒美(ほうび)を求めてやってきたため、うそがばれてしまいました。

古文の読み方

古文では主語や助詞以外にも言葉が省略されていることがある。文脈を考えて、省略されている内容を補いながら読むとよい。

（例）……違はましかばと、……
違(ちが)っていては（いけないだろう）と（思って）、

重要語句

さらに……（なし）	決して・全く……（ない）
わろし	よくない・見劣(みおと)りする
のたまふ	おっしゃる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣(づか)いに直したものとなるように、解答欄(かいとうらん)に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

さらに登るべきやうなし

さらに登るべき［　　　］

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

まうで来たるなり

［　　　］来たるなり

(3) ——線①「さらに登るべきやうなし」の意味を選びなさい。

ア これ以上登るべきではない
イ そのままでは登る必要がない
ウ 全く登りようがない

［　　　］

(4) ——線②「のたまひしに違はましかばと」の意味を選びなさい。

ア いただいたものとは違わないだろうと思って
イ おっしゃったものと違っていてはいけないだろうと思って
ウ 申し上げたものと違っているほうがよいだろうと思って

［　　　］

(5) 次の中から、くらもちの皇子が語った内容に合うものを選びなさい。

ア 山の頂上には、照り輝く木が立っていた。
イ 金・銀・瑠璃色の水には、玉の橋が渡してあった。
ウ くらもちの皇子は最も美しい花を持ってきた。

［　　　］

かぐや姫の昇天とふじの山

帝もたびたびかぐや姫を宮中に迎えようとされましたが、かぐや姫は応じません。やがてかぐや姫は月を見ては嘆き悲しむようになり、翁と嫗に、自分は月の都の者で、次の十五日に月からの迎えが来ると打ち明けます。※八月十五日の夜、帝が遣わした兵士たちが守る翁の家に、大空から天人が現れます。かぐや姫は翁と帝に手紙を書き、帝への手紙には不死の薬の入った壺を添えました。

ふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば、
（天人が）さっと天の羽衣を着せて差し上げたところ、

翁を、①いとほし、かなしと思しつることも失せぬ。
気の毒だ、ふびんだ、とお思いになっていたことも消え失せてしまった。

この衣着つる人は、物思ひなくなりにければ、車に乗りて、
この衣を着た人（かぐや姫）は、物思いがなくなってしまったので、（天の）車に乗って、

②百人ばかり天人具して、昇りぬ。
（天に）昇ってしまった。

不死の薬の壺と手紙を受け取った帝はひどく悲しみます。帝は、かぐや姫に会うこともないのに不死の薬など何の役に立とうかと、※駿河の国にあるという天に近い山の山頂に、不死の薬の壺を持っていくよう使者にお命じになりました。

御文、不死の薬の壺並べて、火をつけて燃やすべきよし仰せたまふ。
手紙、　燃やすべき旨を　ご命令になる。

そのよしうけたまはりて、士ども③あまた具して
（帝の使者が）その旨を承って、　兵士たちを　引き連れて

山へ登りけるよりなむ、その山を「ふじの山」とは名づける。
山へ登ったことから、　名付けたのである。

その煙、いまだ雲の中へ立ちのぼるとぞ、言ひ伝へたる。
いまだに　言い伝えている。

※八月十五日…旧暦八月十五日は中秋の名月の日。
駿河の国…現在の静岡県中央部。

重要語句

いとほし	かわいそうだ・気の毒だ
思す	お思いになる
具す	引き連れる
仰す	言いつける・命じる
あまた	数多く・たくさん

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「いとほし、かなし」とは、誰（だれ）のどのような心情か。適当なものを選びなさい。

ア 翁の、かぐや姫をいとしいと思う心情。
イ かぐや姫の、翁が気の毒でつらく思う心情。
ウ 天人の、翁とかぐや姫の二人をあわれに思う心情。

〔　　〕

(2) ——線②「百人ばかり天人具して」が表す意味となるように、次の（　）に補う語として最も適当なものを選びなさい。

百人ほど天人（　）引き連れて

ア が　**イ** を　**ウ** に　**エ** と

〔　　〕

(3) ——線③「あまた」の意味を選びなさい。

ア たくさん　**イ** 残りの　**ウ** 再び

〔　　〕

(4) 次の中から、本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 天人は、天の羽衣を取って翁に着せた。
イ かぐや姫は、嘆き悲しみながら月に昇っていった。
ウ 帝は、手紙と不死の薬の壺を燃やすよう命じた。

〔　　〕

矛盾

楚人に、盾と矛とを鬻ぐ者有り。之を誉めて曰はく、

楚の国の人で、盾と矛とを売る者がいた。（その人が）盾をほめて言うことには、

「吾が盾の堅きこと、①能く陥すもの莫きなり。」と。

私の盾の堅いことといったら、

又、其の矛を誉めて曰はく、

「吾が矛の利なること、物に於いて②陥さざる無きなり。」と。

私の矛の鋭い（鋭利な）ことといったら、物で突き通せないものはない、と。

或るひと曰はく、

「③子の矛を以て、子の盾を陥さば、何如。」と。

④其の人、応ふること能はざるなり。

答えることができなかった。

（『韓非子』）

故事成語

昔の出来事(故事)がもととなってできた言葉を**故事成語**という。故事成語の多くは、中国の古典に記された話がもととなっている。本文は『**韓非子**』という書物に収められている話である。

（その他の故事成語）

・**蛇足**

意味 あっても益がない、余計なもの。

由来 ある人々が、蛇を先に描き上げた者が酒を飲めるという競争をした。最初に蛇を描いた者が得意げに蛇に足まで描き入れたところ、蛇にない足を描いたということで酒をもらい損ねたというたとえ話から。（『戦国策』より）

・**四面楚歌**

意味 周囲を敵に囲まれ、孤立すること。

由来 楚の項羽が漢の劉邦の軍に包囲されたとき、夜、四方の漢軍から楚の歌が聞こえた。項羽は驚き、既に楚の人々が漢に降伏したのだと思い嘆いたという故事から。（『史記』より）

・**推敲**

意味 詩や文章の表現を何度も練り直すこと。

由来 唐の詩人・賈島が「僧推月下門」という句の「推す」を「敲く」に改めるべきか悩んでいたところ、都の長官である韓愈の行列にぶつかってしまった。わけを話すと、韓愈は「敲く」がよいと助言したという故事から。（『唐詩紀事』より）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「能く陥すもの莫きなり」の意味を選びなさい。

ア　（これを）突き通せるものはない
イ　（これを）突き通せないものはない
ウ　（これを）あまり突き通すものはない
エ　（これを）あまり突き通さないものはない

［　　］

(2)　――線②「陥さざる無きなり」と同じ意味を表すものを選びなさい。

ア　何も突き通せない
イ　何でも突き通せる
ウ　何かは突き通せるだろう

［　　］

(3)　――線③「子の矛を以て、子の盾を陥さば、何如」の意味を選びなさい。

ア　子どもの矛で子どもの盾を突き通してはならない
イ　子どもの矛で子どもの盾を突き通すとどうなるのか
ウ　あなたの矛であなたの盾を突き通してはならない
エ　あなたの矛であなたの盾を突き通すとどうなるのか

［　　］

(4)　――線④「其の人」と同じ人物を指す本文中の言葉を次から選びなさい。

ア　盾と矛とを鬻ぐ者　　**イ**　或るひと

［　　］

(5)　次の**A**〜**D**の故事成語の意味を、それぞれ選びなさい。

A　矛盾［　　］　**B**　蛇足［　　］
C　四面楚歌［　　］　**D**　推敲［　　］

ア　周囲を敵に囲まれ、孤立すること。
イ　詩や文章の表現を何度も練り直すこと。
ウ　あっても益がない、余計なもの。
エ　つじつまが合わないこと。

漢文の訓読

漢文を日本語の規則に従って読むことを**訓読**という。漢字だけで書かれた原文を**白文**といい、これに**訓点**という訓読のための文字や記号を加えたものを**訓読文**という。

〈白文〉我読書　→　〈訓読文〉我 読(ム)レ 書(ヲ)。

主な訓点には次のようなものがある。

●**送り仮名**…漢字の右下に、カタカナで送り仮名を書く。訓読では、「て・に・を・は」といった助詞や、助動詞なども補う。

（例）楚人(ニ) 有(リ)

●**返り点**…漢文を日本語の語順で読むため、漢字の左下に補う。

・**レ点**……下から上に一字返って読むことを表す。

（例）[2]レ[1]　誉(メテ)レ之(ヲ)曰(ハク)、

・**一・二点**…下から上に二字以上返って読むことを表す。

（例）[3]二[1][2]一　莫(キ)二能(ク)陥(スモノ)一也(ト)

●**句読点**……語句や文の切れ目を表すために補う。

（例）吾(ガ)盾之堅(キコト)、莫(キ)二能(ク)陥(スモノ)一也(ト)。

訓読文を、漢字仮名交じり文に書き改めたものを**書き下し文**という。

〈訓読文〉我 読(ム)レ書(ヲ)。　→　〈書き下し文〉我書を読む。

訓読文を書き下し文に直すときは、次のような決まりがある。

・送り仮名はひらがなに改める。

（例）楚人(ニ)　→　楚人に

・返り点が示す順に従って書き改める。

（例）誉(メテ)レ之(ヲ)曰(ハク)、　→　之を誉めて曰はく、

・漢字は原則そのままだが、「之(の)」「也(なり)」などの助詞・助動詞はひらがなに改める。

（例）吾(ガ)盾之堅(キコト)、　→　吾が盾の堅きこと、

〈白文〉誉之曰吾盾之堅莫能陥也

〈訓読文〉誉(ほメテ)レ之(これヲ)曰(いハク)、「吾(わガ)盾(たて)之(の)堅(かたキコト)、莫(なキ)二能(よク)陥(とほスモノ)一也(なりト)。」

〈書き下し文〉之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

確認テスト

(1) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□ □レ □ □

(2) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□レ □ □レ □

(3) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□ □レ □レ □

(4) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□ □二 □ □一

(5) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□レ □二 □ □一

(6) 次の数字の順に従って□を読むように、返り点を書き入れなさい。

2 1 5 4 3 6

(7) 次の数字の順に従って□を読むように、返り点を書き入れなさい。

4 1 2 3 5 6

(8) 次の訓読文を書き下し文に直しなさい。ただし「弗」「也」は助動詞に当たる言葉である。

其(そ)ノ人、弗(ざ)ルレ能(あた)ハレ応フルコト也(なり)。

〔　　　　〕。

「不便」の価値を見つめ直す（1）

川上 浩司

1 「不便でよかった。」と感じたことはないだろうか。

2 こう尋ねると、たいていの場合、①けげんな顔をされる。「便利でよかった」ならばわかるが、「不便でよかった」とはどういうことか、不便でよかったことなんてあるはずがない、というわけだ。（中略）

4 私も、元は設計の自動化について研究していた。何か欲しいものがあれば、自動的に設計してくれるコンピュータを作れたらどんなにかすばらしいだろうと考えていたのだ。ところが、あるとき、②次のような疑問が生じた。全てを自動化できれば楽にはなるが、その分、自分で考えることによって得られる達成感や喜び、技術の向上も望めないことになる。それは、本当に人の生活を豊かにするデザインなのだろうか、と。確かに、便利になることで楽になるという側面はある。そして、それが必要な場面もあるだろう。しかし、一様に便利さばかりを追求し続けることで、私たちの生活や社会は本当に豊かになっていくだろうか。今、便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。

5 このような考えから私が着目したのが、これまで見過ごされてきた「不便」の価値である。私は、不便だからこそ得られるよさを「不便益」とよび、その発想を新しいデザインに生かせないか、日々研究している。

（1〜5は教科書本文における形式段落番号を表します）

筆者の主張を捉える

本文では、一般的な考えに対してそれとは異なる筆者の考えが述べられている。次のような表現では、逆接（しかし）の後に筆者の考えが書かれていることが多いので注意する。

・確かに〜。しかし、…。
・一般に〜。しかし、…。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「けげんな顔をされる」とあるが、なぜけげんな顔をするのか。適当なものを選びなさい。

ア 不便でよかったことがないか、思い起こしているから。
イ 不便でよいことなどあるはずがないと考えているから。
ウ 不便の価値を見過ごしていたことに気づかされたから。

〔　〕

(2) ——線②「次のような疑問が生じた」とあるが、これ以降で筆者が問題提起していることは何か。最も適当なものを選びなさい。

ア 便利になることで、人の生活が楽になるというときがあるのではないかということ。
イ 便利になることで人の生活が楽になることも、必要な場面があるのではないかということ。
ウ 便利になることばかり追求しても、生活や社会が豊かになるとは限らないのではないかということ。

〔　〕

(3) 全てを自動化することで損(そこ)なわれるものを、本文中から二十五字以上三十字以内で探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。

□□□〜□□□

(4) 「不便益」の定義を本文中から十字以上十五字以内で探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。

□□□〜□□□

「不便」の価値を見つめ直す (2)

川上 浩司

7 一般（いっぱん）に、「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」だと思われがちだ（**図1①**）。しかし、①私はそうではないと考える。必ずしもいつも「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」というわけではなく、「便利」の中にもよい面と悪い面があり、「不便」の中にもよい面と悪い面があると考えるのだ。そうすると、「不便のよい面」と「便利の悪い面」という②新しい視点が生まれる（**図1②**）。

8 それでは、「不便のよい面」には、具体的にどんなものがあるだろうか。私はこれまで、冒頭（ぼうとう）の問いをたくさんの人に投げかけ、「不便のよい面」、つまり「不便益」の事例を集めてきた。初めこそけげんな顔をしている人も、「不便」の定義や事例を伝えると、自分なりの「不便益」の事例を教えてくれることが多い。

便利＝よい	不便＝悪い

図1①

便利のよい面	不便のよい面
便利の悪い面	不便の悪い面

図1②

（7・8は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「私はそうではないと考える」とあるが、筆者の考えとして適当なものを選びなさい。

ア 便利はよいことであり、不便は悪いことである。
イ 便利は悪いことであり、不便はよいことである。
ウ 便利はよいことだが、不便はよいことも悪いこともある。
エ 便利はよいことも悪いこともあるが、不便は悪いことである。
オ 便利、不便ともに、よいことも悪いこともある。

〔　　〕

(2) ——線②「新しい視点」に当てはまるものを二つ選びなさい。

ア 便利のよい面　**イ** 便利の悪い面
ウ 不便のよい面　**エ** 不便の悪い面

〔　・　〕

(3) 「不便益」は、次の図のどれに当たるか。**ア**〜**エ**の記号で答えなさい。

ウ 不便のよい面	**ア** 便利のよい面
エ 不便の悪い面	**イ** 便利の悪い面

〔　　〕

「不便」の価値を見つめ直す(3)

川上浩司

12 こうして集めた事例を整理すると、「不便益」とは何かが浮かび上がってくる。まだ整理の途中の段階ではあるが、主には次のようなことが挙げられるだろう。

13 まず、物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、発見や出会いの機会が増える。次に、体力や知力、技術力の維持や向上を促す。自分の体や頭を使うことが、自然と体力・知力・技術力の低下を防ぎ、それらを向上させるからだ。また、「不便」であることは、人間の意欲を向上させる効果もある。自分で考えたり工夫したりする余地があるからこそ、取り組むときのモチベーションが高まり、成し遂げたときの達成感が大きくなるのだ。なお、一つの事例に複数の「不便益」が含まれることも少なくない。例えば、タクシーよりも徒歩のほうが発見や出会いの機会が増えるとともに、運動能力の低下を防ぐことにもなる。

14 これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものだ。「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」という固定観念にとらわれ、ただ無批判に「便利」なほうばかりを選んでいては、「不便」の価値を見落としてしまう。さらに、「便利はよいこと」という考えの下、社会全体が「便利」だけを追求していけば、私たち一人一人は自分でどちらかを選ぶことすらできないまま、知らぬ間に、本来得られていた楽しさや喜びが失われたり、自分の能力を発揮する機会が奪われたりすることになるだろう。

15 誤解してほしくないのは、私は便利であることを否定し、昔の不便な生活に戻ろうと言っているわけでも、不便なことは全てすばらしいと考えているわけでもないということだ。「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが「不便益」の考え方なのである。（中略）

16 「不便益」は、物事のデザインだけでなく、日常生活にも生きる発想だ。あなたの日々の生活の中で、「不便で嫌だな。」「面倒くさいな。」と思ってさけてきた物事の中に、実は、新しい気づきや楽しみが隠れているかもしれない。これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ。あなたの周りには、どんな「不便益」があるだろうか。もう一度、生活を見つめ直してみよう。

（12〜16は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中で述べられている「不便益」の説明となるように、（　）に当てはまる言葉を解答欄(かいとうらん)に合うようにそれぞれ書きぬきなさい。

・物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、（　①　）の機会が増える。
・自分の体や頭を使うので、体力や知力、技術力の（　②　）を促す。
・自分で考え、工夫する余地があるので、取り組む（　③　）が高まり、成し遂げたときの（　④　）が大きくなるなど、人間の意欲を向上させる。

①［　　　　　　］
②［　　　　　］
③［　　　　　　　］
④［　　　］

(2) ――線部「固定観念」とあるが、ここではどのような考えのことか。適当なものを選びなさい。

ア 「不便益」は「不便」でないと得られないという考え。
イ 「便利」はよいこと、「不便」は悪いことという考え。
ウ 「便利」ばかり追求してはいけないという考え。

［　　］

(3) 筆者の主張に合うものを選びなさい。

ア 便利さを追求することをやめて昔の不便な生活に戻るほうが、かえってよい生活につながる。
イ 不便は悪いことだというのは誤った考えであり、不便なことに悪い面はないと気づくべきである。
ウ 「不便益」の発想は日常生活の発想とはかけ離(はな)れたものであり、デザインの分野で活用されるものである。
エ 「不便益」のようにこれまでの常識とは異なる視点をもつことで、世界をより多様に見ることができるようになる。

［　　］

「不便」の価値を見つめ直す(4)

川上浩司

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

区分	段落	内容
序論	1~3	**導入(「不便」に対する一般的な価値観)** 「不便でよかった。」と感じたことはないだろうか。こう尋ねるとたいていの場合けげんな顔をされる。そこには「便利はよいこと」「不便は悪いこと」という価値観がある。
	4	**問題提起(便利さばかりを追求することへの疑問)** 一様に便利さばかりを追求し続けることで、私たちの生活や社会は本当に豊かになっていくだろうか。便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。
本論	5・6	**「不便益」と「不便」の定義** 不便だからこそ得られるよさを「不便益」とよぶ。何かをするときにかかる労力が多いこと(手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすること)を「不便」とする。
	7	**「便利」と「不便」に対する新しい視点** 「便利」にも「不便」にもよい面と悪い面がある。
	8~11	**「不便益」の事例** ①移動方法 ②施設のデザイン ③工場での生産方式
	12・13	**事例からわかる「不便益」** ・発見や出会いの機会が増える。 ・体力や知力、技術力の維持や向上を促す。 ・人間の意欲を向上させる。
	14・15	社会全体が「便利」だけを追求していけば、本来得られていた楽しさや喜びが失われたり、自分の能力を発揮する機会が奪われたりすることになる。
結論	16	**まとめ** 「不便益」の発想のように、これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになる。

(1~16は教科書本文における形式段落番号を表します)

要約

目的に応じて文章の要点を短くまとめることを要約という。要約するためには、次の部分に注目するとよい。

- キーワード(題名や文中に繰り返し出てくる言葉など。)
- キーセンテンス(段落の中心となる文。段落の最初や最後にあることが多い。)
- 結論(まとめや、筆者の主張が述べられる。)

確認テスト　教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の中から「不便益」に当たるものを選びなさい。

ア 便利のよい面　**イ** 不便の悪い面
ウ 便利の悪い面　**エ** 不便のよい面

〔　〕

(2) 移動方法について、次の事例からわかる「不便」のよさとして適当なものを選びなさい。

タクシーではなく徒歩で移動したところ、時間がかかり疲(つか)れはしたが、人とふれあえたり景色を楽しんだりすることができた。

ア 発見や出会いの機会が増える。
イ 体力や知力、技術力の維持や向上を促す。
ウ 人間の意欲を向上させる。

〔　〕

(3) 施設のデザインについて、次の事例からわかる「不便」のよさとして適当なものを選びなさい。

ある介護(かいご)施設で、あえて段差や坂、階段を設けたところ、入居者の身体能力の低下を防ぐことにつながった。

ア 発見や出会いの機会が増える。
イ 体力や知力、技術力の維持や向上を促す。
ウ 人間の意欲を向上させる。

〔　〕

(4) 工場での生産方式について、次の①・②は「便利」と「不便」のどちらの事例か。「便利」なら**ア**、「不便」なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

①ライン生産方式〔　〕
②セル生産方式〔　〕

少年の日の思い出 (1)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

（ある日の夕暮れ、「私」は書斎を訪れていた友人に、ちょうの収集を見せました。次の文章は、ちょう集めをしている「私」に、友人（僕）が語った少年の頃の思い出です。）

僕は、八つか九つのとき、ちょう集めを始めた。初めは特別熱心でもなく、ただ、はやりだったのでやっていたまでだった。ところが、十歳ぐらいになった二度目の夏には、僕は全く①この遊戯のとりこになり、ひどく心を打ち込んでしまい、そのため、他のことはすっかりすっぽかしてしまったので、みんなは何度も、僕にそれをやめさせなければなるまい、と考えたほどだった。②ちょうを採りに出かけると、学校の時間だろうが、お昼ご飯だろうが、もう、塔の時計が鳴るのなんか、耳に入らなかった。休暇になると、パンを一切れ※胴乱に入れて、朝早くから夜まで、食事になんか帰らないで、駆け歩くことがたびたびあった。

今でも、美しいちょうを見ると、おりおり、あの熱情が身にしみて感じられる。そういう場合、僕はしばしの間、子供だけが感じることのできる、あのなんともいえない、むさぼるような、うっとりした感じに襲われる。少年の頃、初めてキアゲハにしのび寄った、あのとき味わった気持ちだ。

※胴乱…採集したものを入れる容器。

語り手

物語や小説がある人物の視点から語られているとき、その人物を**語り手**という。『少年の日の思い出』では、前半（現在）と後半（回想）で語り手が変化している。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「この遊戯」とは何か。本文中から五字で書きぬきなさい。

□□□□□

(2) ――線②「ちょうを採りに出かけると……耳に入らなかった」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 他のことが気にならなくなるほど、ちょうを採ることに夢中になっていたから。

イ みんながちょうを採るのをやめさせようとするので、耳をかさないようにしていたから。

ウ 休暇なので、学校や昼食、塔の時計の音などを気にすることなくちょうを採ることができたから。

〔　　〕

(3) 「僕」はちょうの収集の思い出についてどのように語っているか。本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 「僕」は少年の頃、熱心にちょうを集めており、今でもちょうを見ると当時の熱情を思い出す。

イ 「僕」ははやりだったのでちょうの収集をやっていたが、今では当時の感情を思い出せない。

ウ 「僕」はちょうを採るのに夢中でみんなに迷惑(めいわく)をかけてしまい、ちょうを見ると反省の思いが込み上げる。

〔　　〕

少年の日の思い出 (2)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

(ぜいたくな設備がない「僕」は、ちょうの収集を仲間には見せず、妹たちにだけ見せていました。次の文章は、「僕」が、隣の子供・エーミールに、コムラサキというちょうを見せに行く場面です。)

あるとき、僕は、僕らのところでは珍しい、青いコムラサキをとらえた。それを※展翅し、乾いたときに、得意のあまり、せめて①隣の子供にだけは見せよう、という気になった。それは、中庭の向こうに住んでいる先生の息子だった。この少年は、非の打ちどころがないという悪徳をもっていた。それは、子供としては二倍も気味悪い性質だった。彼の収集は小さく貧弱だったが、こぎれいなのと、手入れの正確な点で、一つの宝石のようなものになっていた。彼は、そのうえ、傷んだり壊れたりしたちょうの羽を、※にかわで継ぎ合わすという、非常に難しい、珍しい技術を心得ていた。とにかく、②あらゆる点で模範少年だった。そのため、僕は妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた。

この少年に、コムラサキを見せた。彼は、専門家らしくそれを鑑定し、その珍しいことを認め、二十※ペニヒぐらいの現金の値打ちはある、と値踏みした。しかし、それから、彼は難癖をつけ始め、展翅のしかたが悪いとか、右の触角が曲がっているとか、左の触角が伸びているとか言い、そのうえ、足が二本欠けているという、もっともな欠陥を発見した。僕は、その欠点をたいしたものとは考えなかったが、こっぴどい批評家のため、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。それで、僕は、③二度と彼に獲物を見せなかった。

※展翅…標本にするために虫の羽を広げて固定すること。
にかわ…ゼラチンなどからなる動物性の物質で、接着剤などに用いられる。
ペニヒ…かつてのドイツの通貨単位。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「隣の子供」に対して、「僕」はどのような感情をもっていたか。適当なものを選びなさい。

ア 自分よりもちょうの収集が小さくて貧弱なので、優越感を抱いていた。

イ 感心しつつも、欠点がない点を妬ましく思い、好きになれないでいた。

ウ 自分にはない優れた技術をもっている点を尊敬し、「彼」を慕っていた。

エ 収集の手入れが正確で、「彼」のようになりたいとただただ憧れていた。

〔　〕

(2) ——線②「あらゆる点で模範少年」を言いかえた言葉となるように、解答欄に当てはまる言葉を本文中から十字で書きぬきなさい。

□□□□□□□□□□少年

(3) ——線③「二度と彼に獲物を見せなかった」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 「彼」が珍しいちょうであることを認めたことに満足し、それ以上「彼」にちょうを見せる必要がなかったから。

イ 「彼」がたいしたことのない欠点を指摘したことで、「彼」のちょうに対する鑑定が疑わしいように思えてきたから。

ウ 「彼」の批評のせいで珍しいちょうをとらえた喜びがうせてしまい、「彼」にちょうを見せる気にならなくなったから。

〔　〕

少年の日の思い出 (3)

ヘルマン・ヘッセ
高橋健二 訳

(二年たち「僕」が大きな少年になった頃、「僕」は、隣の子供・エーミールが、クジャクヤママユを手に入れたといううわさを聞きました。「僕」は自分の本で、このちょうの挿絵を何度も眺めていました。)

エーミールがこの不思議なちょうを持っているということを聞くと、僕は、すっかり興奮してしまって、それが見られるときの来るのが待ち切れなくなった。食後、外出ができるようになると、すぐ僕は、中庭を越えて、隣の家の四階へ上がっていった。そこに、例の先生の息子は、小さいながら自分だけの部屋を持っていた。それが、僕にはどのくらいうらやましかったかわからない。途中で、僕は、誰にも会わなかった。上にたどり着いて、部屋の戸をノックしたが、返事がなかった。エーミールはいなかったのだ。①ドアのハンドルを回してみると、入り口は開いていることがわかった。

せめて例のちょうを見たいと、僕は中に入った。そしてすぐに、エーミールが収集をしまっている二つの大きな箱を手に取った。

(中略　クジャクヤママユは展翅板の上に留められ、羽を紙切れで張り伸ばされていました。)

胸をどきどきさせながら、僕は紙切れを取りのけたいという誘惑に負けて、留め針を抜いた。すると、②四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた。それを見ると、この宝を手に入れたいという、逆らいがたい欲望を感じて、僕は、生まれて初めて盗みを犯した。僕は、ピンをそっと引っ張った。ちょうは、もう乾いていたので、形はくずれなかった。③僕は、それをてのひらに載せて、エーミールの部屋から持ち出した。そのとき、さしずめ僕は、大きな満足感のほか何も感じていなかった。

ちょうを右手に隠して、僕は階段を下りた。そのときだ。④下の方から誰か僕の方に上がってくるのが聞こえた。その瞬間に、僕の良心は目覚めた。僕は突然、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った。同時に、見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われて、僕は、本能的に、獲物を隠していた手を上着のポケットにつっ込んだ。ゆっくりと僕は歩き続けたが、大それた恥ずべきことをしたという、冷たい気持ちに震えていた。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「ドアのハンドルを……わかった」とあるが、このときの「僕」の心情として適当なものを選びなさい。

ア クジャクヤママユをどうしても見たいという思い。
イ 珍しいちょうを手に入れたエーミールへの憧れ。
ウ 自分の盗みが見られているのではないかという不安。

［　　］

(2) ——線②「四つの大きな……僕を見つめた」とあるが、ここで用いられている表現技法を選びなさい。

ア 体言止め　**イ** 倒置　**ウ** 直喩　**エ** 擬人法

［　　］

(3) ——線③「僕は、……部屋から持ち出した」とあるが、このときの「僕」の心情として適当なものを選びなさい。

ア 自分の部屋を持つエーミールに対するうらやましさ。
イ クジャクヤママユを手に入れたことへの満足感。
ウ 大それた恥ずべきことをしたことへの冷たい気持ち。

［　　］

(4) ——線④「下の方から……聞こえた」とあるが、この後の「僕」の心情の変化を説明した文となるように、解答欄に当てはまる言葉を本文中から指定の字数に合うように探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、句読点も字数に含む。

（**A**・十五字）ということを悟り、誰かに（**B**・十九字）に襲われた。

A □□□～□□□
B □□□～□□□

少年の日の思い出 (4)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

（「僕」は、エーミールの持つクジャクヤママユを盗んでしまいました。）

すぐに僕は、このちょうを持っていることはできない、持っていてはならない、元に返して、できるなら、①何事もなかったようにしておかなければならない、と悟った。そこで、人に出くわして見つかりはしないかということを極度に恐れながらも、急いで引き返し、階段を駆け上がり、一分の後には、またエーミールの部屋の中に立っていた。僕は、ポケットから手を出し、ちょうを机の上に置いた。それをよく見ないうちに、僕はもう、どんな②不幸が起こったかということを知った。そして、泣かんばかりだった。クジャクヤママユはつぶれてしまったのだ。（中略）

盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった、美しい、珍しいちょうを見ているほうが、僕の心を苦しめた。③微妙なとび色がかった羽の粉が、自分の指にくっついているのを見た。また、ばらばらになった羽がそこに転がっているのを見た。それをすっかり元どおりにすることができたら、僕は、どんな持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出したろう。

悲しい気持ちで、僕は家に帰り、夕方まで、うちの小さい庭の中で腰掛けていたが、ついに、一切を母に打ち明ける勇気を起こした。母は驚き悲しんだが、すでに、この告白が、どんな罰をしのぶことより、僕にとってつらいことだったということを感じたらしかった。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「何事もなかったようにしておかなければならない」とあるが、何事もないようにするとはここではどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア　クジャクヤママユを元の場所に戻し、盗んだ事実がなかったかのようにすること。
イ　クジャクヤママユを隠し、自分が手に入れたことを気づかれないようにすること。
ウ　クジャクヤママユを盗んでしまったことを謝罪し、エーミールと元の関係に戻ること。

〔　　〕

(2) ——線②「不幸」とは何か。次から選びなさい。

ア　クジャクヤママユを盗んでしまったこと。
イ　クジャクヤママユがつぶれてしまったこと。
ウ　ちょうを盗んだのを人に知られてしまったこと。

〔　　〕

(3) ——線③「微妙なとび色……見た」とあるが、このときの「僕」の様子として適当なものを選びなさい。

ア　クジャクヤママユの微妙なとび色の美しさに、改めて見とれている。
イ　クジャクヤママユをどうやって修復するか、考えをめぐらせている。
ウ　クジャクヤママユをつぶしてしまった現実に、心を苦しめられている。

〔　　〕

少年の日の思い出 (5)

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

(クジャクヤママユをつぶしてしまった「僕」は、母に促され、エーミールのもとを訪れました。エーミールはクジャクヤママユを直そうとしているところでした。)

壊れた羽は丹念に広げられ、ぬれた吸い取り紙の上に置かれてあった。しかし、それは直すよしもなかった。触角もやはりなくなっていた。そこで、それは僕がやったのだ、と言い、詳しく話し、説明しようと試みた。

　すると、エーミールは、激したり、僕をどなりつけたりなどはしないで、低く「ちぇっ。」と舌を鳴らし、しばらくじっと僕を見つめていたが、それから、

「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」

と言った。

　僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言った。それでも、彼は冷淡に構え、依然僕をただ軽蔑的に見つめていたので、僕は、自分のちょうの収集を全部やる、と言った。しかし、彼は、

「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知っている。そのうえ、今日また、君がちょうをどんなに取り扱っているか、ということを見ることができたさ。」

と言った。

　その瞬間、僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだった。もうどうにもしようがなかった。僕は悪漢だということに決まってしまい、エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた。彼はののしりさえしなかった。ただ僕を眺めて、軽蔑していた。

　そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。僕は立ち去った。母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにおいてくれたことをうれしく思った。僕は、「とこにお入り。」と言われた。僕にとってはもう遅い時刻だった。だが、その前に、僕は、そっと食堂に行って、大きなとび色の厚紙の箱を取ってき、それを寝台の上に載せ、闇の中で開いた。そして、ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線部「もうどうにもしようがなかった」とあるが、これはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア　エーミールのクジャクヤママユを台無しにしてしまい、直しようがなかったということ。

イ　エーミールにクジャクヤママユを盗んだことが知られてしまい、隠しようがなかったということ。

ウ　エーミールにちょうの収集の受け取りを断られてしまい、埋め合わせのしようがなかったということ。

エ　エーミールが正義で自分が悪だということになってしまい、これをくつがえしようがなかったということ。

〔　　〕

(2) エーミールへの謝罪を通じて、「僕」はどういうことを理解したか。解答欄に合うように、本文中から二十字以上二十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□～□□□ということ。

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　エーミールは「僕」の謝罪を受け入れ、「僕」の償いの申し出を丁重に断った。

イ　エーミールは「僕」がちょうを台無しにしてしまったことを知り、強くののしった。

ウ　「僕」から見たエーミールの態度は冷淡なもので、「僕」をただただ軽蔑するものだった。

〔　　〕

少年の日の思い出 ⑹

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

現在	客（僕）の回想	
	「僕」が十歳ぐらいの頃	「僕」が十二歳ぐらいの頃
「私」は書斎で客の友人にちょうの収集を見せた。友人は「私」に、彼の少年の日の思い出を語り始めた。	**ちょう集めに対する「僕」の熱情** 「僕」は十歳ぐらいの頃、ちょう集めのとりこになった。今でも美しいちょうを見ると、あの頃の熱情を感じる。 **青いコムラサキをとらえた「僕」とエーミールの批評** エーミールは非の打ちどころがないという悪徳をもっており、あらゆる点で模範少年だった。「僕」はエーミールを妬み、嘆賞しながら憎んでいた。 あるとき「僕」は珍しい青いコムラサキを手に入れ、それをエーミールに見せた。エーミールからこっぴどい批評を受けた「僕」は、二度と彼にちょうを見せなかった。	**クジャクヤママユを盗む「僕」** エーミールがクジャクヤママユを手に入れたといううわさを聞いた「僕」は、すっかり興奮し、エーミールの部屋に行った。逆らいがたい欲望を感じた「僕」は、生まれて初めて盗みを犯した。「僕」は大きな満足感のほかは何も感じていなかった。 **良心が目覚め、不安に襲われる「僕」** 誰かが自分の方に上がってくるのが聞こえた「僕」は、良心が目覚め、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った。「僕」は、見つかりはしないかという不安に襲われ、クジャクヤママユをポケットにつっ込み、家へと歩いた。 「僕」はクジャクヤママユを戻そうとエーミールの部屋に引き返したが、クジャクヤママユはつぶれてしまっていた。 **エーミールへの謝罪** 家に帰った「僕」は母に一切を打ち明けた。母に促された「僕」は、エーミールのもとを訪れた。 「僕」はエーミールに自分がクジャクヤママユを台無しにしたことを話し、埋め合わせをしようとするが、エーミールは冷然と、正義を盾に、あなどるように立っていた。 **ちょうの収集をつぶす「僕」** 一度起きたことはもう償いのできないものだということを悟った「僕」は、家に帰ると、ちょうを一つ一つ粉々に押しつぶしてしまった。

確認テスト　教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文を前半（現在）と後半（回想）に分けたとき、前半部分の語り手は誰か。適当なものを選びなさい。

ア 客　イ 友人　ウ 「彼」　エ 「私」

〔　　〕

(2) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア 逆らいがたい欲望を感じた「僕」は、クジャクヤママユを部屋から持ち出し、大きな満足感を感じた。

イ エーミールがクジャクヤママユを手に入れたといううわさを聞いた「僕」はすっかり興奮してしまった。

ウ エーミールの部屋に入った「僕」は、クジャクヤママユの斑点（はんてん）を見たいという思いを抑（おさ）えられず、留め針を抜（ぬ）いた。

エ 良心が目覚め、自分が盗みをした下劣なやつだということを悟った「僕」は、見つかりはしないかという不安に襲われた。

〔　　→　　→　　→　　〕

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア エーミールは非の打ちどころのない模範少年で、「僕」は彼を妬ましく思っていた。

イ エーミールに自分のコムラサキを見せた「僕」は、彼のもっともな批評に感心した。

ウ 「僕」がエーミールに事情を話すと、エーミールは激して「僕」をどなりつけた。

〔　　〕

文法への扉3 単語の性質を見つけよう（単語の分類）(1)

自立語と付属語

単語は、単独で文節を作ることができるかどうかで、自立語と付属語に分けられる。

・**自立語**…単独で文節を作ることができる単語。
・**付属語**…単独では文節を作ることができず、自立語と共に使われる単語。

自立語は各文節に**一つだけ**含まれる。文節の初めの単語は必ず自立語である。付属語は文節に含まれないこともあり、また、複数含まれることもある。

（例）赤い（自）／花（自）が（付）／咲き（自）まし（付）た（付）。

活用

文中での言葉の組み合わせに応じて単語の形が変化することを**活用**という。自立語では動詞・形容詞・形容動詞が、付属語では助動詞が活用する。

（例）話す＋た　→　話した
明るい＋た　→　明るかった
静かだ＋た　→　静かだった
走ります＋た　→　走りました

品詞

単語を分類したものを**品詞**という。単語は10種類の品詞に分けられる。

- 単語
  - **自立語**
    - 活用する
      - 述語になる（用言）
        - 動作・作用・存在を表す・終止形が「ウ段」で終わる → **動詞**
        - 状態・性質を表す
          - 終止形が「い」で終わる → **形容詞**
          - 終止形が「だ・です」で終わる → **形容動詞**
    - 活用しない
      - 主語になる（体言）
        - 物事の名前を表す・物事を指し示す → **名詞**
      - 修飾語になる
        - 主に用言を修飾する → **副詞**
        - 常に体言を修飾する → **連体詞**
      - 接続語になる → **接続詞**
      - 独立語になる → **感動詞**
  - **付属語**
    - 活用する → **助動詞**
    - 活用しない → **助詞**

確認テスト

(1) 例に従って、次の文の自立語を□で囲み、付属語に――線を引きなさい。

(例) 赤い 花 が 咲き ました。

私は友達と駅まで走った。

(2) 次の表の①～④に当てはまるものを、ア～コからそれぞれ全て選び、記号で答えなさい。

	活用する	活用しない
自立語	①	②
付属語	③	④

ア 感動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 助詞
オ 助動詞　**カ** 接続詞　**キ** 動詞　**ク** 副詞
ケ 名詞　**コ** 連体詞

① [　　]
② [　　]
③ [　　]
④ [　　]

(3) 次の中から体言と用言に当たるものをそれぞれ全て選びなさい。

ア 感動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 形容動詞　**エ** 助詞
オ 助動詞　**カ** 接続詞　**キ** 動詞　**ク** 副詞
ケ 名詞　**コ** 連体詞

体言 [　　]　用言 [　　]

(4) 次の文の（　）に当てはまるように、動詞「学ぶ」の形を変化させなさい。

今日は大切なことを（　　）だ。 [　　]

(5) 次の文の（　）に当てはまるように、形容詞「赤い」の形を変化させなさい。

リンゴがとても（　　）なる。 [　　]

(6) 次の文の（　）に当てはまるように、形容動詞「立派だ」の形を変化させなさい。

彼女（かのじょ）はたいへん（　　）人だ。 [　　]

文法への扉3 単語の性質を見つけよう（単語の分類）(2)

用言

自立語の中で、**活用があり、単独で述語になる**ことができるものを**用言**という。品詞では、**動詞・形容詞・形容動詞**が用言にあたる。

（例）花が咲く。　花が赤い。　花がきれいだ。

●**動詞**……動作・作用・存在を表す。言い切りが「**ウ段**」で終わる。

（例）話す・咲く・いる

●**形容詞**……状態・性質を表す。言い切りが「**い**」で終わる。

（例）明るい・楽しい・赤い

●**形容動詞**…状態・性質を表す。言い切りが「**だ**・**です**」で終わる。

（例）静かだ　・きれいだ　・立派だ
静かです・きれいです・立派です

体言

自立語の中で、活用がなく、**主語になる**ことができるものを**体言**という。品詞では、**名詞**が体言にあたる。

（例）空が青い。

●**名詞**……物事の名前を表す。物事を指し示す。**活用しない。**

（例）山・私・これ

用言・体言の用法

動詞・形容詞・形容動詞は、述語のほか、修飾語・接続語・独立語になる。

（例）動詞……犬が走る。（述）　走る犬。（修飾）
形容詞……景色が美しい。（述）　美しい花。（修飾）　美しく咲く。（修飾）
形容動詞…波が穏やかだ。（述）　穏やかな波。（修飾）　穏やかになる。（修飾）

名詞は、主語のほか、述語・修飾語・接続語・独立語になる。

（例）中学生が遊んでいる。（主）　彼は中学生だ。（述）　中学生の教科書。（修飾）

確認テスト

(1) 次の①～⑥が、動詞なら**ア**、形容詞なら**イ**、形容動詞なら**ウ**、名詞なら**エ**で、それぞれ答えなさい。

① 来る〔　〕　② 大切だ〔　〕　③ 読む〔　〕
④ 高い〔　〕　⑤ 公園〔　〕　⑥ 元気です〔　〕

(2) 次の中から、――線部が動詞であるものを二つ選びなさい。

ア 石灰水(せっかいすい)が白くにごる。　**イ** 明日の準備をした。
ウ 私が持ちます。　**エ** 外は寒かった。

〔　・　〕

(3) 次の中から、――線部が形容詞であるものを二つ選びなさい。

ア 駅までは遠かった。　**イ** 作文を書いた。
ウ わずかな違(ちが)いがある。　**エ** とても強くなる。

〔　・　〕

(4) 次の中から、――線部が形容動詞であるものを二つ選びなさい。

ア のどかな風景だ。　**イ** 生活が便利になる。
ウ 池に映る月。　**エ** 海で泳いだ。

〔　・　〕

(5) 次の中から、――線部が名詞であるものを二つ選びなさい。

ア ここはにぎやかな通りだ。　**イ** そこを通ります。
ウ 学校の近くに引っ越(こ)す。　**エ** 駅に近くない。

〔　・　〕

(6) 次の中から、――線部の文節に名詞を含(ふく)むものを選びなさい。

ア 流れる水。　**イ** 冷たい水。
ウ 川の水。　**エ** きれいな水。

〔　〕

文法への扉3 単語の性質を見つけよう（単語の分類）(3)

その他の自立語

●**副詞**……状態や程度などを表す。主に連用修飾（しゅうしょく）語になる。

（例）ゆっくり 歩く（用言）。 とても 多い。 もし 出かけるなら、

※連用修飾語が全て副詞とは限らないので注意する。

（例）静かに 歩く （「静かに」は形容動詞）

●**連体詞**…常に連体修飾語になる。

（例）この 花（体言） 大きな 木 ある 日

※連体修飾語が全て連体詞とは限らないので注意する。

（例）赤い 花 （「赤い」は形容詞）

●**接続詞**…前後の文や語をつなぐ。接続語になる。

（例）だから・しかし

●**感動詞**…感動・呼びかけ・挨拶（あいさつ）・応答を表す。独立語になる。

（例）ああ・ねえ・おはよう・はい

付属語

●**助詞**……自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。活用しない。

（例）鳥が飛ぶ。 私も笑う。 強くて優（やさ）しい。 何ですか。

●**助動詞**…用言・体言や他の助動詞などに付いて、意味を付け加えたり、話し手の判断を示したりする。活用する。

（例）走らない。 走った。 中学生だ。

確認テスト

(1) 次の各文の――線部が、副詞なら**ア**、連体詞なら**イ**、それ以外なら**ウ**で、それぞれ答えなさい。

① 公園をのんびり歩く。〔　〕
② 庭にバラが美しく咲(さ)く。〔　〕
③ 私の学校はあの建物です。〔　〕
④ 夜空に輝(かがや)く星が見える。〔　〕

(2) 次の――線部の品詞の種類を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 楽しく話す。〔　〕　② 元気に話す。〔　〕
③ そっと話す。〔　〕　④ 真実を話す。〔　〕

ア 形容詞　**イ** 形容動詞　**ウ** 名詞　**エ** 副詞

(3) 次の――線部の品詞の種類を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 青い鳥。〔　〕　② いろんな鳥。〔　〕
③ 海辺の鳥。〔　〕　④ 鳴く鳥。〔　〕

ア 動詞　**イ** 形容詞　**ウ** 名詞　**エ** 連体詞

(4) 次の各文の――線部が、接続詞なら**ア**、感動詞なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

① ずいぶん時間がたった。だが、まだ着かない。〔　〕
② もうすぐ到着(とうちゃく)だ。おや、あれは何だろう。〔　〕

(5) 例に従って、次の文に含(ふく)まれる助詞・助動詞に――線を引きなさい。

(例) 白い鳥 が 飛ん だ。

私 は 週 末、図 書 館 に 行 き ま し た。

二十歳になった日

さくら ももこ

①二十歳の誕生日はひとりで迎えようと決めた。ひとりで決断し、ひとりで人生を切り開いてゆかなければならない年代を迎える気がしていたのだ。チャラチャラとバースデーパーティーを開いて、トリのから揚げなどを食べている場合ではない。

私はひとり、静岡市内の街角に立ち、まっすぐに続く道をまっすぐに歩いていってみようと考えた。

五月の空はさわやかで、私は自分が五月に生まれたことを心からうれしく感じていた。どこまでも歩いていけるような気がした。

ずいぶん歩いた。四十分は歩いたであろう。

②見知らぬ商店街に出ていた。自分の見知らぬ街でも、毎日そこでは人々の生活が営まれていることを、あたりまえだが尊いと思った。全てがいとおしく感じられた。

古い看板も電柱も学校も、どうしていいかわからないほどありがたかった。公園に、日が差しているだけで泣きたいぐらいうれしい。

私は公園で少し休むことにした。新緑の葉を付けた木が風で揺れている。子供たちが笑いながら走っている。私はただベンチに座っていた。生きているだけでよかった。そう考えるのではなく感じていた。

（中略）

そろそろ戻ったほうがよいと思い、駅の方に着きそうな道を選んで歩きだした。ところが歩いても歩いても駅に着かず、なんとなく心細くなってきた。それでも、どうにかなるであろうと思いながら歩き続けてみた。

帰り道にも古道具屋やらアイスクリーム屋で寄り道をし、三時間ぐらいかかってやっと駅にたどり着いた。もう日は暮れていた。

家に帰る途中でケーキを買い、七時過ぎに帰宅した。非常に疲れていたが、③これまで味わったことのない充実した気持ちであった。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「二十歳の誕生日はひとりで迎えようと決めた」とあるが、その理由を解答欄に合うように本文中から四十字以上四十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□～□□□から。

(2) ——線②「見知らぬ商店街に出ていた」とあるが、このときの筆者の様子として適当なものを選びなさい。

ア どんな場所でも、毎日人々の生活が営まれているのだというあたりまえのことを、ありがたいことだと感じている。

イ 自分が知らない街で何事もなく生活が営まれ、あらゆるものが光を受けて輝いている様子に、近寄りがたさを感じている。

ウ ずいぶん歩いたことで見知らぬ街にたどり着いてしまい、これからどうしたらよいかわからないような心細さを感じている。

〔　　〕

(3) ——線③「これまで味わったことのない充実した気持ちであった」とあるが、このときの筆者の心情として適当なものを選びなさい。

ア これまで気づかないところでさまざまな人たちに自分が支えられていたことに対する申し訳なさ。

イ 疲労と不安を覚えながらも、やっとの思いで無事、駅にたどり着くことができたことへの安心感。

ウ 二十代のはじめにひとりで街を歩き、全てのものへのいとおしさを感じることができたうれしさ。

〔　　〕

漢字の成り立ち

漢字の成り立ちには、象形・指事・会意・形声がある。

①**象形**…物の形を、かたどって表す。
（例）山・月・馬

②**指事**…概念（がいねん）や事柄（ことがら）を、記号や印で表す。
（例）上・下

③**会意**…二つ以上の字を組み合わせ、新しい意味を表す。
（例）鳴（口＋鳥　で、「鳴く」の意味を表す。）
休（人＋木　で、「休む」の意味を表す。）

④**形声**…意味を表す部分（意符（いふ））と、音を表す部分（音符）を組み合わせ、新しい漢字を表す。
（例）江（意符「氵」＋音符「工（コウ）」）
晴（意符「日」＋音符「青（セイ）」）

※多くの音符は、音だけではなくなんらかの意味も表しており、辞典によってはこのような漢字を会意形声と分類している。

漢字の作り方を説明する象形・指事・会意・形声に、漢字の使い方を説明する転注・仮借（かしゃ）を加えて**六書**（りくしょ）という。

⑤**転注**…漢字の元の意味が広がって、他の意味に使われる。
（例）楽（元は「音楽」という意味だが、音楽を楽しむことから「楽しい」という意味にも使われる。）

⑥**仮借**…漢字の元の意味とは関係なく、音のみを借りて使われる。
（例）豆（元は「食べ物を盛る器（うつわ）」という意味だが、「トウ」の音を借りて「まめ」の意味で使われる。）

漢字の中には日本で独自に作られたものもあり、**国字**という。国字の多くは会意文字である。
（例）畑（はたけ）・峠（とうげ）・働

確認テスト

(1) 次の漢字の成り立ちを、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 花〔　〕 ② 二〔　〕 ③ 明〔　〕 ④ 象〔　〕

ア 象形　**イ** 指事　**ウ** 会意　**エ** 形声

(2) 次の漢字の成り立ちを、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 目〔　〕 ② 紙〔　〕 ③ 看〔　〕 ④ 本〔　〕

ア 象形　**イ** 指事　**ウ** 会意　**エ** 形声

(3) 次の成り立ちの漢字を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 象形〔　〕 ② 指事〔　〕

③ 会意〔　〕 ④ 形声〔　〕

ア 川　**イ** 林　**ウ** 園　**エ** 三

(4) 次の成り立ちの漢字を、それぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 象形〔　〕 ② 指事〔　〕

③ 会意〔　〕 ④ 形声〔　〕

ア 悲　**イ** 利　**ウ** 米　**エ** 末

(5) 次の――線部をそれぞれ漢字に直しなさい。

① 学コウに行く。〔　〕

② コウ外に住む。〔　〕

③ コウ果がある。〔　〕

ぼくが　ここに

まど・みちお

ぼくが　ここに　　　　まど・みちお

ぼくが　ここに　いるとき
ほかの　どんなものも
①ぼくに　かさなって
ここに　いることは　できない

もしも　ゾウが　ここに　いるならば
そのゾウだけ
マメが　いるならば
その一つぶの　マメだけ
しか　ここに　いることは　できない

②ああ　このちきゅうの　うえでは
こんなに　だいじに
まもられているのだ
どんなものが　どんなところに
いるときにも

その「いること」こそが
なににも　まして
すばらしいこと　として

確認テスト　詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 「ぼくが　ここに」の詩の種類として適当なものを二つ選びなさい。

ア　文語詩　**イ**　口語詩
ウ　定型詩　**エ**　自由詩　**オ**　散文詩

［　　・　　］

(2) 第三連で用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア　直喩　**イ**　体言止め　**ウ**　倒置

［　　］

(3) ――線①「ぼくに　かさなって／ここに　いることは　できない」とはどういうことを表しているか。適当なものを選びなさい。

ア　あらゆるものは、互いに支え合うことなしには存在することができないのだということ。

イ　どんなものも、「ぼく」が今存在している空間に、同時に存在することはできないのだということ。

ウ　「ぼく」が存在している場所とは別の場所に、同時に「ぼく」が存在することはできないのだということ。

［　　］

(4) ――線②「ああ　このちきゅうの　うえでは……まもられているのだ」とあるが、ここで述べられていることとして適当なものを選びなさい。

ア　この世界のあらゆるものは、そこに存在するということそのものを保証されているのだということ。

イ　この地球上の生物はかけがえのないものであり、保護していかねばならないのだということ。

ウ　この社会の人々は、自分では気づかないうちに誰かに助けられているのだということ。

［　　］

はじまりの風

新鮮(しんせん)	【意味】これまでにはない新しさが感じられること。 【例文】新鮮な気持ちで新年を迎(むか)える。
思わず	【意味】無意識に、そうするつもりではないのに。 【例文】声がしたので思わず振(ふ)り返った。
ひととき	【意味】しばらくの間。 【例文】楽しいひとときを過ごす。
思い思い	【意味】めいめいが思うとおりにするさま。 【例文】みなが思い思いに遊んでいる。
……にちがいない	【意味】きっと……だ、確実に……だ。 【例文】今日は雨が降るにちがいない。
大胆(だいたん)	【意味】度胸がすわっていること、思い切ったことをするさま。 【例文】大胆なデザインのバッグを買う。
足取り	【意味】歩くときの足の運び方。 【例文】軽い足取りで出かけていく。
心が躍(おど)る	【意味】喜びや期待で心がわくわくする。 【関連語】心がはずむ…楽しさや期待で心がうきうきする。 心がうき立つ…楽しさで陽気になる、うきうきして落ち着かなくなる。 心がときめく…喜びや期待で胸がどきどきする。

引きつける	【意味】人の心を誘(さそ)い寄せる。魅了(みりょう)する。 【例文】だれもがその話に引きつけられた。
薄暗(うすぐら)い	【意味】光が弱く、少し暗い。 【関連語】ほの暗い…ほのかに暗い、ぼんやりと暗い。 小暗い…少し暗い、どことなく暗い。
確かに	【意味】確実に。また、人が言うとおりに。 【例文】確かに彼(かれ)の意見にも一理ある。
色とりどり	【意味】色や種類がさまざまであるさま。 【類義語】多彩・多種多様

ちょっと立ち止まって

……にすぎない	【意味】……以上のものではない。ただ……であるだけだ。 【例文】これは個人的な意見にすぎない。
消え去る	【意味】消えてなくなる。見えなくなる。 【関連語】過ぎ去る…その場を通り過ぎて行ってしまう。 立ち去る…立ってその場を去る。 忘れ去る…すっかり忘れ、全く思い出さない。
背景	【意味】絵画や写真などで、中心として扱(あつか)われるものの背後にある景色。 【例文】海を背景にして写真を撮(と)る。
意識	【意味】物事に気づくこと。また、気にかけること。 【例文】マナーを意識して行動することが大切だ。
……がち	【意味】……であることが多い。……する傾向(けいこう)がある。 【例文】彼(かれ)は集合時刻に遅(おく)れがちだ。

比喩で広がる言葉の世界

思い浮(う)かべる	【意味】心の中に描(えが)く。 【例文】恩師の顔を思い浮かべる。
思い描く	【意味】ものの姿や情景を心の中で想像する。 【例文】思い描いたとおりの結果になった。
尽(つ)くす	【意味】あるだけ全部を出しきる。 【例文】成功のために全力を尽くす。
激烈(げきれつ)	【意味】極(きわ)めて激しいさま。 【例文】激烈な痛みが襲(おそ)う。
うかがい知れない	【意味】外面的な様子からは状況(じょうきょう)を見て取ることができない。 【例文】彼の思いは、表情からはうかがい知れない。

大人になれなかった弟たちに……

語句	説明
真っ最中	【意味】物事が最も盛んに行われているとき。 【関連語】真っ赤…非常に赤いこと。 真っ暗…なにも見えないほど暗いこと。 真っ先…一番初めであること。
おちおち	【意味】（後に打ち消しの語を伴って）落ち着いて、安心して。 【例文】心配で、おちおち寝ていられない。
とうてい	【意味】（後に打ち消しの語を伴って）どうしても。どうやってみても。 【例文】私にはとうてい理解できない。
はるばる	【意味】距離などが非常に遠くはなれているさま。 【例文】友人がはるばる遠くから会いに来てくれた。
……なり	【意味】……するとすぐに。 【例文】兄は学校から帰るなり、遊びに出かけた。
胸を弾ませる	【意味】喜びや期待で心がうきうきする。 【関連語】胸が痛む…悲しみなどでつらく思う。 胸がいっぱいになる…ある感情で心が満たされる。 胸を打つ…強く感動させる。
独特	【意味】ある特徴をそのものだけがもっていること。 【類義語】特有
みとる	【意味】そばで看病する。また、病人の死期に付き添う。 【例文】看護師にみとられる。
ひもじい	【意味】ひどく空腹である。 【例文】子供の頃、ひもじい思いをした。

高じる	【意味】程度がひどくなる。 【例文】無理をしたせいで病が高じる。
誤解	【意味】意味を取り違(ちが)えること。間違って理解すること。 【例文】相手の真意を誤解していた。
意地を張る	【意味】自分の思いを頑固(がんこ)に押(お)し通そうとする。 【例文】つまらないことで意地を張る。
なだめる	【意味】気持ちを落ち着かせる、静める。 【例文】泣いている子どもをなだめる。
とまどう	【意味】どうしてよいかわからず迷う、まごつく。 【例文】急な出来事にとまどった。
きまりが悪い	【意味】体裁(ていさい)が悪く、恥(は)ずかしい。その場を取り繕(つくろ)うことができず、恥ずかしい。 【例文】泣いているところを見られ、きまりが悪い。
繊細(せんさい)	【意味】感情などが細やかで少しのことで感じやすいこと。 【例文】彼(かれ)は繊細な性格だ。
輪郭(りんかく)	【意味】物の外形を形作っている線。 【例文】顔の輪郭を描(えが)く。
なじむ	【意味】慣れ親しむ。よく慣れて違和(いわ)感がなくなる。 【例文】新しい猫(ねこ)もすっかりわが家になじんだ。
意外	【意味】思っていたことと違うこと。思いのほか。 【類義語】案外
にじむ	【意味】（液体が）うっすら染(し)み出て広がる。 【例文】額に汗がにじむ。

首をかしげる	【意味】不思議、疑わしいなどの思いで首をかたむける。 【関連語】首を縦に振(ふ)る…相手に同意・賛成の意を示す。 首を横に振る…相手に不賛成・不満の意を示す。 首をひねる…納得(なっとく)できず疑問に思う。どうすればよいかと考え込(こ)む。
またたく	【意味】光がちらちらする。 【例文】夜空に星がまたたく。

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

分布	【意味】動植物などがある範囲に存在すること。 【例文】南西諸島のみに分布する植物。
耳を澄ます	【意味】聞きとろうとして注意を集中する。 【例文】鳥のさえずりに耳を澄ます。
転機	【意味】他の状態に変わるきっかけ。 【例文】人生の転機を迎える。
けたたましい	【意味】急に驚くような大きな音がするさま。 【類義語】やかましい・騒がしい・騒々しい
分析	【意味】物事をいくつかの要素に分け、性質や構造を明らかにすること。 【例文】成分を分析する。
仮説	【意味】ある現象を説明するために仮に立てた説。 【例文】仮説を立てたうえで実験に取り組む。
定義	【意味】ある物事の内容や意味を、言葉で明確に限定すること。 【例文】二等辺三角形を定義する。
検証	【意味】実験や観察の結果と照らし合わせて、仮説の真偽を確かめること。 【例文】自分の考えが正しいかどうか検証する。
実証	【意味】事実をもとにして証明すること。 【例文】理論が正しいことを実証した。

「不便」の価値を見つめ直す

けげん	【意味】理由や事情がわからず、納得がいかないさま。 【例文】質問の意図がわからず、けげんな顔をする。
追求	【意味】目的のものを得ようと追い求めること。 【例文】真の幸福を追求する。
複雑	【意味】物事の事情が入り組んで、込み入っていること。 【対義語】単純
確かに、…… しかし、……	【例文】確かに、効率化も必要である。しかし、それによって失われるものにも目を向けるべきである。
見過ごす	【意味】見ていながら気づかないでいる。 【関連語】見落とす…見ていながらそれに気づかずにいる。 見のがす…見ていながら気づかない。また、何もしない。 見誤る…見方を間違える。見て他のものと間違う。
一般に	【意味】大体においては。普通は。 【例文】一般に、書き言葉では共通語が用いられる。
具体的	【意味】はっきりとわかる形や内容を備えているさま。 【対義語】抽象的
普及	【意味】広く行き渡ること。 【例文】スマートフォンが普及する。
実践	【意味】考えたことなどを実際に行うこと。 【例文】学んだことを実践する。
負担	【意味】仕事や責任などを引き受けること。また、課せられた仕事、義務、責任など。 【例文】この仕事は肉体的にも精神的にも負担が大きい。

少年の日の思い出

語句	意味・例文
色あせる	【意味】色が薄(うす)くなり、鮮(あざ)やかさや美しさ、新鮮(しんせん)さがなくなる。 【例文】昔の思い出が色あせる。
よみがえる	【意味】衰(おとろ)えたものが、また盛(さか)んになる。元(もと)に戻る。 【例文】突然(とつぜん)十年前の記憶(きおく)がよみがえった。
たちまち	【意味】またたく間に。すぐに。 【例文】うわさはたちまち町中に広がった。
熱情（的）	【意味】ある物事に向けられる燃えるような激しい感情。 【例文】熱情的な演奏が心に響(ひび)いた。
けがす	【意味】美しいもの、清らかなものをよごす。 【例文】美しい思い出をけがす。
打ち込(こ)む	【意味】ある事に集中する、熱中する。 【例文】中学校の三年間、吹奏楽(すいそうがく)に打ち込んだ。
身にしみる	【意味】しみじみと深く感じる。 【例文】友人の優(やさ)しい言葉が身にしみた。
むさぼる	【意味】いくらでも欲(ほ)しがる。飽(あ)きることなく続ける。 【例文】むさぼるように本を読んだ。
微妙(びみょう)	【意味】簡単には言い表せないほど細かく、複雑なさま。 【例文】類義語でも使い方に微妙な違(ちが)いがある。
非の打ちどころがない	【意味】非難するところがない。欠点が全くない。 【例文】彼女(かのじょ)の演奏は非の打ちどころがない。
悪徳	【意味】道徳に反する悪い心や行い。 【対義語】美徳
あいにく	【意味】期待にはずれており、具合が悪いさま。 【例文】友人を訪ねたが、あいにく不在だった。

語句	意味・例文
良心	【意味】善悪をわきまえ、正しく行動しようとする心。 【例文】すべての裁判官は、良心に従って職務を行う。
下劣(げれつ)	【意味】品性が劣(おと)っている。下品でいやしいこと。 【例文】そういう下劣なやり方には賛成できない。
……ばかり	【意味】今にも……しそうである。 【例文】泣かんばかりの表情になった。
告白	【意味】思っていたことや秘密にしていたことを打ち明けること。 【関連語】白状…自分の罪や隠(かく)しごとを申し立てること。 独白…相手なしに、一人で語ること。 表白…言葉や文章に表して述べること。
しのぶ	【意味】じっと我慢(がまん)する。こらえる。 【例文】恥(はじ)をしのんでお願いする。
おそらく	【意味】たぶん。おおかた。 【例文】明日はおそらく雪になるだろう。
丹念(たんねん)	【意味】細かいことまで注意をはらうこと。心を込めて丁寧(ていねい)に行うさま。 【例文】部屋の中を丹念に調べる。
……よしもない	【意味】……するための手段や方法がない。 【例文】彼(かれ)の思いは知るよしもない。
冷淡(れいたん)	【意味】思いやりや関心がなく、冷ややかなこと。 【例文】彼は私に対して冷淡な態度で接してきた。
冷然	【意味】冷ややかで平然としているさま。 【例文】彼は申し出を冷然と無視した。

……を盾（たて）に	【意味】……を理由に、口実に。……を自分の立場の拠（よ）り所として。 【例文】法律を盾に受け渡（わた）しを拒否（きょひ）する。
あなどる	【意味】人を軽くみてばかにする。 【例文】幼いからといって、あなどってはいけない。
根掘（ほ）り葉掘り	【意味】細かい点までしつこく。 【関連語】根も葉もない…なんの根拠（こんきょ）もない。 根を下ろす…草木が根づく。また、あるものが定着する。 根を張る…草木が根を十分にのばす。また、あるものが社会に浸透（しんとう）する。勢力が広がる。

二十歳になった日

地道	【意味】手堅（てがた）く着実に物事を進めること。地味で真面目なこと。 【例文】地道な努力が実を結ぶ。
尊い	【意味】敬うべきもの、大切にすべきものであるさま。 【例文】普通（ふつう）の生活は尊いものである。
いとおしい	【意味】いとしい、かわいらしい。大事にしたいものだと感じるさま。 【例文】孫をいとおしいと感じる。

[メモ]

[メモ]

写真　アフロ

参考文献　小学館『新編 日本古典文学全集』

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。